

FAX System (L)

使用説明書

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。
お読みになった後は、機械本体の使用説明書といっしょに大切に保管してください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows NT および Internet Explorer は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows Me および Windows XP は、Microsoft Corporation の商標です。
- Ethernet はゼロックス社の登録商標です。
- IBM ならびに IBM PC/AT は、米国 IBM International Business Machines Corporation の商標です。
- Adobe、Acrobat は、アドビシステムズ社の登録商標です。

その他、本使用説明書中に記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中には TM および ® は明記しておりません。

日本語変換はオムロンソフトウェア(株)のモバイル W n n を使用しています。

“Mobile Wnn” (c) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999-2002 All Rights Reserved

FAX System (L) をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

この使用説明書は、ファクスを良好な状態でご使用いただくために、正しい操作方法・日常の手入れおよび簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。また、お読みになった後は、本体の使用説明書といっしょに大切に保管してください。

この使用説明書及び本製品への表示では、本製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



危険：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



「注意一般」、



「感電注意」、



「高温注意」

○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。



「禁止一般」、



「分解禁止」

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。



「強制一般」、



「電源プラグをコンセントから抜け」、



「必ずアース線を接続せよ」

本製品使用時の汚れなどによって本使用説明書の注意・警告事項が判読できない場合や、本使用説明書を紛失した場合には、弊社製品取り扱い店等へご連絡の上、新しい使用説明書を入手してください。（有償）

〈お願い〉

使用説明書の内容は、機械性能改善のために、予告なく変更する場合がありますので御了承ください。

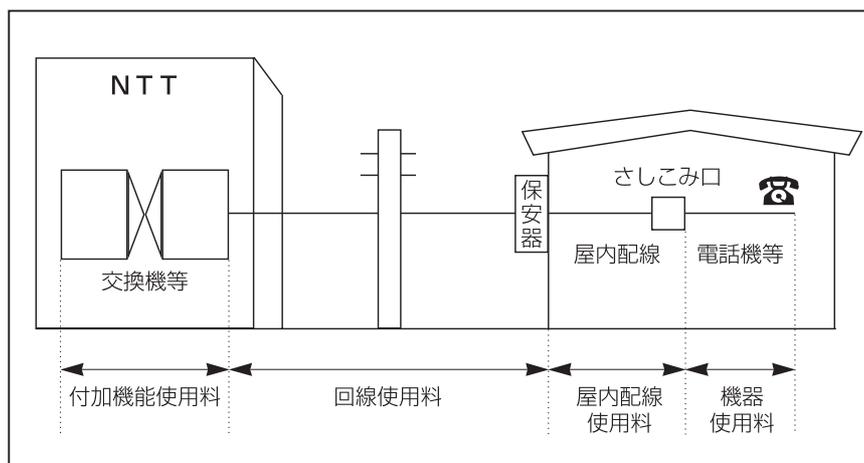
ご使用にあたってのお願い

本品をご使用にあたって、N T Tのレンタル電話機が不要となる場合は、N T Tへご連絡ください。
ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。
詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

【電話料金の内訳】

①回線使用料	ご契約者名簿により住宅用と事務用に区分され、回線使用料が異なります。
②屋内配線使用料	保安器から屋内の電話さしこみ口までの屋内配線をN T Tからレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
③機器使用料	N T Tの電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
④付加機能使用料	プッシュ回線、キャッチホン、クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。

【N T Tの基本料などのしくみ】



本書の構成

本書は、機械本体にオプションの FAX System (L) を装着した場合に使用可能となるファクス機能についての説明です。

本書では、初めてファクスを使う方から、機械の操作に手慣れた方までが、戸惑いなくお使いになれるように、いくつかの章に分けて説明しています。

以下に各章の内容を記しますので、本書をご利用になる際の参考にしてください。

重要です！

まず初めにお読みください

本ファクスシステムをご購入後、必ず知っておいていただきたいことについて説明しています。ファクスを取り扱う際の注意事項など、安全にお使いいただくために必ずお守りいただきたい事項を記載しています。

本体の基本編の使用説明書の安全上の注意事項と合わせて、必ずお読みください。

1 名称・準備・特徴

各部の名称やはたらき、そして実際にお使いになる前の設定・準備事項について説明しています。

また、本機の特徴についても説明していますので一緒にお読みください。

2 基本編

「原稿を送る」、「原稿を受ける」といったような一般的なファクスの使い方について説明しています。基本的な機能はこの章を読んでもいただければご使用いただけます。

3 活用編

ファクスの使い方に少し慣れたら、この活用編の機能にチャレンジしてみましよう。送る時刻を指定したり、同じ原稿を複数の相手先に連続して送ったり、両面原稿をそのまま送信したり、今までよりもっと効率的にファクスを使うことができるようになります。

4 こんなときには

ご使用中にトラブルが発生したときは、まずこの章をお読みください。エラーメッセージに対する処置方法や、各機能を設定する際の確認事項が記載されています。処置方法や確認事項をよくお読みになり、正しい処置を行ってください。

5 応用編

本機を使いこなせる自信のある方は、この応用編の機能にチャレンジしてみましよう。送信先や受信先を制限したり、極秘文書を誰にも見られることなく受け取ったり、といった高度なファクス通信を行うことができます。

また、本機には他社機と互換性のある F コード通信機能や、ファクスの通信状況を把握するのに便利な部門管理機能も搭載されています。

6 通信情報の管理

最近行われた送受信の状況をメッセージ表示で確認する方法を説明しています。

また、通信結果や機械の設定・登録状況を把握するための管理レポート類の出力方法についても説明しています。

7 各種設定と登録

エラー時に発生するブザー音の音量を調整するなど、機械や機能に関する各種の設定や登録について説明しています。

本機のご使用状況に応じて、設定・登録を行ってください。

8 オプション

オプションのハンドセットの使い方やオプション機器を装着した場合に使える機能について説明しています。また、オプションメモリを装着した場合に使える機能について説明しています。これによって、受信した原稿を用紙の表裏に印字する両面受信機能や、よりきれいな送信・受信が可能となるウルトラファインモードが使えるようになります。

9 Network FAX 設定 (オプション)

機械本体にネットワークスキャナ (オプション) を装着し、Network FAX 機能を使用する方法として、セットアップ方法および本体の設定方法について説明しています。付属の CD-ROM に納められている使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル) も合わせてお読みください。

10 ご参考

この章には、本ファクスシステムの仕様を記載しています。

また、付録としてメニュー構成一覧、エラーコード一覧表を記載しています。ご使用になられる際の参考資料としてご活用ください。

目次

重要です！ まず初めにお読みください	viii
⚠ 機械を設置するときのご注意	viii
⚠ 取り扱い上のご注意	ix
1 ファクスの操作方法（名称・準備・特徴）	1-1
機械各部の名称	1-1
本体各部の名称とはたらき	1-1
操作パネルの名称とはたらき	1-3
準備しましょう	1-7
電話回線の種類を設定する（電話回線種別設定）	1-7
発信元記録を設定する（発信元記録設定）	1-8
こちらの情報を登録する（自局情報登録）	1-9
日付と時刻を登録する（日時登録）	1-11
本機の特徴について	1-12
コピーモードからファクスモードへの移行	1-12
初期モードについて	1-13
暗証番号について	1-13
[リセット] キーを押したとき	1-14
自動的に設定をリセットする（オートクリア機能）	1-14
3桁の番号で文書を管理する（文書番号）	1-14
自動的に節電モードに移行する（オートスリープ機能）	1-15
ネットワーク上の PC から送信する（Network FAX 機能 [オプション]）	1-16
デュアルアクセス機能	1-17
複数の原稿を一括で送信する（一括送信機能）	1-20
原稿を回転して送信する（回転送信機能）	1-20
F コードで相手先を確認する（F コード通信機能）	1-21
用紙が無くても受信する（代行受信機能）	1-21
停電時にもメモリをバックアップする（画像メモリバックアップ機能）	1-21
セットされている用紙に合わせて回転受信する（回転受信機能）	1-22
NTT の F ネットを使用する（F ネット無鳴動受信機能）	1-22
2 ファクスの操作方法（基本編）	2-1
自動で送信する	2-1
自動で受信する（FAX 専用自動受信）	2-9
通信を中止する	2-11
メモリ送信の中止のしかた	2-11
ダイレクト送信の中止のしかた	2-12
受信の中止のしかた	2-12
コピー中に受信原稿を出力する（ファクス優先出力）	2-14
受信原稿出力中にコピーする（コピー優先出力）	2-14
文字を入力する	2-15
配置文字と機能キーの働き	2-15
文字入力モードの切り替え方	2-16
入力のしかた	2-17

ワンタッチキーで送信する（ワンタッチダイヤル）	2-22
登録のしかた	2-22
内容の変更と削除のしかた	2-25
使いかた	2-26
ワンタッチダイヤルリストの出力のしかた	2-27
3桁の数字で相手先にダイヤルする（短縮ダイヤル）	2-28
登録のしかた	2-28
内容の変更と削除のしかた	2-31
使いかた	2-32
短縮ダイヤルリストの出力のしかた	2-33
宛先帳でダイヤルする（宛先帳）	2-34
宛先帳の使用のしかた	2-34
宛先帳リストの出力のしかた	2-36
同じ相手にダイヤルする（リダイヤル）	2-37
自動リダイヤルのしかた	2-37
手動リダイヤルのしかた	2-37
3 ファクスの操作方法（活用編）	3-1
両面原稿を送信する（両面送信）	3-1
通信中に次の原稿を予約する（送信予約）	3-3
たくさんの相手先に送信する（順次同報送信）	3-5
別の原稿を優先して送信する（割込送信）	3-7
指定の時間に送信する（時刻指定通信）	3-8
登録したダイヤルとテンキーでダイヤル（チェーンダイヤル）	3-10
登録のしかた	3-10
内容の変更と削除のしかた	3-12
使いかた	3-13
予約中の原稿を編集する（メモリ編集）	3-14
通信原稿の印字のしかた	3-14
通信の即時実行のしかた	3-15
通信内容の変更のしかた	3-16
通信の削除のしかた	3-21
手動で送信する（手動送信）	3-22
手動で受信する（手動受信）	3-23
4 こんなときには	4-1
メモリ表示が点灯しているとき	4-1
電源を切るときの注意	4-1
電源断レポートが出力される時	4-1
エラー表示が点灯したとき（アラーム音が鳴ったとき）	4-1
こんな表示が出たときは	4-2
“故障かな？”と思ったら	4-4
5 ファクスの操作方法（応用編）	5-1
ファクスと電話を自動で切り替える（FAX/TEL 自動切替受信）	5-1
ファクスと留守番電話を自動で切り替える（FAX/留守番電話自動切替受信）	5-3

ファクス番号と電話番号を使い分けする (ダイヤルイン)	5-5
ダイヤルイン FAX 番号の登録のしかた	5-5
ダイヤルイン TEL 番号の登録のしかた	5-6
ダイヤルイン設定のしかた	5-7
接続した電話機から受信を開始させる (リモート切替機能)	5-8
リモート切替ダイヤルの登録のしかた	5-8
使いかた	5-9
相手の操作で通信を開始する (ポーリング通信)	5-10
ポーリング送信のしかた	5-10
ポーリング受信のしかた	5-12
F コードを使って通信する (F コード通信)	5-15
F コードについて	5-15
F コードボックスについて	5-16
親展で通信する (F コード親展通信)	5-17
F コード親展ボックスの登録のしかた	5-17
F コード親展ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた	5-18
F コード親展送信のしかた	5-20
F コード親展ボックスからの出力のしかた	5-22
F コード親展ボックスリストの出力のしかた	5-23
F コード親展ボックスへの原稿の入力のしかた	5-24
F コード掲示板受信のしかた	5-26
中継機で原稿を転送する (F コード中継同報指示送信)	5-27
F コード中継ボックスの登録のしかた	5-27
F コード中継ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた	5-30
F コード中継同報指示送信のしかた	5-31
F コード中継ボックスリストの出力のしかた	5-34
受信した原稿を他のファクスに転送する (メモリ転送)	5-35
登録のしかた	5-35
登録内容の変更のしかた	5-37
メモリ転送設定のしかた	5-38
複数の相手先をグループで送信する (グループダイヤル)	5-39
登録のしかた	5-39
登録内容の変更と削除のしかた	5-41
使いかた	5-42
グループダイヤルリストの出力のしかた	5-43
送信内容をプログラムにする (プログラムダイヤル)	5-44
登録のしかた	5-44
登録内容の変更と削除のしかた	5-51
使いかた	5-52
プログラムダイヤルリストの出力	5-53
パスワードが一致したときだけ通信を行う (パスワードチェック通信)	5-54
許可 TEL 番号の登録のしかた	5-54
許可 TEL 番号の変更 / 削除のしかた	5-56
許可 ID の登録のしかた	5-57
許可 ID の変更 / 削除のしかた	5-58
パスワードチェック通信設定のしかた	5-59

原稿を暗号化して通信する（暗号通信）	5-61
暗号鍵の登録のしかた	5-62
暗号鍵の登録内容の変更／削除のしかた	5-64
暗号ボックスの登録のしかた	5-65
暗号ボックスの登録内容の変更／削除のしかた	5-66
送信側の操作のしかた	5-68
受信側の操作のしかた	5-69
暗号ボックスからの出力のしかた	5-70
暗号鍵リストの出力のしかた	5-71
暗号ボックスリストの出力のしかた	5-72
部門ごとに使用を管理する（部門管理機能）	5-73
部門管理モードからファクスを使用するとき	5-74
部門管理レポートの出力のしかた	5-75
6 通信情報の管理	6-1
通信結果の内容を確認する（通信結果表示）	6-1
送信結果表示のみかた	6-1
受信結果表示のみかた	6-2
通信管理レポートを出力する（管理レポートの出力）	6-3
通信管理レポートの出力のしかた	6-3
通信予約確認レポートの出力のしかた	6-4
ユーザー設定リストの出力のしかた	6-4
7 各種設定と登録	7-1
各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）	7-1
掲示板機能の設定をする（掲示板設定）	7-3
呼び出しベルの回数を設定する（ファクス専用自動受信）	7-4
呼び出しベルの回数を設定する（FAX/留守番電話自動切替受信）	7-5
呼び出しベルの回数を設定する（FAX/TEL 自動切替受信）	7-6
相手先の名称を確認してダイヤルする（ダイヤル確認設定）	7-7
スピーカの音量を調節する（音量調整）	7-8
原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読込設定）	7-10
送信方法の初期値を設定する（送信モードの初期値設定）	7-11
受信方法を設定する（受信モード設定）	7-12
受信した日時の記録方法を設定する（受信日時記録設定）	7-13
使用する用紙を設定する（ファクス給紙設定）	7-14
2枚の原稿を1枚にまとめて受信する（2 in 1 受信設定）	7-16
ファクス通信網を使用して受信する（F ネット無鳴動受信設定）	7-17
宛先帳のタグを選択する（宛先帳タグ設定）	7-18
年月日の表示のしかたを設定する（年月日表示設定）	7-19
サービスセンターから通信で機械を診断する（リモート診断設定）	7-20
リモート診断のための ID を登録する（個別 ID 登録）	7-21
受信サイズを等倍、縮小から選択する（受信サイズ設定）	7-22
受信原稿を一括で出力する（ファクス受信一括出力設定）	7-23

8	オプション	8-1
	ハンドセット	8-1
	各部の名称とはたらき	8-1
	電話のかけかた	8-2
	両面ユニット	8-3
	2枚の受信原稿を両面に記録する（両面受信設定）	8-3
	オプションメモリ	8-4
9	Network FAX 設定（オプション）	9-1
	セットアップの方法	9-2
	本体とコンピュータの接続	9-3
	本体での初期設定	9-4
	Network FAX 受信設定のしかた	9-4
	送信原稿保存設定のしかた	9-5
	ファイル形式設定のしかた	9-6
	Network FAX 設定リストの出力のしかた	9-7
10	ご参考	10-1
	仕様	10-1
	メニュー構成一覧	10-2
	出荷値設定一覧表	10-6
	受信サイズと出力用紙優先順位表	10-7
	区点コード表	10-8
	エラーコード一覧表	10-14
	索引	10-18

重要です！ まず初めにお読みください

本書は、ファクス機能についての説明書です。

ご使用前には必ず**本体の基本編の使用説明書**と合わせてお読みいただき、またお読みになった後は機械の近くに大切に保管してください。

ご使用にあたって、下記の内容については**本体の基本編の使用説明書**をお読みください。

 注意ラベルについて

 機械を設置するときのご注意

 取り扱い上のご注意

用紙の補給

トナーコンテナと廃棄トナーボックスの交換

紙詰まりが発生したら

トラブルが発生した場合

機械の清掃のしかた

機械を設置するときのご注意

■ 設置環境について

- 本製品は、外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所への設置は避けてください。光の関係で原稿サイズを誤検知する場合があります。設置場所を変更できないときは、弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。

■ 設置電源・アースについて

- 複写機や空調機器と同じ系統の電源は避けてください。

取り扱い上のご注意

注意



原稿送り装置を開いた状態のまま、放置しないでください。けがの原因となることがあります。

その他の注意事項

- 送／受信中やコピー中には次のことをしないでください。
 - 本体を開ける。
 - メインスイッチを切る。
 - 電源プラグを抜く。
- 本製品は日本国内でのみ使用が可能です。海外では安全規格や回線が異なり使用できません（国際電話回線により国内から海外への交信は可能です）。
- 電話回線や通信事情の悪い地域ではご使用になれない場合があります。
- キャッチホンサービスをご利用されている場合、ファクス送／受信中に電話がかかってくると、割り込み信号が入るため、送／受信がうまく行えないことがあります。
- 機械がいかなる状態のときであっても、機械内部のモーターの駆動音が聞こえるときは、前カバーや左カバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。

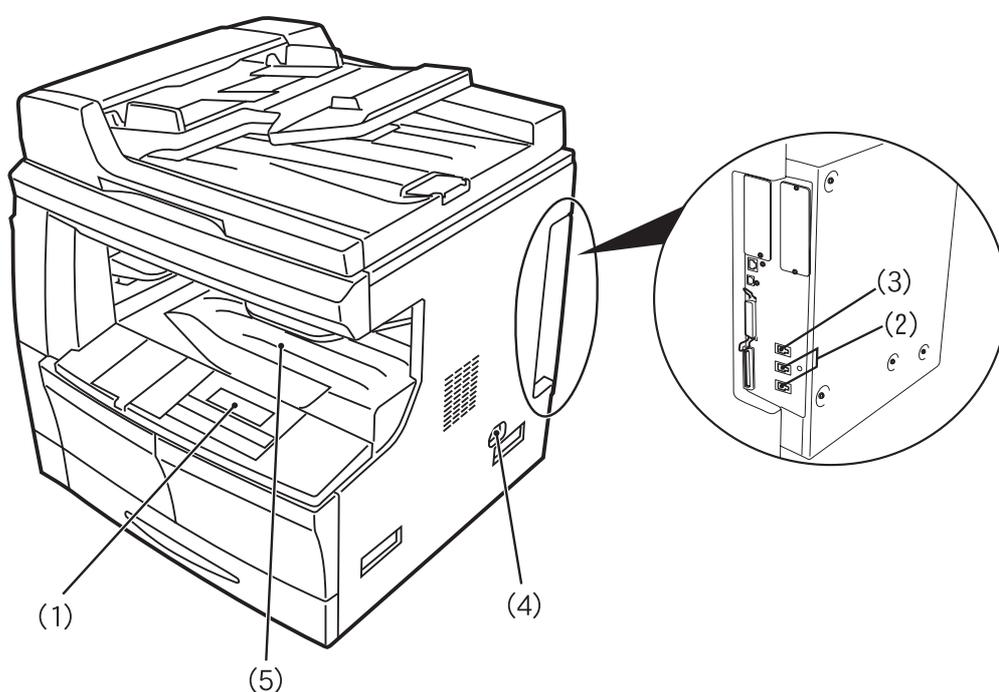
1 ファクスの操作方法（名称・準備・特徴）

機械各部の名称

本体各部の名称とはたらき

本機をファクスとして利用する場合に使用する部位について説明しています。

その他の部位についての説明は、**本体の基本編の使用説明書**を参照してください。

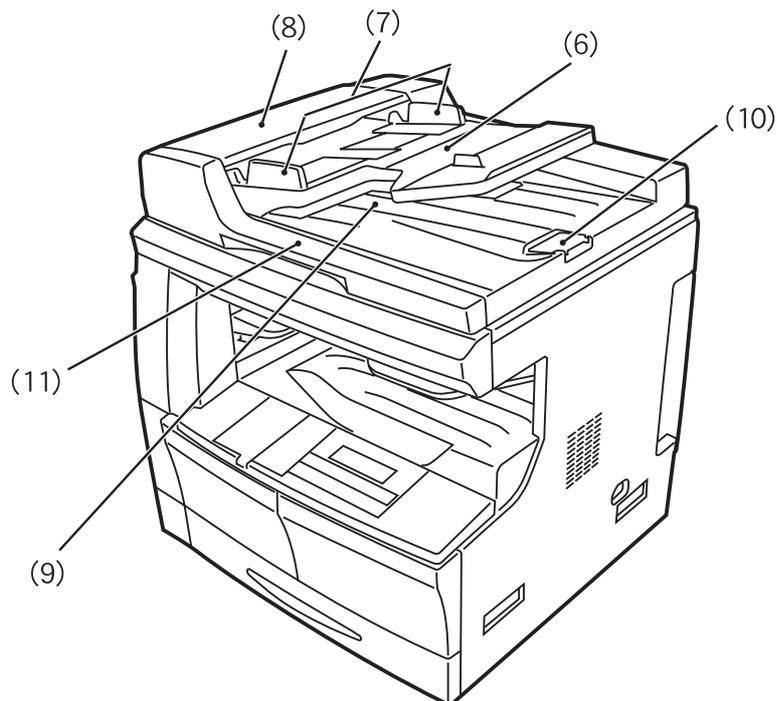


1. 操作パネルーファクスの操作はここで行います。
2. TEL 接続コネクタ (T₁、T₂)ーオプションのハンドセットや市販の電話機を併用する場合は、ここに接続してください。
3. LINE 接続コネクタ (L)ー電話回線用のモジュラーコードを接続してください。
4. メインスイッチーファクスやコピーの操作を行うときは、このスイッチをオン (1) にしてください。メッセージ表示が点灯し、機械の操作が可能になります。
5. コピー収納部ー受信した記録紙はここに収納されます。

- ご注意
- メインスイッチが OFF(O) のときには受信が行われませんのでご注意ください。電源を OFF にする場合は [電源] キーを押してください。
 - ファクスを使用するときは、手差しからの用紙は使用できません。

●原稿送り装置

片面原稿と両面原稿の両方で使用できる両面原稿送り装置です。

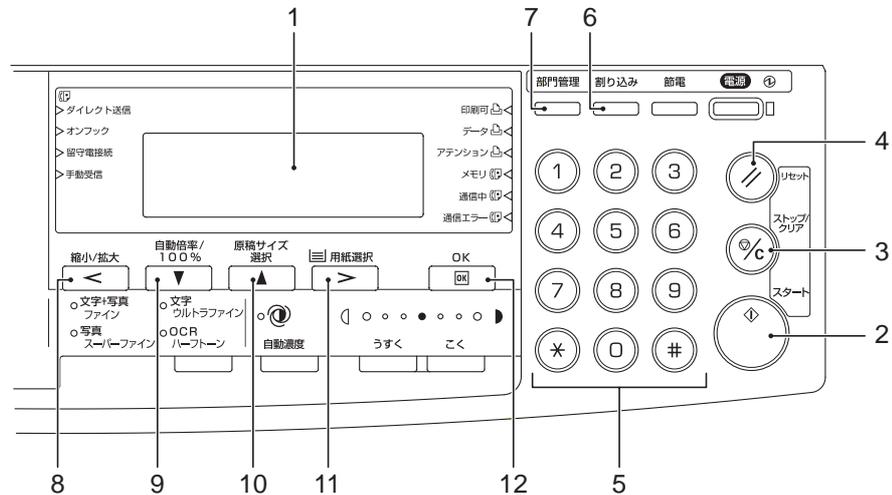


6. 原稿テーブル—ここにシート原稿を重ねてセットしてください。A5R～A3サイズ
の用紙が50枚までセットできます。
7. 原稿挿入ガイド—原稿幅に合わせて調節してください。
8. 原稿送り装置原稿反転カバー—原稿送り装置部で原稿が詰まったときに開いてくだ
さい。
9. 原稿排出カバー—読み込みが終わった原稿はここに排出されます。
10. 排出ガイド—A3およびB4の原稿をセットするときはこのガイドを開いてくださ
い。
11. 原稿送り装置開閉取手—原稿送り装置を開閉するときは、この取手を持ってくださ
い。

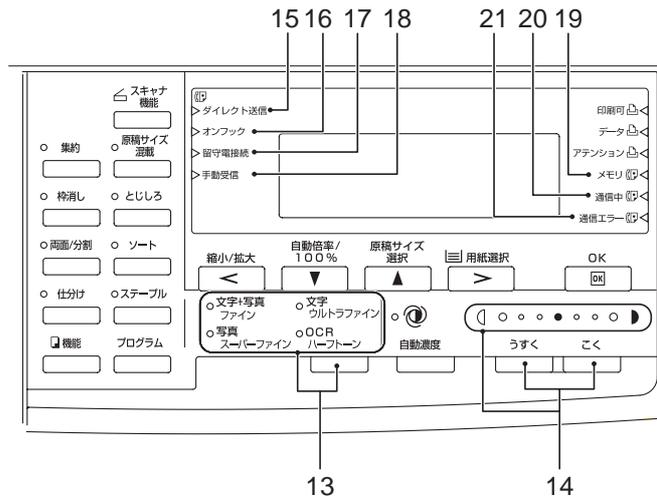
操作パネルの名称とはたらき

本機をファクスとして利用する場合に使用するキーや表示について説明しています。

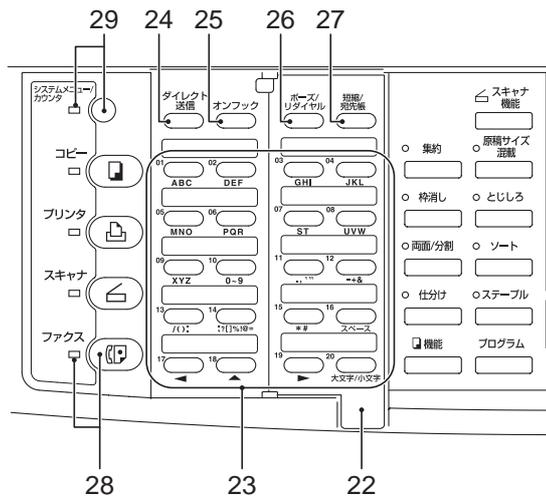
コピーをとる際に使用するキーについての説明は、**本体の基本編の使用説明書**を参照してください。



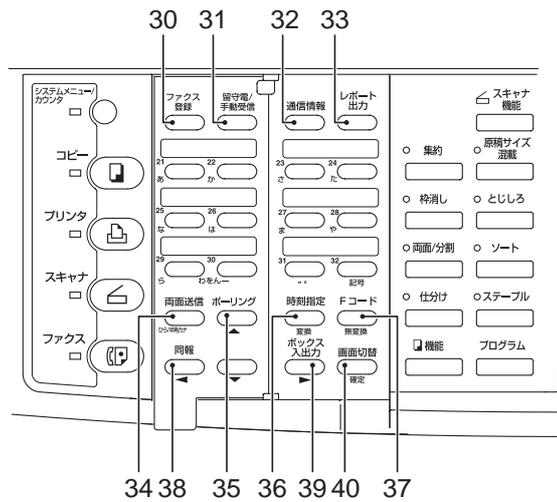
1. **メッセージ表示**—操作の手順や不具合などを表示します。
2. **スタートキー**—ファクスの通信を開始するときに押してください。
3. **ストップ/クリアキー**—機械の操作を中断するときに押してください。入力した内容を訂正したいときに押すと、一つ前の操作に戻すことができます。但し、[OK]キーを押して入力内容を確定した後は戻すことができません。また、ダイヤル登録時などに登録番号を消去するときにも使用します。
4. **リセットキー**—このキーを押すと、機械は操作を中止し、初期モードに戻ります。
5. **テンキー**—相手先のファクス番号を入力するときなどに使用します。
ダイヤル回線利用時でも相手先応答後に[*]キーを押すと、それ以降の番号をトーン信号で送出させることができます。
6. **割り込みキー (表示)**—ファクスの受信中に割り込んでコピーをとりたいときに押してください。割り込みモードになると、割り込み表示が点灯します。
7. **部門管理キー**—部門管理モードの場合、コピー終了時に押してください。部門コード入力画面になります。(詳細は**本体の応用編の使用説明書**を参照してください。)
8. **<キー**—メッセージ表示に表示されるカーソルを左に移動させるときに押してください。
9. **▼キー**—メッセージ表示に表示されるカーソルを下に移動させるときに押してください。
10. **▲キー**—メッセージ表示に表示されるカーソルを上を移動させるときに押してください。
11. **>キー**—メッセージ表示に表示されるカーソルを右に移動させるときに押してください。
12. **OK キー**—操作時、次の手順に進むときや各種機能の登録・設定時に設定した内容を確定するときに押してください。



13. **画質選択キー (表示)** - 原稿の画質を選択するときに押してください。
 ノーマル、ファイン、スーパーファイン、ウルトラファイン、ハーフトーンの5つの中から画質を選択できます。通常はノーマルモードが設定されており、表示は全て消灯しています。ノーマルモード以外の画質を選択するときは、該当する表示を点灯させてください。
14. **原稿濃度調整キー (表示)** - このキーを押すと、原稿読み取り時の濃度を濃くしたり薄くしたりすることができます。原稿の読み取り時の濃度を3段階で表示します。通常、表示は中央が点灯しています。原稿濃度調整キーを押して右端の表示が点灯すると原稿読み取り時の濃度が濃くなり、左端の表示が点灯すると原稿読み取り時の濃度は薄くなります。
15. **ダイレクト送信表示** - ダイレクト送信モードのとき点灯します。消灯しているときはメモリ送信モードです。
16. **オンフック表示** - [オンフック] キーが押されてオンフック状態になると点灯します。
17. **留守電接続表示** - FAX / 留守番電話自動切替受信モードのとき点灯します。
18. **手動受信表示** - 手動受信モードのとき点灯します。
19. **メモリ表示** - メモリ内に出力待ちの原稿があるときや、予約された待機通信があるときに点灯します。なお、原稿読み取りや受信によってメモリへのデータ蓄積 (記憶) 中は点滅します。
20. **通信中表示** - 相手先との通信中は点灯します。また、オプションのハンドセットや併用電話機 (市販品) の使用中は点滅します。
21. **通信エラー表示** - 通信中にトラブルが発生したときに点灯します。



22. カバープレート—使用するワンタッチキーの番号に応じて、タブのところを手でつまんで左右に開いてください。順次同報などの各種機能キーを使用する際は、カバープレートを左に開いてください。
23. ワンタッチキー（1～32）—32個のワンタッチキーを使うことができます。カバープレートを右側に開いて1～20番のワンタッチキー、左側に開いて21～32番のワンタッチキーが配置されています。1つのワンタッチキーには、ワンタッチダイヤル、プログラムダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤルのうち、どれか1つだけを登録することができます。また、ワンタッチキーは相手先などの名称入力時にも使用します。
24. ダイレクト送信キー—メモリ送信モードとダイレクト送信モードを切り替えるときに押してください。
25. オンフックキー—このキーを押すと、受話器を置いたままでも、上げたときと同じ状態になります。もう一度押すと、オフフック状態にもどります。
26. ポーズ/リダイヤルキー—ダイレクト送信時に押すと、直前にダイヤルした番号を再びダイヤルします。また、相手先の番号入力時に押すと、ダイヤルする番号と番号の間にポーズ（数秒間の間隔）を入れることができます。ポーズを入れると、メッセージ表示にはそれを示す「-」が表示されます。
27. 短縮/宛先帳キー—短縮ダイヤルや宛先帳機能を使用するときに押してください。
28. ファクスキー（表示）—ファクスモードに切り替えるときに押してください。ファクスモードのときは、ファクス表示が点灯します。
29. システムメニュー/カウンタキー（表示）—部門管理や初期設定など機械の設定を行うときに押してください。（詳細は本体の応用編の使用説明書を参照してください。）



30. **ファクス登録キー**—ファクスについての登録を行うときに押してください。
31. **留守電 / 手動受信キー**—受信モードを選択するときに押してください。留守電接続表示が点灯するときは FAX/ 留守番電話自動切替受信が、手動受信表示が点灯するときは手動受信が、両方の表示が消灯しているときは自動受信がそれぞれ選択されています。
32. **通信情報キー**—送信や受信が正常に行われたか、その結果を知りたいときに押してください。送信、受信とも最近行われた 50 件分の通信結果をメッセージ表示で確認することができます。また、メモリ内に予約されている待機通信について、通信をキャンセルしたり、通信内容の変更を行うときにも使用します。
33. **レポート出力キー**—各種レポートやリストを出力したいときに押してください。
34. **両面送信キー**—両面原稿を送信するときに押してください。
35. **ポーリングキー**—ポーリング通信を行うときに押してください。
36. **時刻指定キー**—時刻を指定して通信を行うときに押してください。
37. **F コードキー**—F コード通信を行うときに押してください。
38. **同報キー**—順次同報送信を行うときに押してください。
39. **ボックス入出力キー**—親展通信を行うときに押してください。
40. **画面切替キー**—原稿の送信とコピーなど、2 つの処理が同時並行で行われているとき (デュアルアクセス時) に押すと、押している間だけ同時並行で行われている別の動作 (裏動作) のメッセージ表示画面に切り替えることができます。

参考 文字入力の場合は、2-15 ページの文字を入力するを参照してください。

準備しましょう

ファクスシステムを導入後、本機をファクスとして初めてご使用になる場合は、以下に続く「電話回線種別設定」から「日時登録」の操作を、それぞれの操作説明にしたがって行ってください。

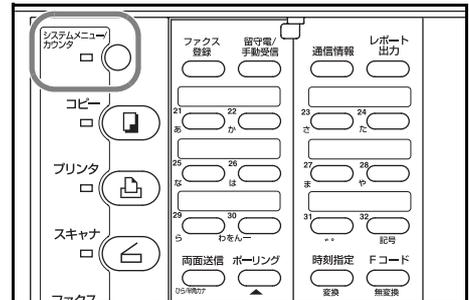
参考 ファクスシステムの設置にお伺いしたサービス担当者がこれらの作業をする場合、導入時にお客様が操作を行う必要はありません。

電話回線の種類を設定する (電話回線種別設定)

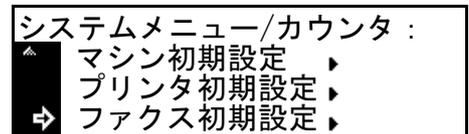
電話会社と契約されている電話回線の種別に合わせて設定を行ってください。この回線種別を誤って選択すると、ファクスを送信したり、受信したりすることができませんのでご注意ください。

- 参考**
- 操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。
(1-13 ページの初期モードについて参照)
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。初期モードに戻ります。

1 [システムメニュー] キーを押してください。



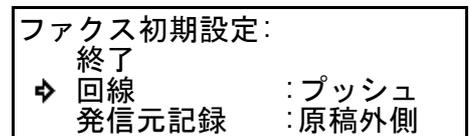
2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



3 [OK] キーを押してください。

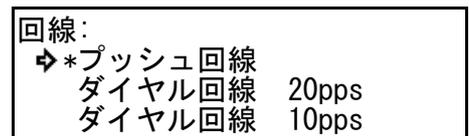
4 「回線」が選択されていることを確認して、[OK] キーを押してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、回線種別を選択してください。

回線種別は「プッシュ回線」、「ダイヤル回線 10pps」、「ダイヤル回線 20pps」のどれか選ぶことができます。



6 [OK] キーを押してください。回線種別の設定が終了します。

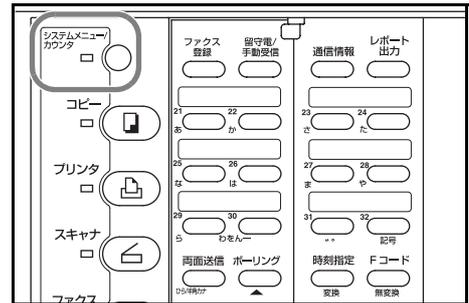
7 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択した後、[OK] キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときは [リセット] キーを押してください。

発信元記録を設定する（発信元記録設定）

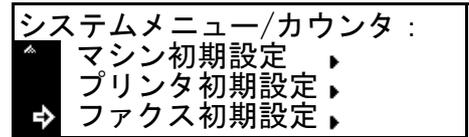
発信元記録とは、相手先の記録紙に印字される、送信日時、送信ページ数、名前や電話番号などのこちら側（発信元）の情報のことです。本機では、発信元記録を受信側で印字させるかどうかを選択することができます。また、その印字位置についても、送信ページ画像の内側、外側のどちらにつけるかを選択できます。

- 参考
- 操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（1-13 ページの初期モードについて参照）
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。初期モードに戻ります。

1 [システムメニュー] キーを押してください。

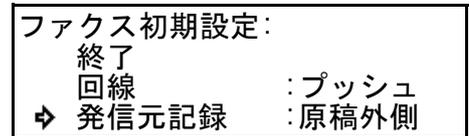


2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



3 [OK] キーを押してください。

4 [▼] キーを押して、「発信元記録」を選択してください。



5 [OK] キーを押してください。

6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、発信元記録の印字の有無や印字位置を選択してください。

「原稿外側」を選択すると発信元記録はページ画像の外側に、「原稿内側」を選択するとページ画像内に印字されます。



7 [OK] キーを押してください。発信元記録設定が終了します。

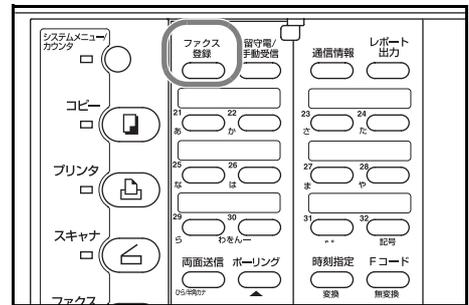
8 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択した後、[OK] キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときは [リセット] キーを押してください。

こちらの情報を登録する (自局情報登録)

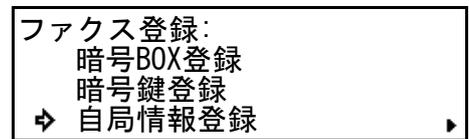
自局情報 (自局番号 / 自局名称 / 自局 ID) を登録しておく、相手機側で出力される記録紙にその情報が印字されるので、受信側ではどこから送られてきた原稿なのかを容易に知ることができます。自局名称は、“全角漢字”モードと“半角カタカナ”モードの2通りで登録することができます。“全角漢字”モードで登録する名称は、受信側で出力されるファクスに発信元記録として印字されます。“半角カタカナ”モードで登録する名称は、相手機側の LCD ディスプレイに表示され、また相手機側で出力される通信結果レポートにも印字されます (この機能は弊社機間通信の場合のみに限られます)。

- 参考
- 登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。
 - 操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。
(1-13 ページの初期モードについて参照)
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。

- 1 カバープレートをして、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押してメニュー画面をスクロールさせ、「自局情報登録」を選択してください。

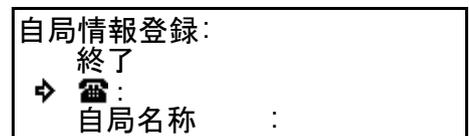


- 3 [OK] キーを押してください。

- > 自局番号を登録するときは手順 4 に進んでください。
- > 自局名称を登録するときは手順 7 に進んでください。
- > 自局 ID を登録するときは手順 13 に進んでください。

●自局番号登録

- 4 もう一度 [OK] キーを押してください。



- 5 テンキーを使って、登録する自局番号を入力してください。

最大 20 桁まで入力できます。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した番号はクリアされます。



- 6 [OK] キーを押してください。自局番号の登録が終了します。

初期モードに戻るときは、[▲] キーを押して「終了」を選択して [OK] キーを押すか、[リセット] キーを押してください。

●自局名称登録

- 7 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「自局名称」を選択してください。



- 8 [OK] キーを押してください。

- 9 自局名称を漢字全角モードで入力してください。
文字の入力のしかたは 2-15 ページの文字を入力するを参照してください。



全て全角の場合は最大 16 文字まで、全て半角の場合は最大 32 文字まで入力できます。全ての文字入力モードでの入力が可能です。

ここで入力した名称が相手機側で発信元記録として印字されます。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した名称はクリアされます。

- 10 [確定] キーを押してください。

- 11 半角カタカナモードで自局名称を入力してください。



文字の入力のしかたは 2-15 ページの文字を入力するを参照してください。

半角カタカナと半角の英数大文字小文字の入力が可能で、最大 32 文字まで入力できます。

ここで入力した名称が、相手機の LCD ディスプレイや通信管理レポートに表示されます。(弊社機間通信の場合のみ有効)

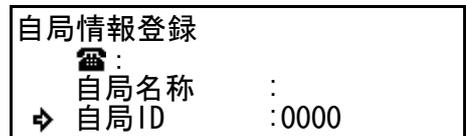
[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した名称はクリアされます。

- 12 入力後、[▲] キーを押して「入力終了」を選択し、[確定] キーを押してください。自局名称の登録が終了します。

初期モードに戻るときは、[リセット] キーを押してください。

●自局 ID 登録

- 13 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「自局 ID」を選択してください。



- 14 [OK] キーを押してください。

- 15 テンキーを使って、登録する自局 ID の番号を 4 桁で入力してください。



[ストップ/クリア] キーを押すと表示はクリアされ、「0000」に戻ります。

- 16 [OK] キーを押してください。自局 ID の登録が終了します。

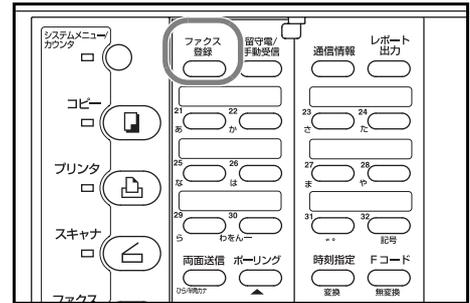
- 17 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択して、[OK] キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときは [リセット] キーを押してください。

日付と時刻を登録する (日時登録)

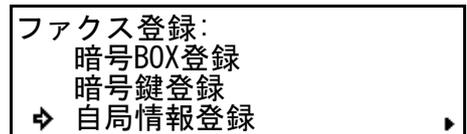
メッセージ表示に表示される日付、時刻を設定することができます。ここで設定した時刻をもとに時刻指定通信が行われますので、必ず正しい日付と時刻を設定してください。

- 参考
- 操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。(1-13 ページの初期モードについて参照)
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。

- 1 カバープレートをして、[ファクス登録] キーを押してください。

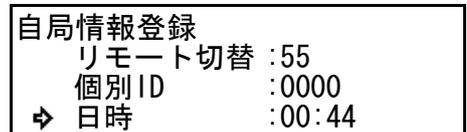


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「自局情報登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「日時」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 テンキーを使って、日付と時刻を入力してください。



[>] キーを押すと、カーソルは次の桁に移動します。

[ストップ/クリア] キーを押すと、表示されている日時がクリアされ、最初から入力しなおすことができます。

- 7 [OK] キーを押してください。日時の登録が終了します。

- 8 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択して、[OK] キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときは [リセット] キーを押してください。

初期モードについて

ファクスモードで操作を始める際には、メッセージ表示がファクスの初期モードになっているか必ず確認してください。初期モードとは、機械が待機中で操作可能な初期状態のことです。機械はファクスの送/受信動作が正常に終了すると初期モードに戻ります。また、オートクリア機能が働いたときも、初期モードに戻ります。

2004年04月01日 02時16分

原稿をセットして下さい

●部門管理モード時のメッセージ表示について

操作を行うためには、部門コードまたは暗証番号の入力が必要です。正しいコードを入力し、[OK] キーを押すと、通常ファクスの初期モードの表示に変わります。

OK確定

部門コードを入力して下さい

ご注意 部門管理設定が設定されているときに各種番号登録や設定を行うためには、部門コード入力画面において暗証番号を入力する必要があります。部門コードを入力して操作を行おうとしても、登録や設定のメニューは表示されません。詳しくは、5-73 ページの部門ごとに使用を管理する（部門管理機能）および本体の応用編の使用説明書を参照してください。

暗証番号について

本機では、ファクスモードでの使用を部門ごとに管理したり、暗号通信時のセキュリティを高める目的で、下記(1)と(2)の場合には暗証番号の入力が必要となります。暗証番号は1つだけしか登録できませんので、本機の管理責任者の方が使用されるようおすすめいたします。

□ □ □ □

暗証番号を入力して下さい

参考 暗証番号は工場出荷時の段階で16枚機は“1600”、20枚機は“2000”、25枚機は“2500”に設定されています。暗証番号を変更するときは本体の応用編の使用説明書を参照してください。

(1) 常に入力が必要な場合

- 部門管理モードを設定するとき
- 部門コードを登録するとき
- 暗号鍵を登録するとき
- 暗号鍵リストを出力するとき

(2) 部門管理モード設定時に入力が必要な場合

- 通信管理レポート以外のレポート/リスト類を出力するとき
- 各種設定や登録を行うとき

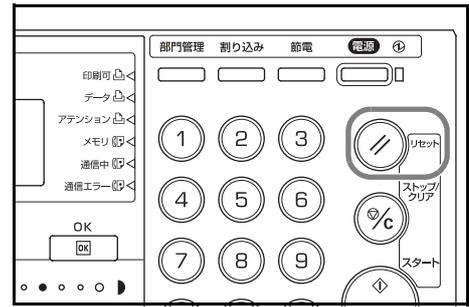
ご注意 登録した管理者番号は何かにかき留めておかれることをおすすめいたします。もしこの番号がわからなくなってしまうと、各種の設定・登録・変更・取消などができなくなることもありますのでご注意ください。

[リセット] キーを押したとき

操作を途中で中止したいときなどは、[リセット] キーを押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。

原稿がセットされている状態のときは、一度検知した原稿サイズはクリアされません。

操作の状況によっては、[リセット] キーを受けつけないことがあります。



自動的に設定をリセットする (オートクリア機能)

送信や用紙の印字出力後、あるいは操作途中で 10 ~ 270 秒間キー入力などの操作が行われないと、それまでに設定していた内容などをクリアし、初期モードに戻す機能です。ただし、原稿送り装置に原稿がセットされている場合は、内容はクリアされません。

3桁の番号で文書を管理する (文書番号)

本機では、3桁の文書番号を使って送信や受信についての管理を行います。文書番号は、通信の予約や実際の送・受信が行われたときに、行われた順に付与されます。付与されるタイミングは、通信の形態によって異なります。文書番号

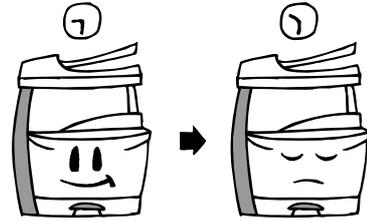
は、操作中のメッセージ表示や通信結果表示、開始時刻を指定したときに出力されるタイマー予約レポートや通信予約確認レポートでも確認することができます。

(6-1 ページの通信結果の内容を確認する (通信結果表示)、6-4 ページの通信予約確認レポートの出力のしかた、7-1 ページの各種レポートの出力条件を設定する (レポート出力設定) 参照)



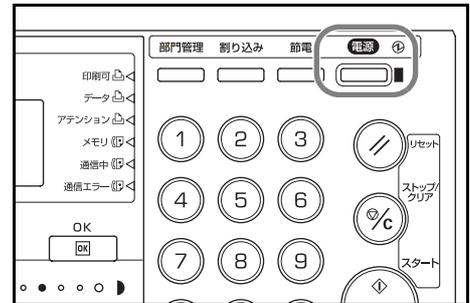
自動的に節電モードに移行する (オートスリープ機能)

オートスリープ機能は、キー入力や原稿のセットなどの操作あるいは印字出力などが一定時間経過しても何も行われない場合に、機械内部の定着ヒーターとファンを停止状態にする節電機能です。複写機やファクスは、一般に送受信動作や印字作業中よりも待機状態が多く、待機時に消費する電力が全体の大きな割合を占めています。待機中に定着ヒーターやファンを停止状態にすることにより、不要な電力の消費を抑えることができ、電気料金の削減を行うことができます。



参考 オートスリープ機能が働くまでの時間 (オートスリープタイム [初期値: 15分]) は変更することができます。本機を頻繁に使用される場合はオートスリープタイムを長めに、待機時間が多い場合はオートスリープタイムを短めに設定されることをお勧め致します。(本体の応用編の使用説明書参照)

オートスリープ機能が働くと、主電源表示だけが点灯し、後は全て消灯します。この状態でもファクス受信は行いますが、ファクス操作を行うときは、**[電源]** キーを押してください。



ネットワーク上の PC から送信する（Network FAX 機能 [オプション]）

ネットワークスキャナを装着することによって、Network FAX 機能が使用できます。ネットワーク上の PC で作成した原稿を外部ファクスへ送信したり、逆に外部ファクスからネットワーク上の PC に受信することができます。主な機能は以下の通りです。

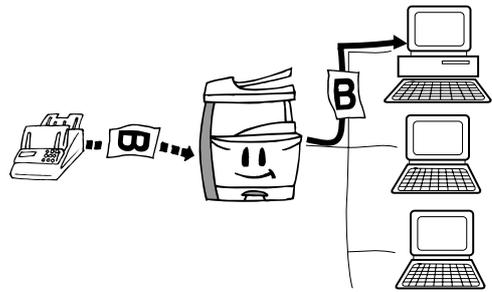
●送信機能

ネットワーク上に本ファクスと PC がある状態で、PC のアプリケーションで作成した原稿を本機に装着したネットワークスキャナで画像を転送し、外部ファクス等に送信します。



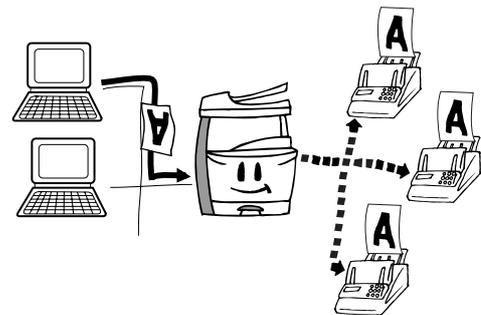
●受信機能

外部ファクスなどから送られた原稿を本ファクスで受信し、ネットワークスキャナを介してネットワーク上のサーバー PC（付属の Scanner File Utility がインストールされている PC）の指定されたフォルダーに保存します。このとき原稿は PDF ファイルか TIFF ファイルで保存できます。



●アドレス帳機能

送信する際、あらかじめ相手先のファクス番号を登録しておくことができます。また、その登録した相手先を最大 80 件までグループ化することができます。これにより、順次同報送信を簡単に行うことができます。さらに他のアプリケーションで作成された CSV 形式のアドレス帳であれば本アドレス帳にインポートすることができます。



●アドレス編集機能

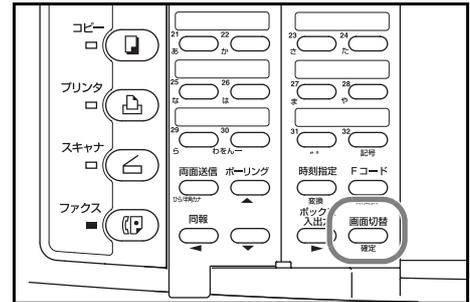
アドレス編集機能は、ファクス本体の自局情報やダイヤル情報を PC から登録／変更を行う場合に使用します。アドレス編集機能を使用することにより、ファクスの登録情報の設定を PC 上で容易に行えるようになります。

デュアルアクセス機能

2つの処理を同時並行で行う機能です。例えば、通信中であっても次に原稿を送信するための操作を行うことができます。また、コピー中にファクスの受信を行うこともできます。受信した原稿はコピーが終わった後で自動的にプリントされます。本機では、デュアルアクセス機能が働くため、メッセージ表示部に「原稿をセットして下さい」が表示されていれば、送信のための操作を行うことができます。この機能に関して、特に設定などの必要はありません。

>通信中の動作を確認するには

カバープレートを左にして、[画面切替] キーを押してください。



参考 [画面切替] キーを押している間だけ、通信中の裏動作をメッセージ表示に表示させることができます。このとき [ストップ/クリア] キーを押すと、裏動作の通信をキャンセルすることができます。押しているキーから手を放すと、メッセージ表示は元に戻ります。

<デュアルアクセス機能が働かないとき>

デュアルアクセス機能が働かない場合もあります。例えば、送信または受信中に各種機能の登録や設定をすることはできません。通信が終わってから操作を行ってください。また、相手先と回線がつながり通信中であるときに、別の相手先からファクスを受信することはできません。デュアルアクセスの可否については、「●デュアルアクセス可否表」を参照してください。

- 参考**
- 時刻指定送信などのように指定時刻がくれば、自動的に送信が行われるようなものは、現在行われている処理が終わると、その動作が開始されます。
 - 2つの処理を同時に行えない場合には、操作を行おうとして各種機能キーを押すとエラー音が鳴り、メッセージ表示に操作不可能を示すメッセージが表示されます。

●デュアルアクセス可否表

現行動作	追加動作
(1) ダイレクト送信（通信設定中）※	
(2) メモリ送信（通信設定中）	
(3) メモリ送信（原稿の読み込み中）	
(4) ダイレクト送信（通信中）	
(5) ダイレクト受信（通信中）	
(6) メモリ送信（通信中）	
(7) メモリ受信（通信中）	
(8) ダイレクト受信時の画像出力中（回線接続状態）	
(9) 受信画像出力中（回線断の状態）	
(10) 通信後の通信結果レポートまたは通信管理レポート出力中	
(11) レポート手動出力中	
(12) ファクス設定・登録中	
(13) 通常コピー中または原稿の読み込み中	
(14) コピー出力中	
(15) プリンタ（オプション）出力中	
(16) ネットワークスキャナ（オプション）使用中	

<表のみかた>

表中の記号は以下の意味を示しています。

※：表の現行動作に含まれないメニュー操作中は、この動作と同様に動作します。

○：現行動作に対して無条件で追加動作が動作します。

注1：ファクス設定中は不可、ファクス登録中は可能。

注2：ファクス設定中はプリンタモードで印字可能になれば出力します。
ファクス登録中は可能。

－：本体側操作のため、ファクス側には無関係。

×：現行動作に対して追加動作が動作しない。

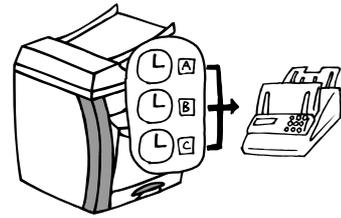
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)
		×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	—	—	○	—
	×		×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	—	—	○	—
	×	×		×	○	○	△ ²	○	○	○	×	×	—	—	○	—
	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	—	—	○	—
	○	○	○	×		×	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○
	○	○	○	×	×		×	×	×	×	○	×	○	○	○	○
	○	○	△ ²	×	×	×		×	×	×	○	×	○	○	○	○
	○	○	○	×	×	×	×		×	×	×	×	—	—	—	△ ⁶
	○	○	○	○	○	○	○	△ ³		△ ³	×	×	—	—	—	△ ⁶
	○	○	○	○	○	○	○	△ ³	△ ³		×	×	—	—	—	△ ⁶
	○	○	○	○	○	○	○	△ ³	△ ³	△ ³		×	—	—	—	△ ⁶
	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		—	—	○ ^{注2}	—
	×	×	×	×	○	○	○	△ ³	△ ³	△ ³	×	×		×	△ ³	×
	○	○	○	○	○	○	○	△ ³	△ ³	△ ³	△ ³	○ ^{注1}	×		△ ³	△ ⁶
	○	○	○	○	○	○	○	△ ³	△ ³	△ ³	△ ³	○ ^{注1}	—	—		△ ⁶
	△ ¹	△ ¹	△ ¹	△ ¹	○	○	○	△ ⁷	△ ⁷	△ ⁷	△ ⁴	△ ⁴	△ ⁴	△ ⁴	△ ⁵	

△：現行動作に対して条件付で追加動作が動作します。各数字は以下の通りです。

- 1：Twainは不可、Scan to PCとE-mailの送信中は可能。
- 2：ポーリング送信の通信中に、ポーリング送信原稿を追加することはできません。
また、Fコード親展受信中に、受信中の親展ボックスへ原稿を入力することはできません。
- 3：現行動作が終了し、印字可能になったら出力します。
- 4：Twainは不可、Scan to PCとE-mailの単送信モードは可能で連続送信モードでは不可能。
- 5：Twain使用時は現行動作が終了し、印字可能になったら出力します。Scan to PCとE-mail使用時は可能。
- 6：Twainの追加動作は不可。Scan to PCとE-mailの追加動作は可能。
- 7：Scan to PCとE-mailの連続送信モードを使用している場合か、もしくはTwainを使用している場合は、現行動作が終了し印字可能となったら出力を行います。Scan to PCとE-mailの単送信モードを使用している場合は可能。

複数の原稿を一括で送信する（一括送信機能）

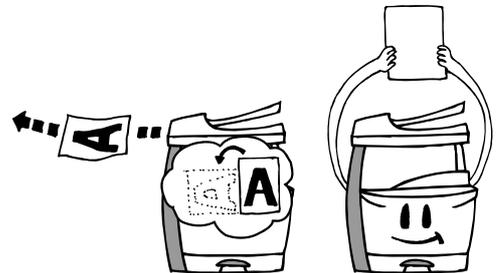
相手先だけでなく送信指定時刻も同一の予約原稿がメモリ内に複数ある場合、最大10通信分を自動的にまとめて一度の通信で送信を行います。予約された数だけ通信を繰り返すといったムダがなくなり、通信コストの削減にもつながります。



- 参考
- ダイレクト送信は一括送信されません。
 - ワンタッチダイヤルと短縮ダイヤルに同じ相手先番号が登録されている場合に、そのワンタッチダイヤルを使った送信と短縮ダイヤルを使った送信は、同時刻の指定であっても一括送信はしません。
 - 別々に予約された2つの順次同報送信において、同じ同報先（同じ相手先番号）があった場合、同時刻の指定であっても一括送信されません。
 - 予約時刻になり原稿が送信される際に、同じ相手先に対してリダイヤル待機中の原稿があるときは、そのリダイヤル待機原稿も一括送信されます。
 - 部門管理モード設定時は、同じ部門コードを使って送信を予約した原稿だけが一括送信されます。したがって、相手先と送信指定時刻が同一であっても予約の際に使用した部門コードが異なる場合には別通信となります。

原稿を回転して送信する（回転送信機能）

原稿送り装置あるいはコンタクトガラス上に、A4ヨコサイズ原稿がセットされたとき、読み込んだ原稿データを反時計回りに自動的に90°回転し、A4タテサイズ原稿として送信する機能です。



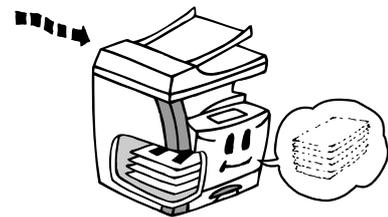
- 参考
- 原稿送り装置に原稿をセットして回転送信を行うためには、原稿送り装置読み込みの設定を「定形原稿」に設定しておく必要があります。
（7-10ページの原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読み込み設定）参照）
 - A4ヨコサイズ原稿をセットしたときのみ回転送信が行われます。

Fコードで相手先を確認する（Fコード通信機能）

Fコード通信とは、他社機でも採用されているFコードと呼ばれる番号や文字列を付加してやりとりを行う通信をいいます。Fコードを使用することにより、本来自社機間でしか行えなかった親展通信のような機能通信が他社機との間でも可能になります。本機には、こうしたFコード通信機能が備わっています。本機では、Fコード通信用に設けたFコードボックスを使って原稿の受け渡しを行うことにより、他社機との親展通信、掲示板通信、中継同報を可能にしています。Fコード通信を行うためには、相手機も同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。そのため、事前に相手側とお互いの機械性能などについて十分な打ち合わせを行ってから実際の通信を行うようにしてください。本機のFコード通信機能についての具体的な説明は、5-15ページのFコードを使って通信する（Fコード通信）を参照してください。

用紙が無くても受信する（代行受信機能）

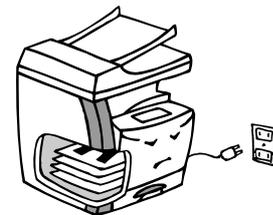
用紙切れや紙詰まりなどで出力できない場合でも、送られてきた原稿をいったんメモリに受信し記憶します。そして、出力可能な状態になれば印字出力を行う機能です。



ご注意 停電などにより電源断状態になった場合、代行受信が行われた原稿については保持できず消えることがあります。失われた原稿については再受信を行ってください。（4-1ページ参照）

停電時にもメモリをバックアップする（画像メモリバックアップ機能）

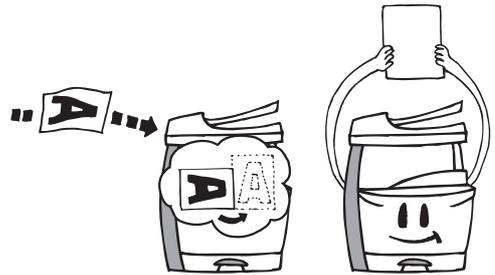
停電や電源プラグを誤って抜いてしまったなどの不慮の事故があった場合でも、バックアップ電池により、画像メモリに受信していた原稿や送信待機原稿を約60分間は保持しておくことができます。したがって、機械がその内容を保持している間に再び電源が投入されれば、予約されていた通信などは、ほぼ元通り行われます。復活できず、失われてしまった内容などがある場合は、電源が再投入されると自動的に出力される電源断レポートで確認してください。



参考 ご使用状況や環境によっては、バックアップできる時間に差異が生じることがあります。

セットされている用紙に合わせて回転受信する（回転受信機能）

受信原稿とカセットにセットされている用紙の向きが異なる場合でも、A4サイズどうしであれば、受信画像を反時計回りに90°回転して出力します。この機能は機械が自動で行います。特に設定などを行う必要はありません。



- 参考
- 向きの異なる同サイズの用紙がセットされている場合でも、条件によっては回転受信できないことがあります。受信サイズと出力される用紙サイズ、用紙の向きについては、10-7 ページの受信サイズと出力用紙優先順位表をご覧ください。
 - 相手機側で発信元記録の印字位置がページ画像の外側に設定されているときは、回転受信されず縮小印字されることがあります。

NTTのFネットを使用する（Fネット無鳴動受信機能）

NTTが提供するファクス通信網（Fネット）に接続してファクス通信をする場合に無鳴動で自動的に受信することができます。



- 参考
- この機能を使用するかどうかは、7-17 ページのファクス通信網を使用して受信する（Fネット無鳴動受信設定）を参照してください。

2 ファクスの操作方法（基本編）

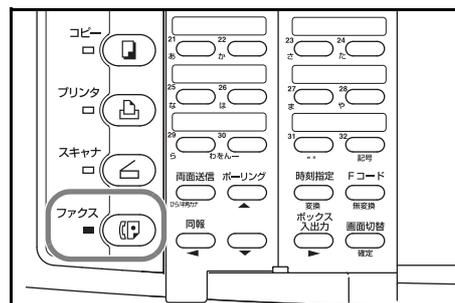
自動で送信する

ここでは、テンキーを使ってごく一般的な原稿の送信方法について説明しています。原稿についての注意事項などをよくお読みになり、正しい操作を行ってください。

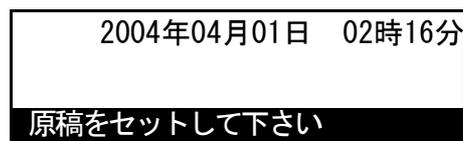
1 ファクスモードへの切替

[ファクス] キーを押して、ファクスに切り替えてください。

ファクスモードになると、ファクス表示が点灯します。



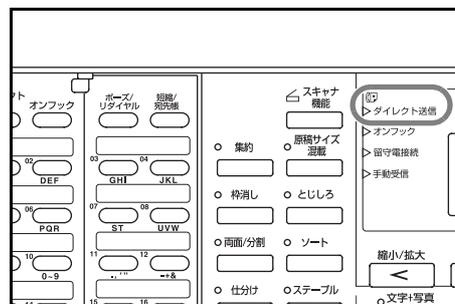
メッセージ表示で初期モードであることを確認してください。初期モードでないときは、[リセット] キーを押してください。



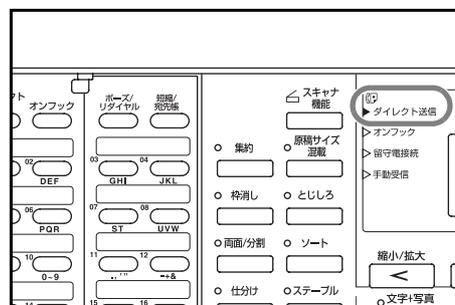
2 送信モードの確認

送信モードを確認してください。

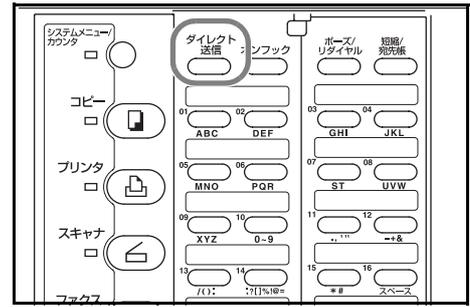
本機の送信モードには、メモリ送信とダイレクト送信の2つのモードがあります。本機では、メモリ送信モードが初期設定になっており、通常はダイレクト送信表示が消灯しています。



ダイレクト送信表示が点灯しているときは、ダイレクト送信モードが設定されています。



送信モードをメモリ送信からダイレクト送信に、またはその逆に切り替えるときは、**「ダイレクト送信」** キーを押してください。



参考 初期モードの状態で作成される送信モードを設定することができます。（7-11 ページの送信方法の初期値を設定する（送信モードの初期値設定）参照）

<送信モードについて>

●メモリ送信モード（原稿送り装置に原稿をセットする場合）

原稿送り装置から順次原稿をメモリに読み込み記憶した後に相手先へのダイヤルを行います。利用者は送信の完了を待たずとも、自分の原稿を手元に戻ることができるため非常に便利です。複数ページのシート原稿の送信に適した方法です。

●メモリ送信モード（コンタクトガラスに原稿をセットする場合）

原稿送り装置にセットできないブック原稿などの送信に適しています。コンタクトガラス上に順次セットされる原稿を1ページずつメモリに読み込み、全ての原稿の読み込みが終わってから相手先へのダイヤルを行います。この方法で送信を行う場合は、原稿を1ページ読み込むごとに、読み込み継続を行う必要があります。2-8 ページの<原稿をコンタクトガラスにセットしたとき>を参照してください。

●ダイレクト送信モード（原稿送り装置に原稿をセットする場合）

相手先と回線がつながってから、原稿送り装置にセットされた原稿の読み込みを始めます。複数ページの原稿がセットされている場合は、1ページ分の原稿を送信してから、次の原稿の読み込みを開始します。

通信を中止するときは、**「ストップ/クリア」** キーを押してから原稿を原稿送り装置からとりのぞいてください。

●ダイレクト送信モード（コンタクトガラスに原稿をセットする場合）

原稿送り装置にセットできないブック原稿などの送信に適しています。相手先と回線がつながってから、コンタクトガラス上にセットされた原稿を読み込み送信するという動作を原稿のページ数分繰り返して行う方法です。この方法で送信を行う場合は、原稿を1ページ送信するごとに、読み込み継続を行う必要があります。2-8 ページの<原稿をコンタクトガラスにセットしたとき>を参照してください。

原稿1ページを送信するごとに次の原稿セットを促すアラーム音が鳴ります。アラーム音が鳴り終わって、一定時間経過しても次の原稿セットが行われないと通信は終了します。

3 原稿のセット

●使用できる原稿

> 原稿送り装置にセットする場合

- 種類…シート原稿
- サイズ…A3～A5R
1600mmを超える長さの原稿が送信された場合、メッセージ表示部に原稿送り装置での紙詰まり表示が出ます。
- 厚さ…片面原稿：45～160g/m²
両面原稿：50～120g/m²
- セット可能原稿枚数（普通紙）
A3～A5R：50枚（50～80g/m²）

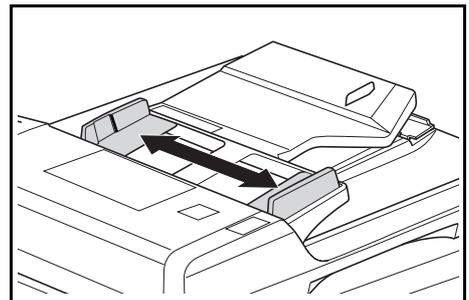
> コンタクトガラスにセットする場合

- 最大サイズ…A3

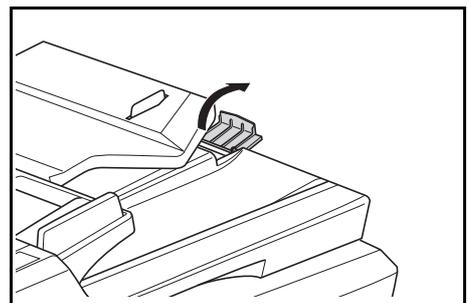
●原稿についての注意事項

- 文字の色が極端に薄い原稿は、送信されてもはっきり印字されないことがあります。
- インクや糊などが乾いていない原稿は、完全に乾かしてからセットしてください。
- 原稿送り装置に原稿をセットする場合、クリップやステイプルで綴じられた原稿は、故障の原因となりますので、必ずそれらを取り除いてからセットしてください。
- 使用可能なサイズ以外の原稿は送信できない場合があります。
- 原稿送り装置にパンチ穴の空いた原稿をセットすると、まれに相手先で出力された用紙にグレーのすじが印字されることがあります。そのようなときは、原稿のセット方向を変えて送信しなおしてください。

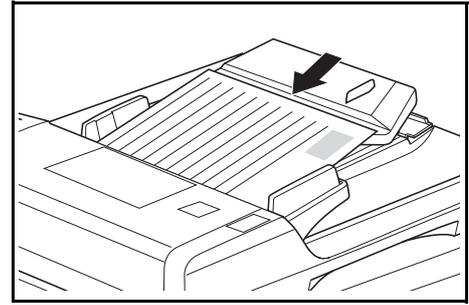
- (1) 原稿の幅に合わせて原稿挿入ガイドを調節してください。



- (2) A3 および B4 などのサイズの大きな原稿をセットするときは、排紙ガイドを開いてください。



- (3) 原稿面を上にして原稿テーブルにセットしてください。

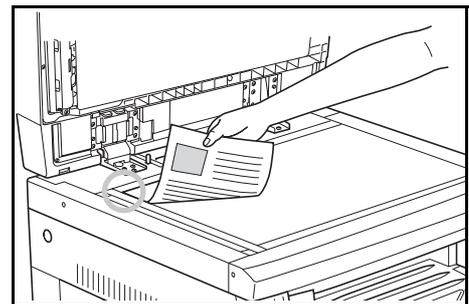


- 参考
- ・ 奥側の原稿挿入ガイドに貼付されている目盛を超えないよう原稿をセットしてください。規定枚数を超える原稿をセットすると、原稿が詰まる原因になります。
 - ・ 原稿送り装置の詳細については本体の基本編の使用説明書を参照してください。
 - ・ 両面原稿をセットして、表と裏の両方の原稿を送信することもできます。(3-1 ページ参照)

<コンタクトガラスへの原稿のセット方法>

原稿送り装置を開いて、コンタクトガラス上に原稿をセットすることもできます。ブック原稿などは、コンタクトガラス上にセットしてください。

- (1) 原稿は原稿サイズ指示に確実に合わせ、原稿面を下向きにセットしてください。



- (2) シート原稿をセットした場合には、原稿送り装置を閉めてください。

原稿送り装置を閉めずに、送信する場合は、[原稿サイズ選択] キーで原稿サイズを選択してください。



原稿送り装置を開いたままで、放置しないで下さい。けがの原因となることがあります。

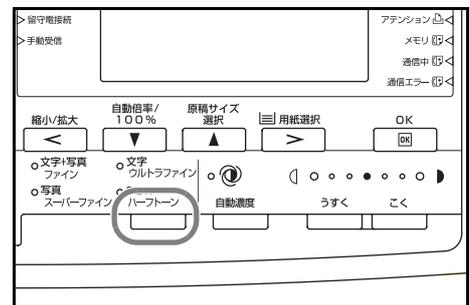
4 画質の選択

5種類の画質モードの中から原稿に適したモードを選択できます。

- ・ ノーマル：普通の大きさの文字の原稿を送るとき
- ・ ファイン：比較的小さい文字や細い線のある原稿を送るとき
- ・ スーパーファイン：微細な文字や線のある原稿を送るとき
- ・ ウルトラファイン：微細な文字や線のある原稿をできるかぎりきれいに送るとき
オプションメモリを増設しないときはウルトラファインは選択できません。
- ・ ハーフトーン：文字だけでなく写真も入っている原稿をきれいに送りたいとき

工場出荷時は“ノーマル”に設定されています。通常はノーマルに設定されており、画質選択表示は全て消灯しています。ノーマルのままでよければ、特に操作の必要はありません。

画質の選択は、[画質選択] キーを押して行います。好みの画質モードの表示を点灯させてください。

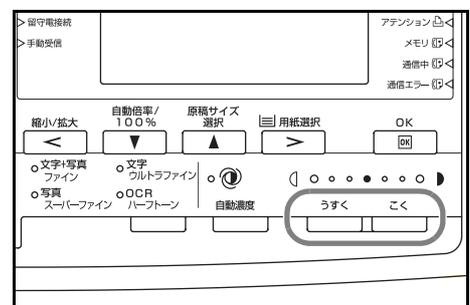


- ご注意
- ・ ファインやスーパーファインを選択すると画像是鮮明になりますが、ノーマルに比べて送信時間は長くなります。
 - ・ ハーフトーンではグレイ（灰色）をきれいに再現しますが、ノーマルやファインよりも送信時間は長くなります。
 - ・ ウルトラファインで送信する場合は、オプションメモリ（32MB）を増設する必要があります。オプションメモリを増設していない場合は、ウルトラファインは選択できません。
 - ・ スーパーファインやウルトラファインで送信する場合は、受信側の機械もそれらのモードで受信する機能を備えていなければなりません。受信側がその機能を備えていない場合は、ファインの画質で送信されます。

5 原稿濃度の選択

原稿の読み取り時の濃度は [原稿濃度調整] キーを押して選択してください。3段階で調節できます。

通常は原稿濃度表示の真ん中が点灯しています。濃くするときは、右端の原稿濃度表示を、薄くするときは、左端を点灯させてください。



6 相手先をダイヤル

テンキーを使って相手先の番号を入力してください。

相手先の番号は 32 桁まで入力できます。



間違えて入力した場合は、[<] キーや [] キーを押して、訂正したい箇所までカーソルを移動させ、正しい番号を入力してください。また、[ストップ/クリア] キーを押すと、最初から入力しなおすことができます。



操作を途中で中止したいときは、[リセット] キーを押してください。入力途中の内容などはクリアされて初期モードに戻ります。

入力時の操作ミスなどのために、操作を途中で止めたときなどは、操作を最初からやりなおしてください。

< [ポーズ] キーについて >

このキーを押すとダイヤル時に約 3 秒の待ち時間が設定されます。0 発信（構内交換機を使って内線から外線への発信）するときや、情報サービスを受けるときなどの待ち時間の設定に使用します。

< ダイヤルのしかた >

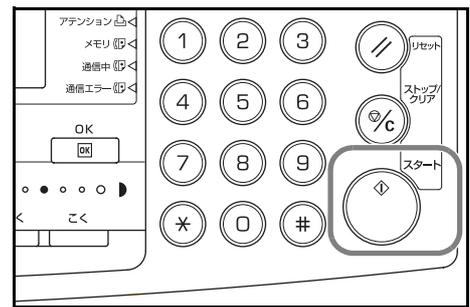
ダイヤルのしかたはテンキーを使って行う他、以下のような方法があります。

- ワンタッチダイヤル…2-26 ページ参照
- 短縮ダイヤル…2-32 ページ参照
- プログラムダイヤル…5-52 ページ参照
- グループダイヤル…5-42 ページ参照
- 手動リダイヤル…2-37 ページ参照

7 送信スタート

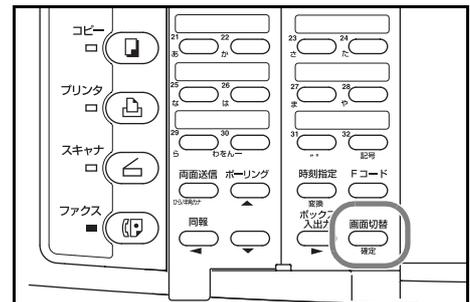
[スタート] キーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。

原稿読み取り中やダイヤル中には原稿濃度や画質が選択できます。



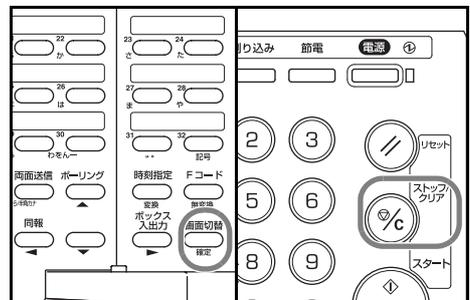
>送信の確認をするには…

カバープレートを左にして、[画面切替] キーを押してください。キーを押している間はメッセージ表示に送信の状況を表示し、キーを離すと元の表示に戻ります。



>送信を中止するには…

送信を中止したいときは、カバープレーを左にして、[画面切替] キーを押しながら [ストップ/クリア] キーを押してください。機械は送信を中止します。



＜原稿をコンタクトガラスにセットしたとき＞

原稿をコンタクトガラスにセットしたときは、原稿サイズを検知させるために原稿送り装置を閉じてください。また、ブック原稿などで原稿送り装置を閉じないときは原稿サイズを選択してください。

原稿をコンタクトガラスにセットしたときは、**【スタート】** キーを押した後で以下のような原稿の読み込み画面が表示されます。以下の手順を行ってください。

原稿の読み込みを継続する：
➡ はい
いいえ

＞原稿の読み込みを継続する場合

- (1) 次の原稿と交換してください。

原稿を原稿送り装置にセットすることもできます。

- (2) 「はい」が選択されていることを確認して **【OK】** キーを押してください。
(3) **【スタート】** キーを押してください。

原稿を原稿送り装置にセットしたときは、自動的に読み込みを行い、送信を行います。

残りの原稿に対しても同じように (1) ～ (3) を行ってください。

＞原稿の読み込みを終了する場合

- (1) **【▼】** キーを押して、「いいえ」を選択してください。

原稿の読み込みを継続する：
はい
➡ いいえ

- (2) **【OK】** キーを押してください。送信動作を開始します。
-

自動で受信する（FAX 専用自動受信）

ファクス専用として使用する場合は、FAX 専用受信モードを選択してください。受信時には特に操作の必要はありません。

参考 FAX 専用受信モードで受信を行うときは、7-12 ページの受信方法を設定する（受信モード設定）を参照して、「FAX 受信」を選択してください。

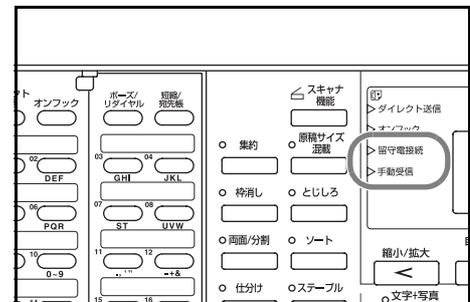
<受信モードについて>

受信モードには以下のような受信モードがあります。

- FAX 専用自動受信
- 手動受信…3-23 ページ参照
- FAX/TEL 自動切替受信…5-1 ページ参照
- FAX/ 留守番電話自動切替受信…5-3 ページ参照

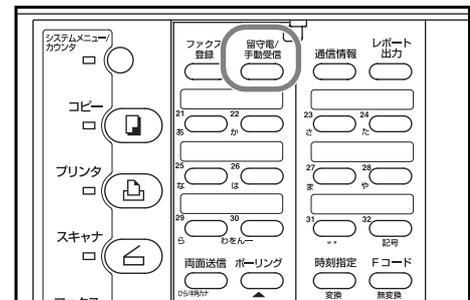
1 受信モードの確認

手動受信表示と留守電接続表示が両方消灯していることを確認してください。



>受信モードを変更するとき

カバープレートをし、[留守電 / 手動受信] キーを押して、両方の表示を消灯させてください。



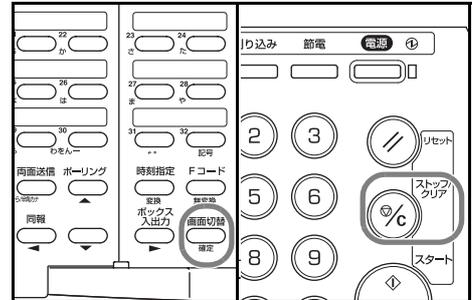
2 受信開始

相手先のファクスから原稿が送られてくると、設定された回数の呼出しが行われた後、受信を開始します。

受信が開始されると通信中表示が点灯しますが、メッセージ表示は特に変わりません。

>受信を中止するには…

カバープレート左にし、[画面切替] キーを押しながら [ストップ/クリア] キーを押してください。受信を中止します。



<受信時コピー切替機能>

機械がダイレクト受信（画像メモリを使わない受信）中であるときでも、コピーをとることができます。

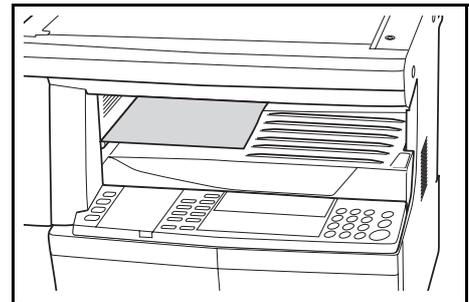
受信中に [割り込み] キーを押してください。ダイレクト受信が代行受信に切り替わり、コピー操作が可能となります。

<代行受信>

用紙切れや紙詰まりなどで出力できない場合、機械は送られてきた原稿をいったん画像メモリに記憶します。そして出力可能な状態になると、印字出力を行います。

3 印字出力

受信した原稿は、コピー収納部に印字された面を下にして出力されます。



- 参考
- コピー収納部や制限収納枚数は本体の基本編の使用説明書を参照してください。制限収納枚数を超えるときは、コピー収納部の用紙を全て取り出してください。
 - 用紙がカセットになかったり、紙詰まりなどで機械が出力できない状態であっても受信は行われます。（代行受信）
 - ウルトラファインで受信するためには、オプションメモリ（32MB）を増設する必要があります。

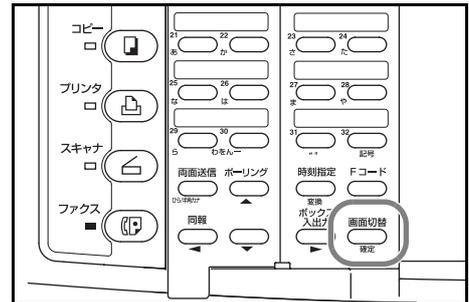
通信を中止する

本機には通信中断機能が備わっているため、通信途中であってもその通信を中止することができます。通信の中止方法は、送信モード（メモリ送信あるいはダイレクト送信）や通信形態によって異なります。ここでは、様々なケースでの通信の中止方法を説明します。

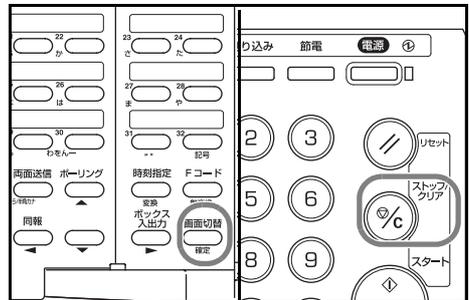
メモリ送信の中止のしかた

メモリ送信モードで送信操作を行なうと、送信は裏動作で実行されるため、まずメッセージ表示に裏動作を表示させる必要があります。下記の手順にしたがって、中止操作を行ってください。

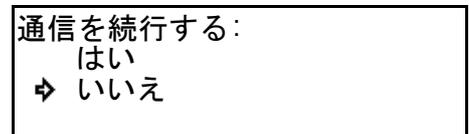
- 1 カバープレートをし、[画面切替] キーを押してください。メッセージ表示に通信中の裏動作が表示されます。



- 2 [画面切替] キーを押したまま、送信中の文章番号を確認して [ストップ/クリア] キーを押してください。送信が中止されます。



順次同報送信などのように複数宛先への送信中に中止操作を行ったとき、まだ送信する宛先が残っている場合は、メッセージ表示に残りの宛先への送信を続けるかどうかの選択画面が表示されます。



- > 「はい」を選択したときは、残りの宛先への送信が再開されます。
- > 「いいえ」を選択する、または選択せずにオートクリアが行われたときは、残りの宛先への送信が全て中止されます。

ダイレクト送信の中止のしかた

ダイレクト送信モードで送信操作を行なうと、送信は表動作で実行されるため、メッセージ表示には送信の状況が表示されています。下記の手順にしたがって、中止操作を行ってください。

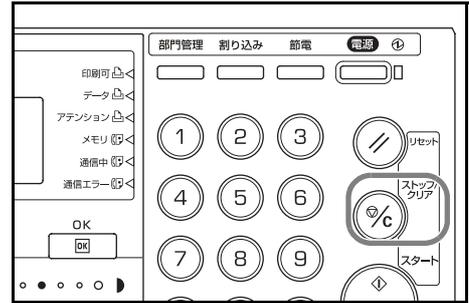
- 1 メッセージ表示には通信中の状況が表示されていますので、内容を確認してください。



- 2 [ストップ/クリア] キーを押してください。送信が中止されます。

送信待機中のときは、[▼] キーで「いいえ」を選択して [OK] キーを押してください。送信が中止されます。

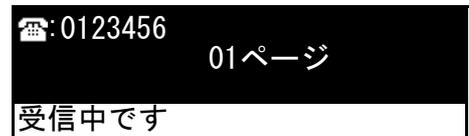
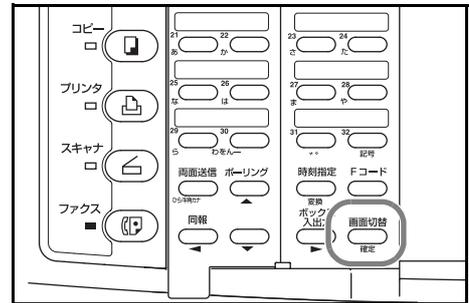
原稿送り装置に原稿をセットしたときは、現在送信中の原稿は原稿送り装置の上カバーに排出されます。



受信の中止のしかた

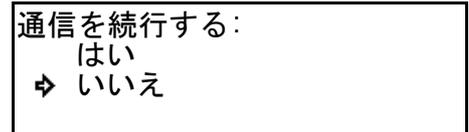
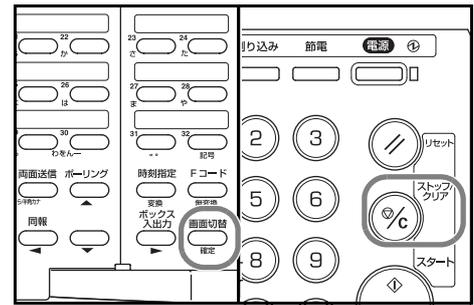
受信は裏動作で実行されるため、まずメッセージ表示に裏動作を表示させる必要があります。下記の手順にしたがって、中止操作を行ってください。

- 1 カバープレートを開き、[画面切替] キーを押してください。メッセージ表示に通信中の裏動作が表示されます。



- 2 【画面切替】キーを押したまま、【ストップ/クリア】キーを押してください。受信が中止されます。

ポーリング受信などのように複数の相手先からの受信中に中止操作を行ったとき、まだ受信する相手先が残っている場合は、メッセージ表示に残りの相手先から受信を続けるかどうかの選択画面が表示されます。

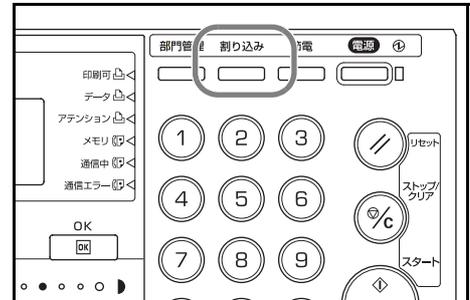


- > 「はい」を選択したときは、残りの相手先からの受信が再開されます。
- > 「いいえ」を選択する、または選択せずにオートクリアが行われたときは、残りの相手先からの受信は全て中止されます。

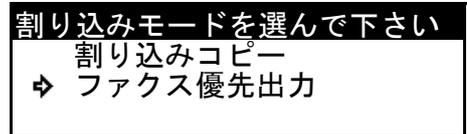
コピー中に受信原稿を出力する（ファクス優先出力）

コピー機能使用中にファクス原稿の受信が行われ、コピーの出力を待たずにファクスの出力を優先させることができます。

- 1 ファクス原稿を受信すると通信中表示が点灯します。
- 2 [割り込み] キーを押してください。



- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「FAX 優先出力」を選択し、[OK] キーを押してください。受信原稿を出力します。また、受信原稿の出力が終わると自動的にコピーを再開します。



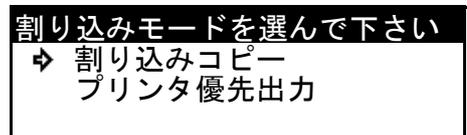
受信原稿出力中にコピーする（コピー優先出力）

ファクスの受信原稿の出力中にその出力を中断してコピー作業を優先して行うことができます。

- 1 [割り込みコピー] キーを押してください。



- 2 「割り込みコピー」が表示されていることを確認して、[OK] キーを押してください。



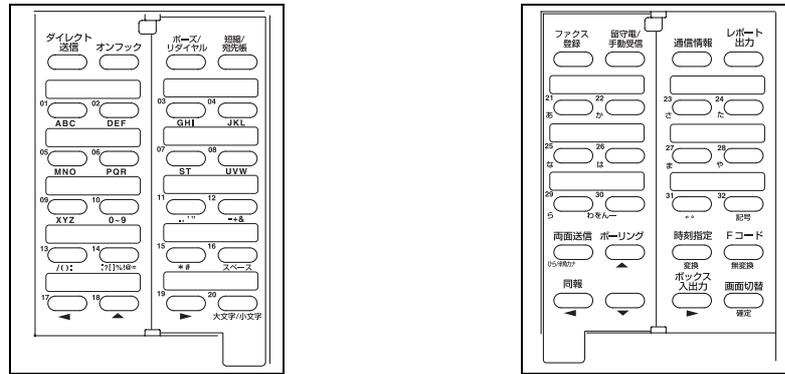
- 3 割り込みコピーを行ってください。

割り込みコピーが終了したら、[割り込みコピー] キーを押してください。受信原稿の出力を再開します。

文字を入力する

本機では、相手先名称入力などで使用する文字を入力するために、7つの入力モード（全角漢字 / 全角英数大文字 / 全角英数小文字 / 半角カタカナ / 半角英数大文字 / 半角英数小文字 / 全角区点コード）が用意されています。文字の入力は、カバープレートを左右に開き、ワンタッチキーと機能キーを使用して行います。各入力モードでの入力例を参照して文字入力を行ってください。

配置文字と機能キーの働き



各ワンタッチキーには、下表のとおり英文字や記号が配置されています。また、各機能キーには文字入力の際に下表のような働きをします。

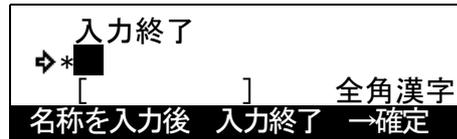
ワンタッチキーと機能キー	配置文字またはキーの働き	ワンタッチキーと機能キー	配置文字またはキーの働き
ワンタッチキー 1	「ABC」の入力	ワンタッチキー 21	あ行の入力
ワンタッチキー 2	「DEF」の入力	ワンタッチキー 22	か行の入力
ワンタッチキー 3	「GHI」の入力	ワンタッチキー 23	さ行の入力
ワンタッチキー 4	「JKL」の入力	ワンタッチキー 24	た行の入力
ワンタッチキー 5	「MNO」の入力	ワンタッチキー 25	な行の入力
ワンタッチキー 6	「PQR」の入力	ワンタッチキー 26	は行の入力
ワンタッチキー 7	「ST」の入力	ワンタッチキー 27	ま行の入力
ワンタッチキー 8	「UVW」の入力	ワンタッチキー 28	や行の入力
ワンタッチキー 9	「XYZ」の入力	ワンタッチキー 29	ら行の入力
ワンタッチキー 10	「0~9」の入力	ワンタッチキー 30	「ーわをん」の入力
ワンタッチキー 11	「. , ' "」の入力	ワンタッチキー 31	「 ` ` 」の入力
ワンタッチキー 12	「_ - + &」の入力	ワンタッチキー 32	〔記号〕キー
ワンタッチキー 13	「/():」の入力	〔両面送信〕キー	ひらがな、半角カタカナの切り替え
ワンタッチキー 14	「;?[]%!@=」の入力	〔ポーリング〕キー	〔▲〕キー (上へカーソル移動)
ワンタッチキー 15	「* #」の入力	〔時刻指定〕キー	〔変換〕キー
ワンタッチキー 16	スペースの入力	〔Fコード〕キー	無変換
ワンタッチキー 17	〔<〕キー (左へカーソル移動)	〔同報〕キー	〔<〕キー (左へカーソル移動)
ワンタッチキー 18	〔▲〕キー (上へカーソル移動)	無印キー	〔▼〕キー (下へカーソル移動)
ワンタッチキー 19	〔>〕キー (右へカーソル移動)	〔ボックス入出力〕キー	〔>〕キー (右へカーソル移動)
ワンタッチキー 20	大文字、小文字の切り替え	〔画面切替〕キー	〔確定〕キー

文字入力モードの切り替え方

文字入力モードの切り替えには、カバープレートの左右への移動、ワンタッチキー 20 及び [ひら / 半角カナ切り替え] キー（[両面送信] キー）を組み合わせ使用します。相手先名称などの入力時、入力モードを切り替えるときは、下記の手順にしたがって、操作を行ってください。

参考 メッセージ表示の 3 行目右側に表示されている文字は、現在設定されている入力モードを示しています。

- 全角漢字モード
(カバープレートが左に開いている状態)



カバープレートを左に開く ↑ ↓ カバープレートを右に開く

- 全角英数大モード



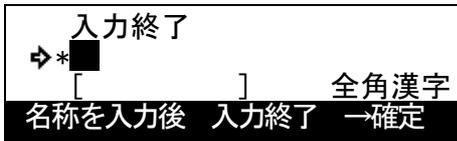
ワンタッチキー 20 を押す ↑ ↓ ワンタッチキー 20 を押す

- 全角英数小モード



カバープレートを右に開く ↑ ↓ カバープレートを左に開く

- 全角漢字モード



[両面送信] キーを押す ↑ ↓ [両面送信] キーを押す

- 半角カタカナモード



↓ カバープレートを右に開く

- 半角英数大モード



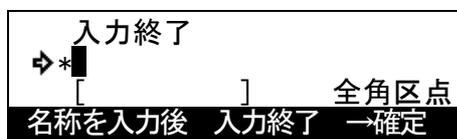
ワンタッチキー 20 を押す ↑ ↓ ワンタッチキー 20 を押す

- 半角英数小モード



[ストップ / クリア] キーを押す ↑ ↓ テンキーの「#」を押す

- 全角区点モード



入力のしかた

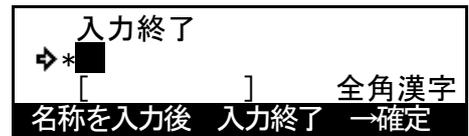
●全角漢字モードでの入力

全角漢字モードで相手先名称などを入力するときは、カバープレートを開きひらがなの配置されたワンタッチキーと[変換]キー（[時刻指定]キー）を使って、文字を入力します。下記の例を参考にして操作を行ってください。

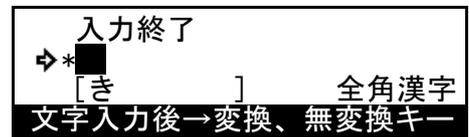
- 参考
- 漢字の入力は単漢字変換で1文字ずつ入力してください。
 - 全角漢字モードでは、全角のカタカナは入力できませんが英字は入力できません。

【例】「京ㇿ」の「京」と入力する場合

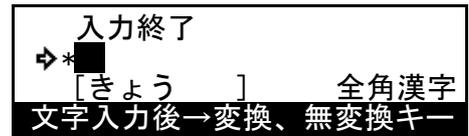
- 1 2-16 ページの文字入力モードの切り替え方を参照して、全角漢字モードを選択してください。



- 2 ワンタッチキー 22（か行）を2回押してください。「き」の文字がメッセージ表示の3行目に入力されます。



- 3 同様にワンタッチキー 28（や行）を6回押し、ワンタッチキー 21（あ行）を3回押してください。「きょう」の文字がメッセージ3行目に入力されます。



- 4 [変換]キーを押してください。変換候補の文字が表示されます。

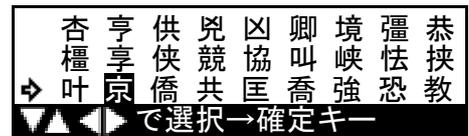
漢字に変換せずに“ひらがな”で入力するときは、[無変換]キーを押してください。手順3でメッセージ表示された「きょう」の文字が確定し、2行目に表示されます。



- 5 [▲]キー、[▼]キー、[<]キー、[>]キーを押してカーソルを動かし、変換したい文字を選択してください。

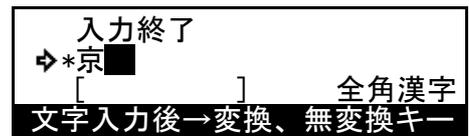
[▲]キーまたは[▼]キーを押すと、矢印カーソルは上下に動きます。

[<]キーまたは[>]キーを押すと、四角カーソルは左右に動きます。メッセージ表示は左右にスクロールしますので、該当する文字がないときは、その文字が表示されるまで[>]キーを押してください。



- 6 [確定]キーを押してください。選択した文字が確定します。

このとき[<]キーを押すと、カーソル位置は1文字分左へ戻ります。



- 7 文字の入力がすべて終了したら、[▲]キーを押して、「入力終了」を選択し、[確定]キーを押してください。

ご注意 同一行で2文字以上ひらがなを入力して漢字変換する場合は、文字入力後、[OK] キーを押してから次の文字を入力してください。

【例】「あい」と入力して「愛」を選択する場合

- 1 ワンタッチキー 21（あ行）を1回押して「あ」を入力してください。
- 2 [OK] キーを押してください。
- 3 ワンタッチキー 21（あ行）を2回押して「い」を入力してください。
- 4 [変換] キーを押した後、[▲] キーまたは[▼] キーで「愛」を選択してください。
- 5 [OK] キーを押してください。

●半角カタカナモードでの入力

半角カタカナで相手先名称などを入力するときは、ひらがなの配置されたワンタッチキーを使って、文字を入力します。下記の例を参考にして操作を行ってください。

参考 半角カタカナモードでは、漢字、ひらがな、英字は入力できません。

【例】「京ㇿ」のㇿを入力する場合

- 1 2-16 ページの文字入力モードの切り替え方を参照して、半角カタカナモードを選択してください。

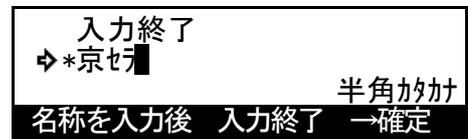


- 2 ワンタッチキー 23（さ行）を4回押してください。「ㇿ」の文字が入力されます。



次の文字を入力するときは[>] キーを押してカーソルを1文字移動させてください。

- 3 ワンタッチキー 29（ら行）を押してください。「ㇿ」の文字が入力されます。



最初から入力しなおすときは、[ストップ/クリア] キーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。

- 4 文字の入力が全て終了したら、[▲] キーを押して、「入力終了」を選択し [確定] キーを押してください。

●全角英数大文字 / 小文字モードでの入力

全角英数大文字モードや全角英数小文字モードでの入力は、カバープレートを右に開いた状態で英文字や記号が配置されているワンタッチキーを押すことによって行います。ここでは、先頭1文字が大文字、残りを小文字で入力するケースを考え、大文字モードと小文字モードでの入力方法を一緒に説明しています。下記の例を参考にして操作を行ってください。

参考 全角英数大文字 / 小文字モードでは、漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

【例】「Kyocera」と入力する場合

- 1 2-16 ページの文字入力モードの切り替え方を参照して、全角英数大文字モードを選択してください。



- 2 ワンタッチキー 4 (JKL) を 2 回押してください。メッセージ表示には全角の「K」の文字が入力されます。



[>] キーを押してカーソルを 1 文字移動させてください。

- 3 ワンタッチキー 20 (大文字 / 小文字) を押してください。入力モードが全角英数小文字モードに切り替わります。



再び全角英数大文字モードに戻したいときは、「全角英数大」の文字が表示されるまで、ワンタッチキー 20 (大文字 / 小文字) を押してください。

- 4 手順 2 と同様にして、小文字の「yocera」を入力してください。



最初から入力しなおすときは、[ストップ / クリア] キーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。

- 5 文字の入力が全て終了したら、[▲] キーを押して、「入力終了」を選択し [確定] キーを押してください。

●半角英数大文字 / 小文字モードでの入力のしかた

半角英数大文字モードや半角英数小文字モードでの入力、カバープレートを開いた状態で英文字や記号が配置されているワンタッチキーを押すことによって行います。ここでは、先頭1文字が大文字、残りを小文字で入力するケースを考え、大文字モードと小文字モードでの入力方法を一緒に説明しています。下記の例を参考にして操作を行ってください。

参考 半角英数大文字 / 小文字モードでは、漢字、ひらがな、カタカナは入力できません。

【例】「Kyocera」と入力する場合

- 1 2-16 ページの文字入力モードの切り替え方を参照して、半角英数大文字モードを選択してください。



- 2 ワンタッチキー 4 (JKL) を 2 回押してください。メッセージ表示には半角の「K」の文字が入力されます。次の文字を入力するときは [P] キーを押してカーソルを 1 文字移動させてください。



- 3 ワンタッチキー 20 (大文字 / 小文字) を押してください。入力モードが半角英数小文字モードに切り替わります。



再び半角英数大文字モードに戻したいときは、「半角英数大」の文字が表示されるまで、ワンタッチキー 20 (大文字 / 小文字) を押してください。

- 4 手順 2 と同様にして、小文字の「yocera」を入力してください。



最初から入力しなおすときは、[ストップ / クリア] キーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。

- 5 文字の入力が全て終了したら、[▲] キーを押して、「入力終了」を選択し [確定] キーを押してください。

●全角区点コードモードでの入力のしかた

全ての文字をテンキーを使って区点コードで入力する方法です。漢字、ひらがな、カタカナ、英数字、記号を入力することができます。

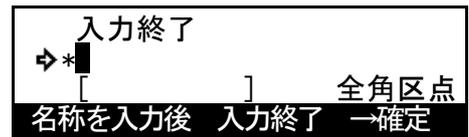
- 参考
- 入力できる文字は全角文字に限ります。半角文字は入力できません。
 - 各文字の区点コードは、10-8 ページの区点コード表を参照してください。
 - 文字と文字の間にスペースを入力するときは、ワンタッチキー 19 を押すか、[>] キーを押してカーソルを次の文字入力位置に動かしてください。
 - 最初から入力しなおすときは、[ストップ/クリア] キーを押してください。入力した文字が全てクリアされます。

【例】「大阪」と入力する場合

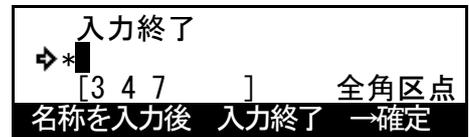
- 1 10-8 ページの区点コード表を参照して、入力に必要な全ての文字の区点コード（4 桁）をメモしてください。この例で入力する「大」の区点コードは“3471”、「阪」の区点コードは“2669”となります。

漢字を探すときは、音読みで探してください。

- 2 [#] キーを押すと、全角区点コードモードになります。



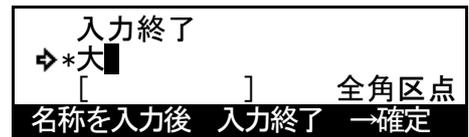
- 3 テンキーを使って“347”と入力してください。入力した区点コードの3桁目までが、メッセージ表示の3行目に入力されます。



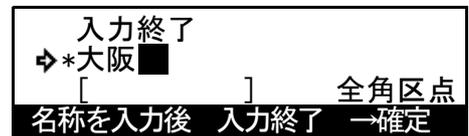
- 4 テンキーを使って“1”を入力してください。「大」の文字がメッセージ表示の2行目に入力されます。

区点コードの4桁目を入力すると、文字が表示されます。

このとき [>] キーを押すと、カーソル位置は1文字分左へ戻ります。



- 5 手順2～4と同様にして、区点コード“2669”を入力してください。「阪」の文字が「大」の後に続いて入力されます。



- 6 [▲] キーを押して、「入力終了」を選択してください。

「入力終了」を選択後、[確定] キーを押すと文字の入力が終了します。

ワンタッチキーで送信する（ワンタッチダイヤル）

ワンタッチキーに相手先のファクス番号を登録しておく、ワンタッチダイヤルとして使うことができます。また、ワンタッチダイヤルは、暗号通信時の相手先指定にも使われます。

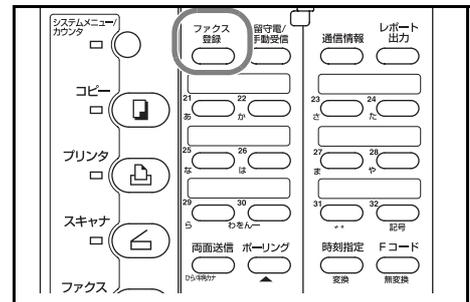
登録のしかた

- 参考
- 32個のワンタッチキー全てにワンタッチダイヤルを登録できます。
 - 登録時に [F コード] キーを押してサブアドレスを入力した場合、暗号通信に関する登録を行うことはできません。
 - 登録したワンタッチダイヤルの内容を確認するときは、ワンタッチダイヤルリストを出力してください。
 - ワンタッチダイヤルの登録時には、ファクス番号だけでなく相手先名称も登録されることをおすすめします。相手先名称が登録されていると、宛先帳機能を使って相手先を検索するときに役立ちます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。（1-13 ページの初期モードについて参照）

機械がファクスモードでないときは、[ファクス] キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

- 2 カバープレートをし、[ファクス登録] キーを押してください。

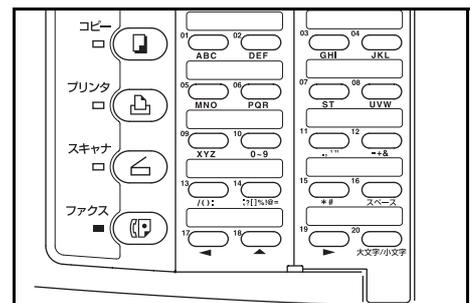


- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「ワンタッチダイヤル登録」を選択してください。

ファクス登録：
終了
短縮ダイヤル登録
➡ ワンタッチダイヤル登録

- 4 [OK] キーを押してください。

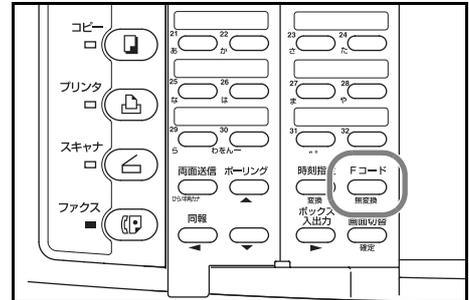
- 5 未登録のワンタッチキーを押してください。



- 6 テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。
- 相手先番号は最大 32 桁まで入力することができます。



- 7 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押した後、次の手順 8 へ進んでください。
- Fコード通信を行わないときは、手順 11 へ進んでください。



- 8 テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。
- サブアドレスは Fコード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックス（Fコードボックス）を指定するために必要です。0～9の数字を使って最大 20 桁までで入力してください。



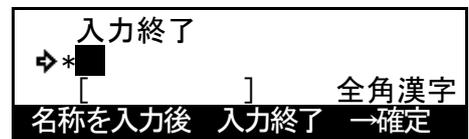
- 9 [OK] キーを押してください。
- 10 テンキーを使って、Fコードパスワードを入力してください。
- Fコードパスワードは、Fコード通信を行うときに使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。



> Fコードパスワードを入力するときは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大 20 桁までで入力してください。

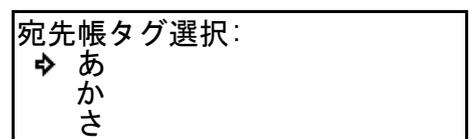
> Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順 11 へ進んでください。

- 11 [OK] キーを押してください。
- 12 相手先名称を入力してください。



参考 全角文字なら最大 10 文字、半角文字なら最大 20 文字まで登録することができます。(2-15 ページの文字を入力する参照)

- 13 [確定] キーを押してください。
- 14 [▲] キーまたは [▼] キーを押して画面をスクロールさせ、宛先帳タグを選択してください。



- 15 [OK] キーを押してください。

- 16 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、送信開始速度を選択してください。

「33600bps」を選択して通信エラーが多発する場合は、「14400bps」または「9600bps」を選択してください。ただし、通信時間は長くなります。

＞手順7で [F コード] キーを押し、F コード通信の設定を行ったときは、手順22へ進んでください。

＞手順7で [F コード] キーを押していないときは、[OK] キーを押した後、手順17へ進んでください。

送信開始速度：
➡ 33600bps
14400bps
9600bps

- 17 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、現在登録中のワンタッチダイヤルを暗号通信用として登録するかどうかを選択してください。

暗号通信：
On
➡ Off

＞暗号通信用として登録するときは「On」を選択した後、次の手順18へ進んでください。

＞暗号通信用として登録しないときは、「Off」を選択した後、手順22へ進んでください。

- 18 [OK] キーを押してください。

- 19 使用する暗号鍵に対応する暗号鍵番号を、テンキーを使って01～20までの2桁で入力してください。

暗証鍵番号:00

暗号鍵の番号を入力して下さい

- 20 [OK] キーを押してください。

- 21 受信側に設定されている暗号ボックスのボックス番号を入力してください。

BOX番号:0000

BOX番号を入力して下さい

- 22 [OK] キーを押してください。ワンタッチダイヤルの登録が終了します。

＞引き続き別のワンタッチダイヤルの登録を行うときは、手順5に戻ってください。

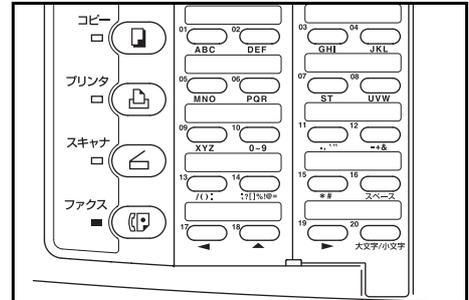
＞これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

内容の変更と削除のしかた

登録内容の変更時、Fコード通信の設定がONのときは暗号通信に関する登録を行うことはできません。また、同様に暗号通信の設定がONのときはFコード通信に関する登録を行うことができません。

1 2-22 ページの登録のしかたの手順1～4の操作を行ってください。

2 対象となるワンタッチダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



3 >登録内容を変更するとき

(1) [▲] キーまたは [▼] キーを押して画面をスクロールさせ、変更したい内容を選択してください。



(2) [OK] キーを押してください。



参考 個々の内容の変更手順については、2-22 ページの登録のしかたを参照し操作を行ってください。

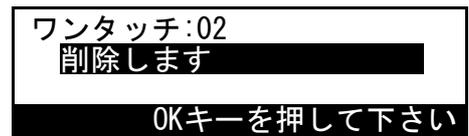
>ワンタッチダイヤルを削除するとき

(1) [ストップ/クリア] キーを押してください。

削除を中止するときは、もう一度 [ストップ/クリア] キーを押してください。



(2) [OK] キーを押してください。



4 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

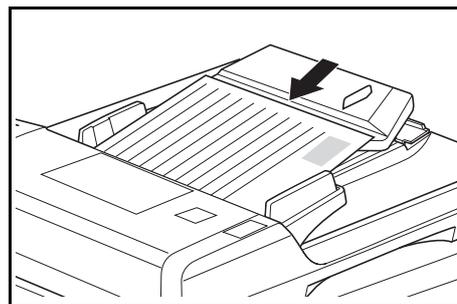
使いかた

あらかじめ登録されたワンタッチダイヤルを使って相手先にダイヤルすることができます。

- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。（1-13ページの初期モードについて参照）

機械がファクスモードでないときは、[ファクス] キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

- 2 原稿をセットしてしてください。



- 3 使いたいワンタッチダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

- 参考
- ・ コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿 1 枚ごとに読み込みの継続の選択操作を行う必要があります。（2-8 ページ参照）
 - ・ 機械は送信のための動作を開始します。[スタート] キーを押す必要はありません。
 - ・ ワンタッチキーを押したときに以下のようなメッセージが表示される場合は、7-7 ページの相手先の名称を確認してダイヤルする（ダイヤル確認設定）が「On」になっています。

相手先名称など登録内容を確認して、メッセージ表示のしたに表示される数字をテンキーで入力してください。ダイヤルを開始します。

☎：関東エリア

原稿：A4

1番のキーを押して下さい

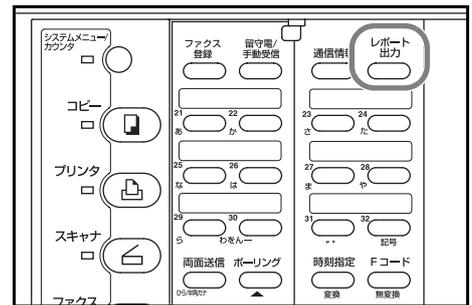
ワンタッチダイヤルリストの出力のしかた

ワンタッチダイヤルに登録されているファクス番号は、ワンタッチダイヤルリストを出力することによって確認できます。

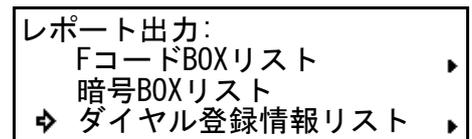
- 参考
- ワンタッチダイヤルが全く登録されていない場合、ワンタッチダイヤルリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。

2 カバープレートをし、[レポート出力] キーを押してください。

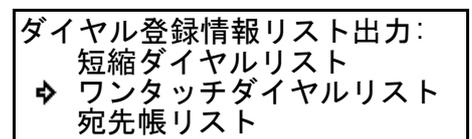


[▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



3 [OK] キーを押してください。

4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ワンタッチダイヤルリスト」を選択し、[OK] キーを押してください。ワンタッチダイヤルリストの出力が開始されます。



メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

ワンタッチダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

3桁の数字で相手先にダイヤルする（短縮ダイヤル）

相手先のファクス番号と一緒に3桁の短縮番号を登録しておく、短縮ダイヤルとして使うことができます。また、短縮ダイヤルは、暗号通信時の相手先指定にも使われます。

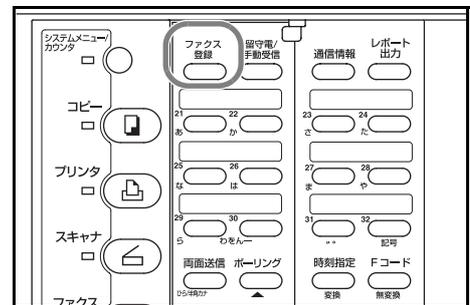
登録のしかた

- 参考
- 短縮ダイヤルは最大200個（000～199）まで登録できます。
 - 登録時に[Fコード]キーを押してサブアドレスを入力した場合、暗号通信に関する登録を行うことはできません。
 - 登録した短縮ダイヤルの内容を確認するときは、短縮ダイヤルリストを出力してください。
 - 短縮ダイヤルの登録時には、ファクス番号だけでなく相手先名称も登録されることをおすすめします。相手先名称が登録されていると、宛先帳機能を使って相手先を検索するときに役立ちます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

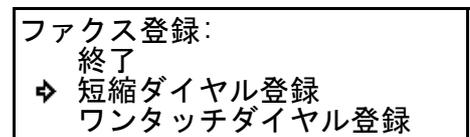
- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。（1-13ページの初期モードについて参照）

機械がファクスモードでないときは、[ファクス]キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

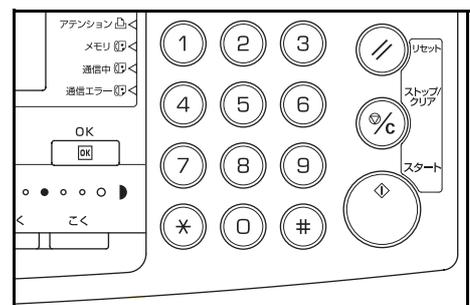
- 2 カバープレートをし、[ファクス登録]キーを押してください。



- 3 メッセージ表示で「短縮ダイヤル登録」が選択されていることを確認し、[OK]キーを押してください。



- 4 テンキーを使って、登録したい短縮番号を3桁（000～199）で入力してください。



- 5 [OK]キーを押してください。

- 6 テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。
相手先番号は最大 32 桁まで入力することができます。

☎: _
_

ファクス番号を入力して下さい

- 7 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押した後、次の手順 8 へ進んでください。
Fコード通信を行わないときは、手順 11 へ進んでください。

- 8 テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。
サブアドレスはFコード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックス（Fコードボックス）を指定するために必要です。0～9の数字を使って最大 20 桁までで入力してください。

サブアドレス:
_ (20桁)
_

サブアドレスを入力して下さい

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 テンキーを使って、Fコードパスワードを入力してください。
Fコードパスワードは、Fコード通信を行うときに使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

パスワード: _
_ (20桁)
_

パスワードを入力して下さい

> Fコードパスワードを入力するときは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大 20 桁までで入力してください。
> Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順 11 へ進んでください。

- 11 [OK] キーを押してください。

- 12 相手先名称を入力してください。
全角文字なら最大 10 文字、半角文字なら最大 20 文字まで登録することができます。(2-15 ページの文字を入力する参照)

入力終了
◆* [] 全角漢字
名称を入力後 入力終了 →確定

- 13 [確定] キーを押してください。

- 14 [▲] キーまたは [▼] キーを押して画面をスクロールさせ、宛先帳タグを選択してください。

宛先帳タグ選択:
◆ あ
か
さ

- 15 [OK] キーを押してください。

- 16 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、送信開始速度を選択してください。

「33600bps」を選択して通信エラーが多発する場合は、「14400bps」または「9600bps」を選択してください。ただし、通信時間は長くなります。

＞手順7で [F コード] キーを押し、F コード通信の設定を行ったときは、手順22へ進んでください。

＞手順7で [F コード] キーを押していないときは、[OK] キーを押した後、手順17へ進んでください。

送信開始速度:
 ➔ 33600bps
 11400bps
 9600bps

- 17 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、現在登録中の短縮ダイヤルを暗号通信用として登録するかどうかを選択してください。

＞暗号通信用として登録するときは「On」を選択した後、次の手順18へ進んでください。

＞暗号通信用として登録しないときは、「Off」を選択した後、手順22へ進んでください。

暗号通信:
 On
 ➔ Off

- 18 [OK] キーを押してください。

- 19 使用する暗号鍵に対応する暗号鍵番号を、テンキーを使って01～20までの2桁で入力してください。

暗証鍵番号:00

暗号鍵の番号を入力して下さい

- 20 [OK] キーを押してください。

- 21 受信側に設定されている暗号ボックスのボックス番号を入力してください。

BOX番号:0000

BOX番号を入力して下さい

- 22 [OK] キーを押してください。短縮ダイヤルの登録が終了します。

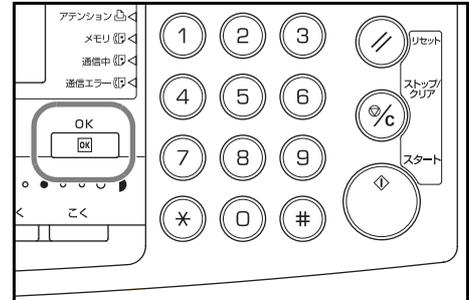
＞引き続き別の短縮ダイヤルの登録を行うときは、手順4に戻ってください。

＞これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

内容の変更と削除のしかた

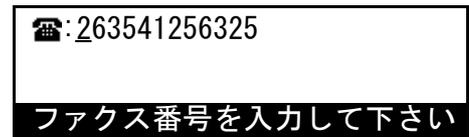
登録内容の変更時、Fコード通信の設定が「ON」のときは暗号通信に関する登録を行うことはできません。また、同様に暗号通信の設定が「ON」のときはFコード通信に関する登録を行うことができません。

- 1 2-28 ページの登録のしかたの手順1～3の操作を行ってください。
- 2 対象となる短縮ダイヤルの短縮番号（3桁）を入力し、[OK] キーを押してください。



3 >登録内容を変更するとき

- (1) [▲] キーまたは [▼] キーを押して画面をスクロールさせ、変更したい内容を選択してください。
- (2) [OK] キーを押してください。



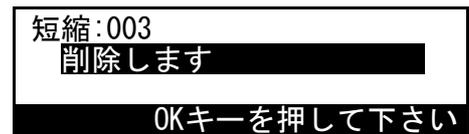
参考 個々の内容の変更手順については、2-28 ページの登録のしかたを参照し操作を行ってください。

>短縮ダイヤルを削除するとき

- (1) [ストップ/クリア] キーを押してください。
削除を中止するときは、もう一度 [ストップ/クリア] キーを押してください。



- (2) [OK] キーを押してください。
登録内容の変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



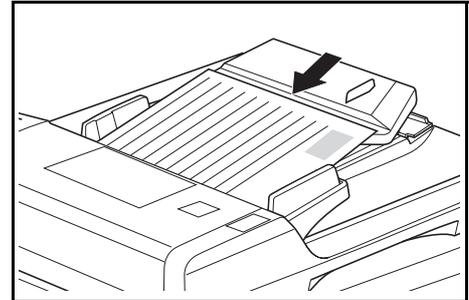
使いかた

あらかじめ登録された短縮番号（3桁）を使って相手先にダイヤルすることができます。

- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。（1-13ページの初期モードについて参照）

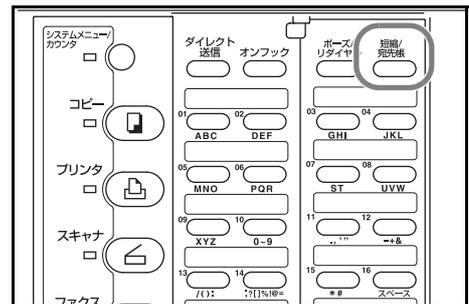
機械がファクスモードでないときは、[ファクス] キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

- 2 原稿をセットしてください。



参考 コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択操作を行う必要があります。（2-8ページ参照）

- 3 カバープレートをして、[短縮 / 宛先帳] キーを押してください。



- 4 テンキーを使って、相手先を登録している短縮番号を（3桁）で入力してください。

機械は送信のための動作を開始します。[スタート] キーを押す必要はありません。



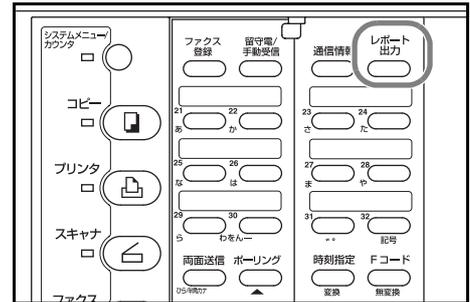
入力された短縮番号に何も登録されていない場合は、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

短縮ダイヤルリストの出力のしかた

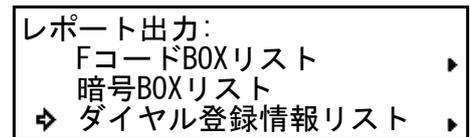
短縮ダイヤルに登録されているファクス番号は、短縮ダイヤルリストを出力することによって確認できます。

- 参考
- 短縮ダイヤルが全く登録されていない場合、短縮ダイヤルリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。
- 2 カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。

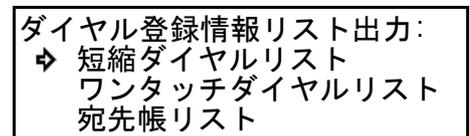


- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



- 4 [OK] キーを押してください。

- 5 「短縮ダイヤルリスト」が選択されていることを確認した後、もう一度 [OK] キーを押してください。短縮ダイヤルリストの出力が開始されます。



メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

短縮ダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

宛先帳でダイヤルする（宛先帳）

短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルに登録している相手先の名前を検索し、その検索した相手先にすぐにダイヤルできる機能です。宛先帳では、グループダイヤル、プログラムダイヤルも検索することができます。登録している相手先が多い場合などは非常に役立ちます。

- 参考
- 相手先番号の登録時（プログラムダイヤル/グループダイヤル/メモリー転送）や各種機能通信の相手先番号入力にも宛先帳を使用することができます。
 - 短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤルの登録時に、名称（相手先名称/グループ名称/プログラム名称）を登録しておくことをお勧めします。名称を登録していない場合は、相手先のファクス番号が表示されます。

<宛先帳タグ>

宛先帳機能では、相手先を探しやすくするために、ダイヤル登録時に宛先帳タグ（見出し）を登録し、そのタグを使って検索を行います。宛先帳タグは、「かな」と「数字」の2種類のうちのどちらかを選ぶことができます。7-18 ページの宛先帳のタグを選択する（宛先帳タグ設定）参照

かな：あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わ、英数字

数字：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9

<検索ルール>

検索は、選択したタグ内において、まず短縮番号の若い順に表示され、その後ワンタッチキーの番号の若い順に表示されます。

宛先帳の使用のしかた

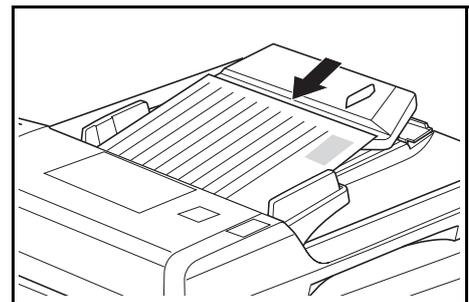
ここでは例として、「かな」の宛先帳タグが設定されている場合の検索方法を説明しています。

[例]「京セラミタ」を検索する場合

- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。（1-13 ページの初期モードについて参照）

機械がファクスモードでないときは、[ファクス] キーを押して、ファクス表示を点灯させてください。

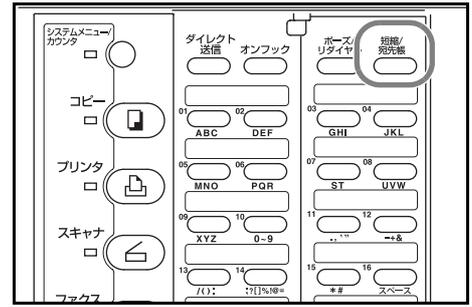
- 2 送信するときは原稿をセットしてください。



- 3 カバープレートを右にして、[短縮 / 宛先帳] キーを2回押してください。

ダイヤル登録時の宛先帳タグ選択で「あ」を選んで登録した相手先がメッセージ表示の上の行から順に表示されます。

相手先の名称を登録しなかったときは、相手先の番号が表示されます。



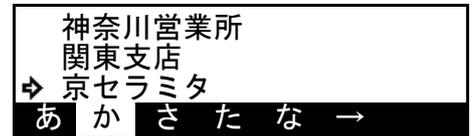
- 4 [<] キーもしくは [>] キーを押して、宛先帳タグの「か」を選択してください。

ダイヤル登録時の宛先帳タグ選択で「か」を選んで登録した相手先がメッセージ表示の上の行から順に表示されます。

属する相手が何もない宛先帳タグについては、エラーメッセージが表示されます。



- 5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「京セラミタ」を選択してください。



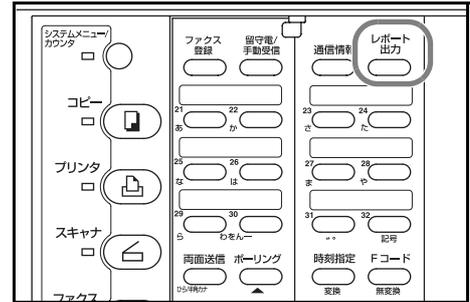
- 6 [OK] キーを押してください。選択した相手先へのダイヤルが行われます。メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

宛先帳リストの出力のしかた

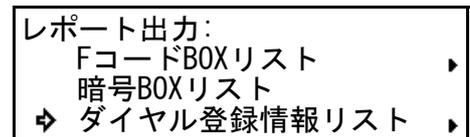
宛先帳機能で検索できる相手先は宛先帳リストを出力すれば確認できます。

- 参考
- 検索できる相手先がない場合、宛先帳リストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 機械がファクスの初期モードであることをメッセージ表示で確認してください。
- 2 カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。

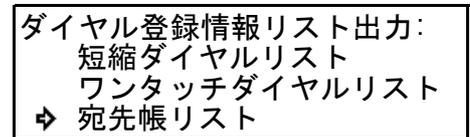


- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



- 4 [OK] キーを押してください。

- 5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「宛先帳リスト」を選択し、[OK] キーを押してください。宛先帳リストの出力が開始されます。



メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

検索できる相手先が全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

同じ相手にダイヤルする（リダイヤル）

リダイヤルは、直前にダイヤルした相手先の番号をもう一度ダイヤルする機能です。

自動リダイヤルのしかた

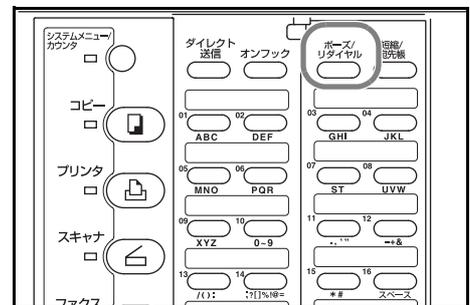
原稿を送信しようとしても、相手先がすでに通信中で応答しないときもあります。そんなときに機械が再び自動でダイヤルを行ってくれる機能です。

- 参考
- 機械が自動で行うため、何ら操作の必要はありません。自動リダイヤルは一定の間隔をあけて数回行われますので、相手先の通信が長引いた場合でも安心です。
 - ダイレクト送信時は、自動リダイヤルは行われません。

手動リダイヤルのしかた

送信を試みたが、相手先が応答しない。そんなときに [ポーズ/リダイヤル] キーを押すと、直前にダイヤルした相手先の番号を、機械がもう一度ダイヤルする機能です。

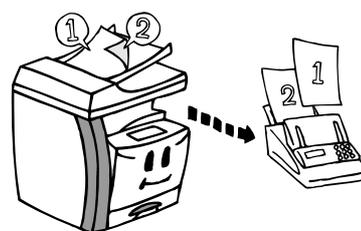
カバープレートを右にして、[ポーズ/リダイヤル] キーを押してください。機械がもう一度ダイヤルを行います。



3 ファクスの操作方法（活用編）

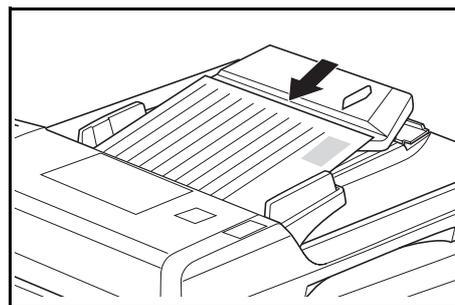
両面原稿を送信する（両面送信）

オプションの原稿送り装置を装着時に両面原稿の表と裏の両方の原稿を送信することができる機能です。両面送信は、原稿送り装置から原稿読み込みを行う全てのメモリ送信で行うことができ、各種機能通信と組み合わせて行うことも可能です。ここでは、1宛先に両面原稿を送信する方法をご紹介します。



- 参考
- 両面送信を行うためには、事前に原稿送り装置読み設定で「定形原稿」を選択しておく必要があります。「長尺原稿」に設定されているときは、両面送信を行うことができません。（7-10 ページの原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読み設定）参照）
 - 操作途中で一度でも【両面送信】キーを押すと、短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルのオートスタート機能は働かなくなります。
 - 開始時刻を指定するときは、相手先ファクス番号の入力終了までに【時刻指定】キーを押してください。
 - 操作を途中で中止するときは、【リセット】キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

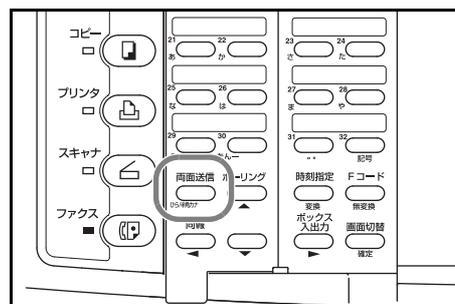
- 1 両面原稿を原稿送り装置にセットしてください。



- 2 カバープレートを開き、【両面送信】キーを押してください。

メッセージ表示の1行目に、両面送信であることを示す「D」の文字が表示されます。

もう一度【両面送信】キーを押すと、両面送信は解除されます。



- 3 相手先のファクス番号を入力してください。
相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。



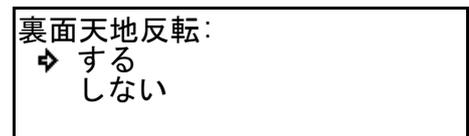
- 4 [OK] キーを押してください。
- 5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、カバーページの有無を選択してください。



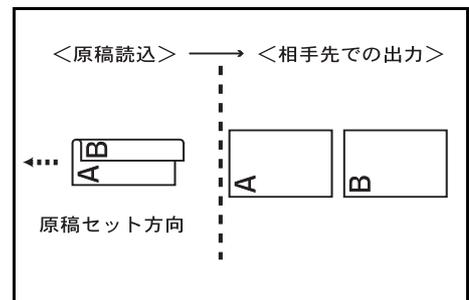
＞両面原稿の先頭に片面印字された送り状などを添付して送信するときは、「あり」を選択してください。機械は、原稿1枚目の片面（裏面）は読み込まずに送信を行います。

＞両面原稿だけを送るときは、「なし」を選択してください。

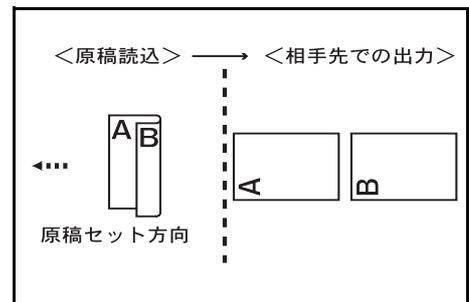
- 6 [OK] キーを押してください。
- 7 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、原稿裏面を天地反転して読み込むかどうかを選択してください。



＞原稿を文字に対して垂直に読み込むときは、「する」を選択してください。機械は、読み込み時にメモリ内で原稿の裏面を反時計回りに180度回転します。



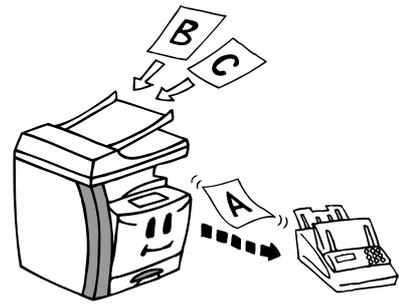
＞原稿を文字に対して水平に読み込むときは、「しない」を選択してください。



- 8 [OK] キーを押してください。機械はいったん原稿をメモリに読み込み、送信のための動作を開始します。

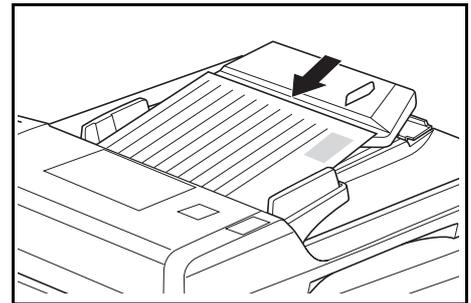
通信中に次の原稿を予約する（送信予約）

送信予約とは、機械が通信中であるときに次の送信を予約することです。通信中に原稿をセットして相手先のファクス番号を入力しておく、その通信が終われば自動的に送信が開始されます。



- 参考
- ・ 時刻指定をした通信や割り込み通信と合わせて最大 50 件まで予約することができます。
 - ・ 順次同報送信などの機能通信を予約することもできます。
 - ・ ダイレクト送信時に送信予約を解除する場合は、原稿送り装置またはコンタクトガラス上からセットされた原稿を取り除いてください。
 - ・ 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 原稿送り装置またはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。



- 2 相手先のファクス番号を入力してください。

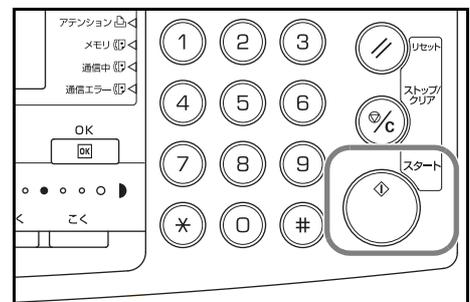
相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。



- 3 [スタート] キーを押してください。セットした原稿がメモリに読み込まれます。

ダイレクト送信モード時は、セットされた原稿は原稿送り装置またはコンタクトガラス上で待機状態となります。

通信が終了すると、機械は送信のための動作を開始します。



＜ダイレクト送信予約中に【ストップ/クリア】キーを押したとき…＞

ダイレクト送信モードで送信予約が行われたときに【ストップ/クリア】キーを押すと、送信予約をキャンセルするかどうかの選択を促すメッセージが表示されます。



- (1) 送信予約をキャンセルするかどうかを【▲】キーまたは【▼】キーで選択してください。

通信を続行する：
はい
➡ いいえ

＞送信予約をそのまま継続するときは、「はい」を選択してください。

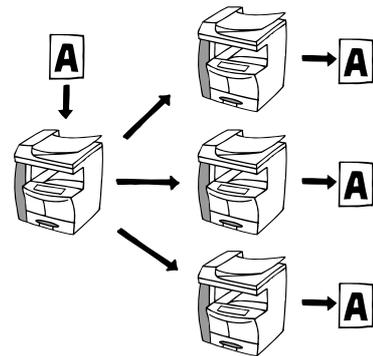
＞送信予約をキャンセルするときは、「いいえ」を選択してください。

- (2) 【OK】キーを押してください。

【OK】キーを押さずに放置したときは、一定時間経過後に送信予約は自動的にキャンセルされます。

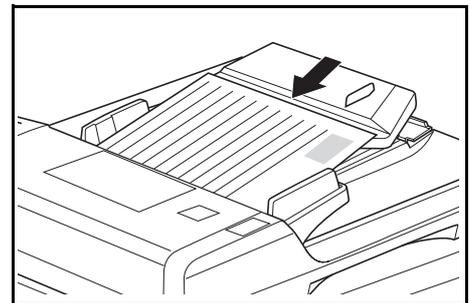
たくさんの相手先に送信する（順次同報送信）

一度の操作で同じ原稿を順次何カ所もの相手先に送ることができる機能です。本社から複数の支店に同じ原稿を送る場合など、この機能を使うと操作が一回で済むので非常に便利です。機械は送信する原稿をいったんメモリに蓄積（記憶）し、その後で指定された相手先の分だけ自動的にダイヤルと送信を繰り返して行います。

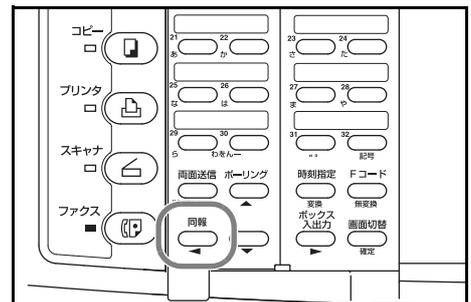


- 参考
- 原稿を送信する複数の相手先番号の全てを、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルのいずれかによって入力する場合は、1回の操作で最大232ヶ所の相手先に送信することができます。
 - 順次同報送信時は、ダイレクト送信モードが設定されている場合でもメモリ送信で送信が行われます。
 - Fコード送信や時刻指定送信も合わせて行うことができます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 原稿送り装置またはコンタクトガラスに原稿をセットしてください。



- 2 カバープレートをし、[同報キー]を押してください。



- 3 相手先のファクス番号を入力してください。

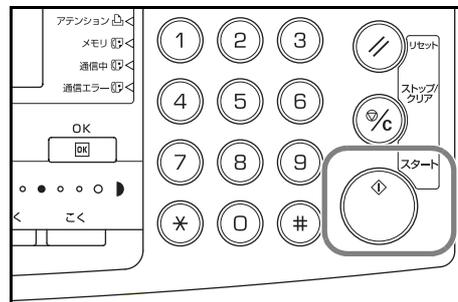
相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。



- 4 [OK]キーを押してください。

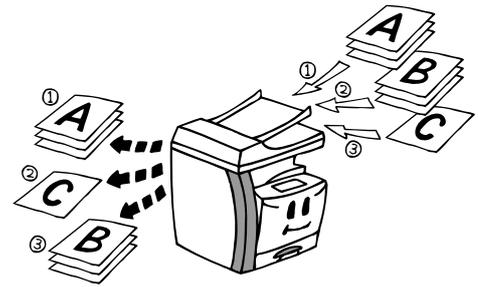
- 5 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。
- ＞まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順3に戻ってください。
 - ＞相手先の入力が全て終わったときは、次の手順6へ進んでください。

- 6 [スタート] キーを押してください。機械は原稿をメモリに読み込み、送信のための動作を開始します。
- 開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は送信を開始します。



別の原稿を優先して送信する（割込送信）

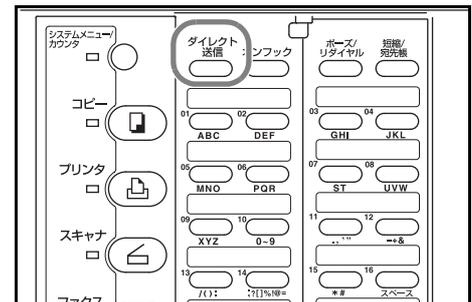
複数の相手先と順次連続した通信（同報送信やポーリング受信など）が行われているときや、既にメモリに送信予約された原稿があるときでも、手持ちの原稿を割り込ませて先に送信させることができます。



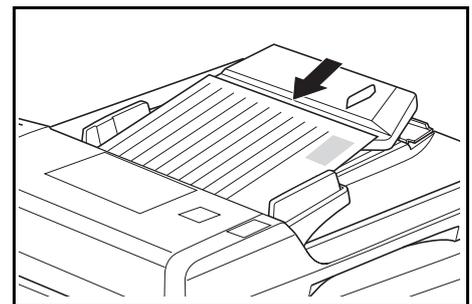
- 参考
- 割込送信は、1宛先に送信する場合にのみ可能です。
 - 送信予約や時刻指定された通信などがすでに50件分ある場合、割込送信を行うことはできません。
 - 割込操作のタイミングによっては、現在行われている送信のすぐ後に割り込めない場合があります。
 - 割込送信を中止する場合は、セットした原稿を取り除いてください。
 - 割込送信の待機中に[ストップ/クリア]キーを押したときは、P3-4ページの<ダイレクト送信予約中に[ストップ/クリア]キーを押したとき…>を参照して操作を行ってください。

- 1 カバープレートを開き、[ダイレクト送信]キーを押してください。

メモリ送信表示が消灯し、ダイレクト送信モードが設定されます。



- 2 原稿送り装置またはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。



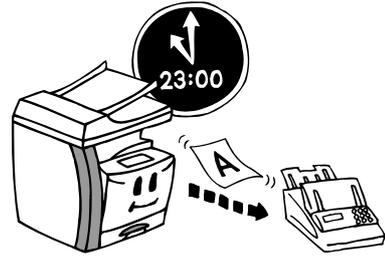
- 3 相手先のファクス番号を入力してください。



- 4 [スタート]キーを押してください。原稿はメモリには読み込まれず、そのままの状態待機中となります。そして現在行われている通信が終了すれば、機械は送信を開始します。

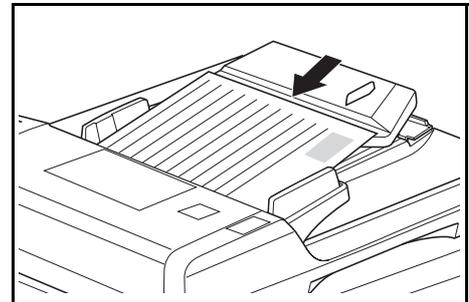
指定の時間に送信する（時刻指定通信）

通信を開始する時刻をあらかじめセットしておく、指定の時刻がくれば機械が自動的に通信を行う機能です。時刻指定通信は、順次同報送信などの各種機能通信とも併用することができます。ここでは、1宛先に開始時刻を指定して原稿を送信する方法をご紹介します。



- 参考
- 開始時刻を指定した場合、ダイレクト送信モードが設定されている場合でも、送信はメモリ送信で行われます。
 - 時刻の指定は、00:00～23:59までの1分単位で行うことができます。
 - 送信予約、割り込み通信と合わせて最大50件まで時刻指定通信を行うことができます。
 - 指定時刻が同じ通信予約が2つ以上ある場合、原則的には予約が行われたもの順に通信が開始されますが、予約順が逆でも、単一相手先への通信は複数相手先への通信よりも優先して先に行われます。
 - 待機通信のキャンセルや予約した内容の変更を行うことができます。（3-14ページの予約中の原稿を編集する（メモリ編集）参照）
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

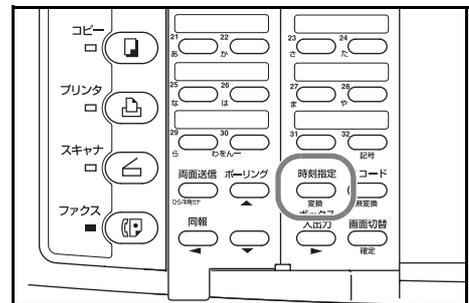
- 1 原稿送り装置またはコンタクトガラスに原稿をセットしてください。



- 2 カバープレートを開き、[時刻指定]キーを押してください。

メッセージ表示の1行目に、時刻指定通信であることを示す「T」の文字が表示されます。

すでに通信予約限度（50件まで）に達している場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK]キーを押すと、機械は初期モードに戻ります。



- 3 相手先のファクス番号を入力してください。

相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。



4 [OK] キーまたは [スタート] キーを押してください。

5 テンキーを使って通信を開始したい時刻を入力してください。

通信時刻:02:43

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。

通信時刻を入力して下さい

6 [OK] キーを押してください。機械は原稿をメモリへ読み込み、指定時刻になると送信を開始します。

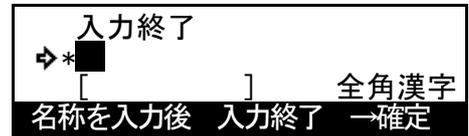
参考 タイマー予約レポートの出力設定が「ON」に設定されている場合は、タイマー予約レポートが出力されます。（7-1 ページ参照）

- 5 テンキーを使って、チェーン番号として登録する番号を入力してください。
チェーンダイヤル番号は最大 32 桁まで入力することができます。



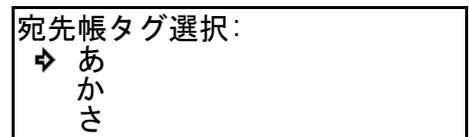
- 6 [OK] キーを押してください。

- 7 チェーン名称を入力してください。
全角文字なら最大 10 文字、半角文字なら最大 20 文字まで登録することができます。
(2-15 ページの文字を入力する参照)



- 8 [確定] キーを押してください。

- 9 [▲] キーまたは [▼] キーを押して画面をスクロールさせ、宛先帳タグを選択してください。

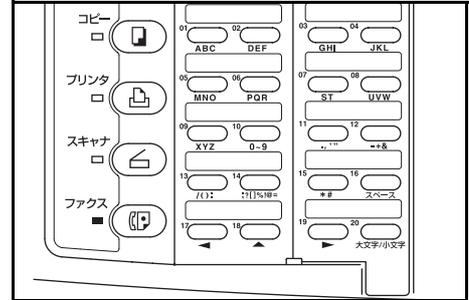


- 10 [OK] キーを押してください。チェーンダイヤルの登録が終了します。
>引き続き別のチェーンダイヤルの登録を行うときは、手順 4 ~ 10 を繰り返してください。
>登録が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

内容の変更と削除のしかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 3-10 ページの登録のしかたの手順 1～3 の操作を行ってください。
- 2 対象となるチェーンダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

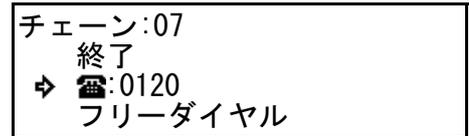


- 3 「>登録内容を変更するとき」、 「>チェーンダイヤルを削除するとき」 それぞれの手順にしたがって操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

[▲] キーまたは [▼] キーを押して変更したい内容を選択し、[OK] キーを押してください。

個々の内容の変更手順については、3-10 ページの登録のしかたを参考にして操作を行ってください。



>チェーンダイヤルを削除するとき

- (1) [ストップ/クリア] キーを押してください。

削除を中止するときは、もう一度 [ストップ/クリア] キーを押してください。



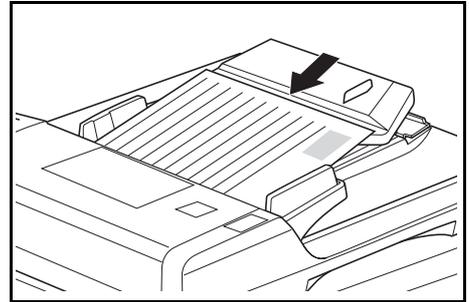
- (2) [OK] キーを押してください。

- 4 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

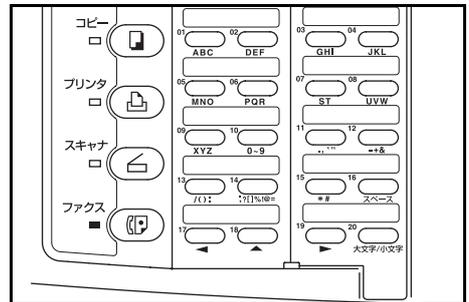
使いかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 原稿を送信するときは、原稿をセットしてください。



- 2 使いたいチェーンダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



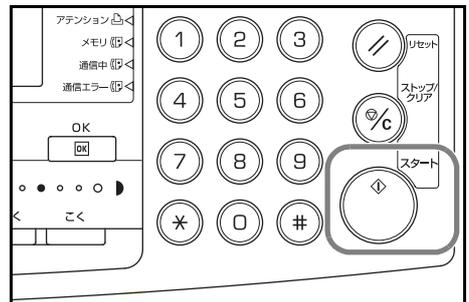
- 3 相手先のファクス番号を入力してください。
相手先番号の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、または宛先帳機能を使用することもできます。



番号を入力すると、メッセージ表示に表示されていたチェーンダイヤル番号またはチェーン名称は消え、後から入力した番号や名称だけが表示されます。

入力途中で[ストップ/クリア]キーを押すと、番号を最初から入力しなおすことができます。

- 4 [スタート] キーを押してください。機械は通信のための動作を開始します。



予約中の原稿を編集する（メモリ編集）

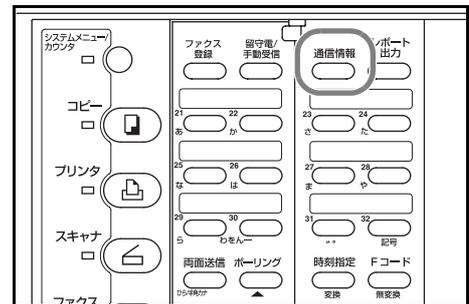
メモリ内で待機中の予約通信に関して、予約内容の変更や予約された通信のキャンセルを行うことができます。また、その他にも送信待ちの原稿イメージを出力させたり、予約時刻を待たずに通信をすぐに開始させたりすることなどもできます。

通信原稿の印字のしかた

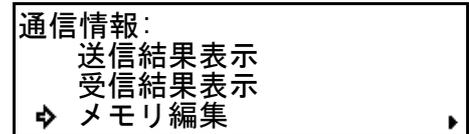
メモリ内で待機中の送信原稿を確認したいとき、その原稿を出力させることができます。

- 参考
- ・ 原稿イメージを出力させても送信は予定どおり行われます。
 - ・ 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

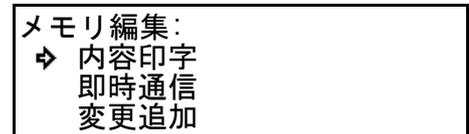
- 1 カバープレートをし、[通信情報] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「メモリ編集」を選択し、[OK] キーを押してください。



- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「内容印字」を選択し、[OK] キーを押してください。



メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリ編集メニュー画面に戻ります。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、出力したい原稿を選択してください。



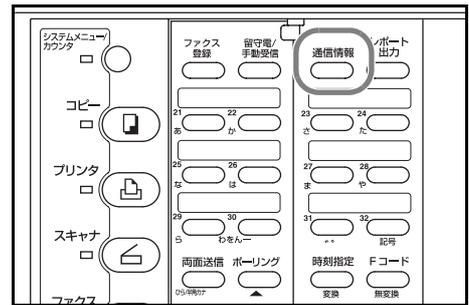
- 5 [OK] キーを押してください。メモリ内で送信待機中の原稿イメージが出力されます。

通信の即時実行のしかた

メモリ内で待機中の予約通信を、予約時刻を待たずにすぐに開始させることができます。

- 参考
- ・ 即時通信は他のどの通信よりも優先して先に行われます。
 - ・ リダイヤル待機中の原稿を即時送信させることもできます。
 - ・ 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

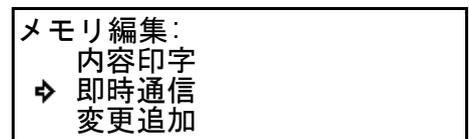
- 1 カバープレートを左にし、[通信情報] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「メモリ編集」を選択し、[OK] キーを押してください。



- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「即時通信」を選択し、[OK] キーを押してください。



メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリ編集メニュー画面に戻ります。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、即時通信したい文書番号を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。機械はすぐに通信のための動作を開始します。

通信内容の変更のしかた

メモリ内に保持（記憶）されている予約通信の内容について、変更や追加及び削除を行うことができます。変更方法は、送受信の各機能通信を利用する場合などによって異なります。ここでは、順次同報送信の場合を例にあげて説明を行います。その他の機能通信の予約内容を変更する場合は、下記の操作説明を参考にしながら、メッセージ表示の指示にしたがって行ってください。

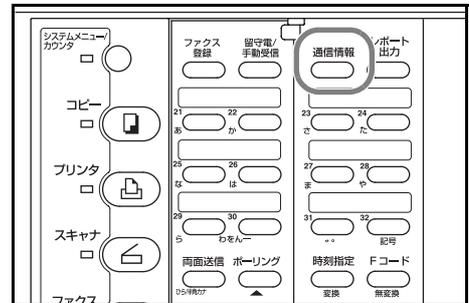
- 参考
- 親展ボックス内にある原稿や代行受信した原稿を消去することはできません。
 - ポーリング送信やリダイヤル待機中の通信については、内容の変更を行うことはできません。
 - 相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。

<変更できる内容>

- 通信時刻
- 通信相手先の追加
- 通信相手先の削除
- 通信相手先の変更
- F コード通信の ON / OFF

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[通信情報] キーを押してください。

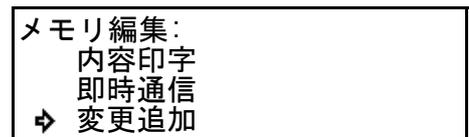


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「メモリ編集」を選択し、[OK] キーを押してください。



- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「変更追加」を選択し、[OK] キーを押してください。

メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリ編集メニュー画面に戻ります。



- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、変更したい予約通信を選択してください。

変更追加:リスト
 ⇨ 文書番号:007
 ☎:5555555
 22:22 送信 P01

- 5 [OK] キーを押してください。メッセージ表示には変更可能な項目が表示されます。

●通信時刻の変更

- 6 通信時刻を変更するときは、[▲] キーまたは [▼] キーを押して「通信時刻」を選択し、[OK] キーを押してください。

送信変更追加:
 終了
 ☎:5555555
 ⇨ 通信時刻 :22:22

通信時刻を変更しないときは、この操作は必要ありません。手順9へ進んでください。

- 7 テンキーを使って、変更したい時刻を入力してください。

通信時刻:22:22
 通信時刻を入力して下さい

このとき [ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示はクリアされ「00:00」となります。

- 8 [OK] キーを押してください。新たに入力した時刻が設定されます。
 ここで操作を終了する場合は、手順38へ進んでください。

●相手先の追加

- 9 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「同報リスト」を選択し、[OK] キーを押してください。

同報変更追加:
 終了
 ⇨ 同報リスト
 通信時刻 :22:33

- 10 相手先を追加するときは、[▲] キーまたは [▼] キーを押して「相手先追加」を選択してください。

同報リスト:
 終了
 ⇨ 相手先追加
 変更/削除

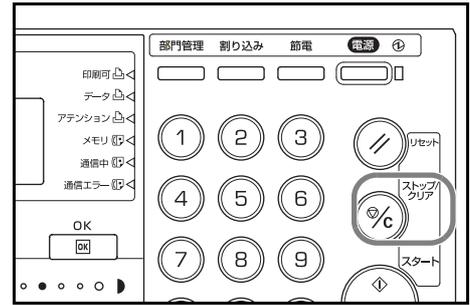
相手先を追加しないときは、手順19へ進んでください。

- 11 [OK] キーを押してください。

- 12 追加したい相手先のファクス番号を入力してください。

☎:_
 ファクス番号を入力して下さい

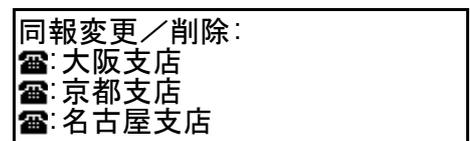
- 22 [ストップ/クリア] キーを押してください。選択した相手先が削除されます。



>相手先の削除を続ける場合は、手順 21 ~ 22 を繰り返してください。
 >ここで操作を終了する場合は、手順 34 へ進んでください。

●相手先の変更

- 23 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、変更したい相手先を選択してください。



- 24 [OK] キーを押してください。

- 25 [ストップ/クリア] キーを押してください。



- 26 新たな相手先のファクス番号を入力してください。

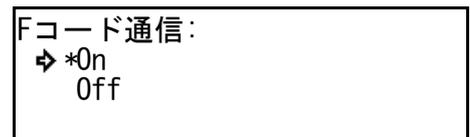


- 27 [OK] キーを押してください。

>手順 26 で相手先のファクス番号をテンキーで入力したときは、次の手順 28 へ進んでください。

>手順 26 で相手先のファクス番号をワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルで入力したときは、手順 32 へ進んでください。

- 28 新たに入力した相手先に対して、Fコード通信を行うかどうかを選択してください。



- 29 [OK] キーを押してください。

>手順 28 で「On」を選択したときは、次の手順 30 へ進んでください。

>手順 28 で「Off」を選択したときは、手順 33 へ進んでください。

- 30 Fコード通信で使用するサブアドレスを入力し、
[OK] キーを押してください。

サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス：
12345678901234567890
(20桁)
サブアドレスを入力して下さい

- 31 必要であれば、Fコードパスワードを入力してください。

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

パスワード：
12345678901234567890
(20桁)
パスワードを入力して下さい

Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順32へ進んでください。

- 32 [OK] キーを押してください。

入力した相手先がすでに登録されている場合は、エラーメッセージが表示されます。
[OK] キーを押した後、次の手順33へ進んでください。

- 33 引き続き相手先の変更を行うかどうかを選択してください。

>まだ相手先の変更を行うときは、手順23に戻ってください。

>相手先の変更が全て終わったときは、次の手順34へ進んでください。

●操作の終了

- 34 [▼] キーを押して「終了」を選択してください。

同報変更／削除：
➡ 終了
☎：大阪支店
☎：京都支店

- 35 [OK] キーを押してください。

- 36 [▼] キーを押して「終了」を選択してください。

同報リスト
➡ 終了
相手先追加
変更／削除

- 37 [OK] キーを押してください。

- 38 [▼] キーを押して「終了」を選択してください。

同報変更追加：
➡ 終了
同報リスト
通信時刻 :22:33 ▶

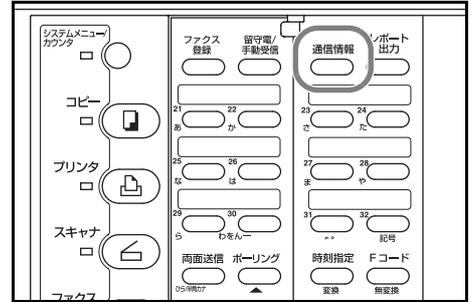
- 39 [OK] キーを押してください。タイマー予約レポートの出力設定が「ON」に設定されている場合は、タイマー予約レポートが出力されます。(7-1 ページ参照)

通信の削除のしかた

メモリ内で待機中の通信の通信予約をキャンセルすることができます。

- 参考
- メモリ内で転送待機中の通信を削除することはできません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- カバープレートを左にし、[通信情報] キーを押してください。



- [▲] キーまたは [▼] キーを押して「メモリ編集」を選択し、[OK] キーを押してください。



- [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「削除」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。

メモリ内に対象となる通信がない場合は、エラーメッセージが表示され、メモリ編集メニュー画面に戻ります。

- [▲] キーまたは [▼] キーを押して、削除したい通信を選択してください。



- [OK] キーを押してください。通信が削除されます。

手動で送信する（手動送信）

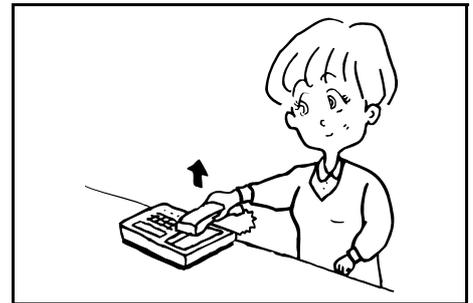
相手先との回線がつながったことを確認した後、[スタート] キーを押して送信する方法です。原稿を送信する前に相手と電話で話したいときや、相手側機がファクスへの切り替えを必要とする場合には、この方法で送信してください。

- 参考
- 相手先と会話をし、手動送信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続することが必要です。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 原稿をセットしてください。

2 電話の受話器（またはオプションのハンドセット）を上げるか [オンフック] キーを押してください。

[オンフック] キーを押したときは、オンフック表示が点灯します。



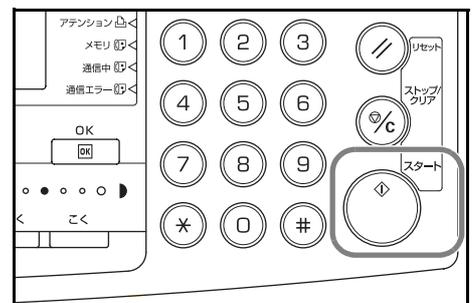
3 相手先の番号を入力してください。



4 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

>"ピー" という音が聞こえたときは…

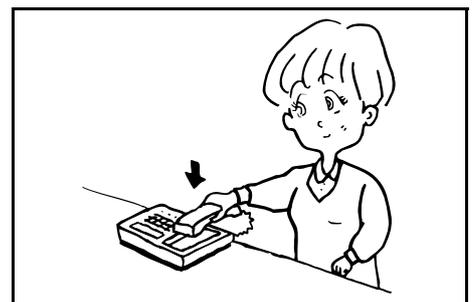
相手側はファクスです。[スタート] キーを押してください。機械は原稿の送信を開始します。



>相手先の話し声が聞こえたときは…

相手側の電話につながっています。会話が終わったら、[スタート] キーを押してください。機械は原稿の送信を開始します。

5 メッセージ表示に「送信中です」が表示されたら、受話器（またはオプションのハンドセット）を元に戻してください。



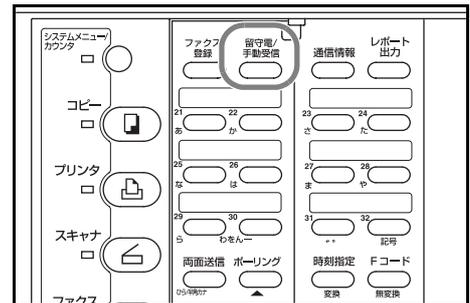
手動で受信する（手動受信）

相手先との回線がつながったことを確認した後、[スタート] キーを押して受信する方法です。原稿を受信する前に相手と電話で話したいときなどは、この方法で受信してください。

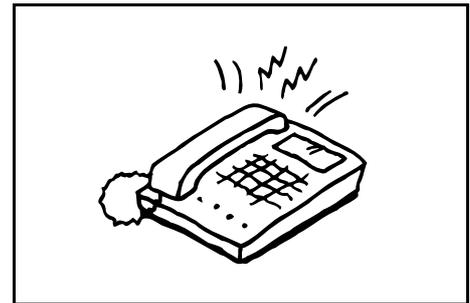
- 参考
- 手動受信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続する必要があります。
 - 本機の実受信モードは、通常 FAX 専用自動受信モードに設定されています。手動受信を行うためには、受信モードを手動受信モードに変更する必要があります。

●準備事項

カバープレートを左にし、[留守電/手動受信] キーを押し、手動受信表示を点灯させてください。



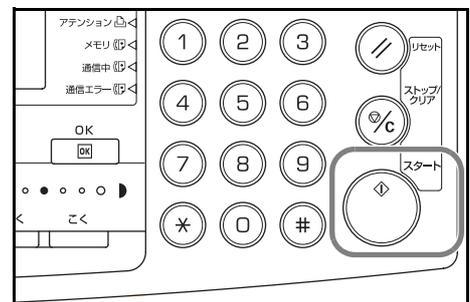
- 1 着信すると接続された電話機（またはオプションのハンドセット）で呼出音が鳴ります。



- 2 電話の受話器を上げてください。
- 3 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

> "ポーッポーッ" という音が聞こえたときは…

相手側はファクスです。[スタート] キーを押してください。機械は原稿の受信を開始します。



> 相手先の話し声が聞こえたときは…

相手側の電話につながっています。会話が終わったら、[スタート] キーを押してください。機械は原稿の受信を開始します。

- 4 受信が始まったら、受話器（またはオプションのハンドセット）を元に戻してください。

4 こんなときには

メモリ表示が点灯しているとき

メモリを使った送/受信を行うと、一度画像メモリ内に原稿が蓄積（記憶）されるためメモリ表示が点灯します。また、用紙切れや紙詰まりなどで代行受信が行われたときにも、メモリ表示は点灯します。



参考 メモリへの蓄積（記憶）中は、メモリ表示は点滅します。

電源を切るときの注意

メモリは原稿データを電氣的に記憶しているため、電源を完全に切るときはメモリ表示が点灯しているかを必ず確認してください。原稿がメモリの中に蓄積（記憶）されているような場合は、それらを全て出力し、メモリ表示が消灯したことを確認してから電源を切るようにしてください。

参考 画像メモリバックアップ機能が働くため、電源断になっても約 60 分間は、メモリ内の原稿データを保持しておくことができます。但し、機械の状態によっては、原稿データが消失することがあります。消失した原稿については再受信を行ってください。

電源断レポートが出力されるとき

電源断により原稿や予約されていた通信などの情報が失われた場合は、再度電源が入ると電源断レポートが出力されます。失われた情報などは、このレポートで確認してください。

参考 失われた情報が何も無い場合、電源断レポートは出力されません。

エラー表示が点灯したとき（アラーム音が鳴ったとき）

通信中に異常が発生すると、アラーム音とともに通信エラー表示が点滅し点灯します。通信エラー表示が点灯したときは、メッセージ表示を確認してエラーの内容を把握し、必要な処置を行ってください。（4-2 ページのこんな表示が出たときは、4-4 ページの“故障かな？”と思ったら参照）

必要な処置を行い異常が解決しても、まだエラー表示が消灯しないときは、[ストップ/クリア] キーを押して消灯させてください。



こんな表示が出たときは

メッセージ表示に下記のような表示が出たときは、それぞれの処置方法にしたがって適切な操作あるいは作業を行ってください。

表示内容	処置方法	参照ページ
「××カバーを閉じて下さい」	メッセージ表示に表示されたカバーが開いています。確実に閉めてください。	—
「原稿送り装置を閉じて下さい」	原稿送り装置が開いています。確実に閉じてください。	—
「用紙を補給して下さい」	カセットに用紙が入っていません。本体の基本編の使用説明書を参照して、カセットに用紙を補給してください。 カセットが正しく挿入されていないときにも表示されます。カセットを奥まで確実に押し込んでください。	—
「○○の用紙をセットして下さい」	ファクス給紙設定でサイズ固定モードが選択されています。表示されたサイズの用紙をカセットにセットしてください。 受信した原稿のサイズとセットされている用紙のサイズが印字不可能な組み合わせとなっています。受信した原稿と同サイズの用紙をカセットにセットしてください。	—
「受信原稿があります」	カセットに用紙が入っていないため、代行受信が行われました。カセットに用紙を補給してください。受信した原稿が出力されます。「用紙を補給して下さい」と表示されているときは、カセットに用紙をセットしてください。	—
「トナーコンテナをセットして下さい」	トナーコンテナがセットされていない、または、正しくセットされていません。本体の基本編の使用説明書を参照してトナーコンテナを正しくセットしてください。	—
「コピーできません。 トナーを補給して下さい」	トナーコンテナ内のトナーが残り少なくなっています。本体の基本編の使用説明書を参照して、トナーコンテナを早めに交換してください	—
「トナーを補給して下さい」	トナーコンテナ内のトナーが無くなりました。本体の基本編の使用説明書を参照し、トナーコンテナを交換してください。	—
「受信原稿があります(トナーなし)」	印字出力中にトナーがなくなり、出力できなくなりました。残りの原稿は代行受信されています。本体の基本編の使用説明書を参照して直ちにトナーコンテナを交換してください。新しいトナーコンテナがセットされ、出力可能な状態になると、残りの原稿が出力されます。	—
「紙詰まりです」	機械本体で紙詰まりが発生しています。本体の基本編の使用説明書を参照して、機内に紙片を残さないように適切に取り除いてください。	—
「原稿をセットし直して下さい」	原稿送り装置の原稿給紙時、一枚目の原稿が送られませんでした。もう一度原稿を取り出しセットしなおして下さい。	—
「原稿送り装置で紙詰まりです」	原稿を取り出してください。	—
「メモリがいっぱいです」	原稿をメモリへ読み込み中にメモリがいっぱいになりました。[OK] キーを押した後、途中まで読み込んだ原稿を送る場合には「はい」を、送信を中止する場合は「いいえ」を [▲] キーまたは [▼] キーを押して選択し、[OK] キーを押してください。[OK] キーを押さずに一定時間経過すると、オートクリア機能が働き既にメモリに読み込まれた原稿データは自動的に消去されます。送信を中止した後、全ての原稿をもう一度送る場合はメモリに空きができるのを待つか、空きを作ってから行ってください。	3-14 ページ 5-22 ページ 5-70 ページ
「サービス担当者に連絡して下さい」	サービス担当者によるメンテナンスが必要です。弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。このメッセージと同時に C と数字が出ているときは、その数字もサービス担当者にお知らせください。	—

表示内容	処置方法	参照ページ
「定期点検の時期です」	サービス担当者によるメンテナンスが必要です。弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。	—
「通信エラーです」	送信時または受信時に通信上のエラーが発生しました。通信結果レポートが出力されますので、記されているエラーコードを元にエラーの内容を確認してください。	10-14 ページ
「通信を続行する」	<p>複数相手先との通信中（同報送信やポーリング受信など）に〔画面切替〕キーを押しながら、〔ストップ/クリア〕キーを押すと表示されます。</p> <p>〔▲〕キーまたは〔▼〕キーを押して「はい」を選択すると、続きの通信が再開されます。ただし、〔ストップ/クリア〕キーが押された時点で行われていた通信はキャンセルされます。</p> <p>〔▲〕キーまたは〔▼〕キーを押して「いいえ」を選択すると、それ以降の相手先との通信を中止します。</p>	—
「原稿が長すぎます」	原稿送り装置で送信されようとしている原稿の長さが 1600mm（ノーマルの画質の場合）を越えました。〔OK〕キーを押して原稿送り装置の原稿を排出させてください。機械は初期モードに戻ります。スーパーファインやファインなど高画質で送信している場合は、画質を下げても送信してください。	2-3 ページ

“故障かな？”と思ったら

トラブルが発生した場合は、下表の事項をお調べいただき、処置を行ってください。

それでもなお異常が見られるときには、弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
原稿サイズの誤検知がたびたびおこる。	外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所に本製品を設置していますか。	本製品を、外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所に設置した場合、光の関係により原稿サイズを誤検知する場合があります。弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。	—
送信できない。	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードを正しく接続してください。	1-1 ページ
	「通信エラーです」が表示されていますか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度送信してください。	10-14 ページ
	パスワードチェック送信を設定していませんか。	パスワードチェック送信設定を解除してください。	5-59 ページ
	電話回線種別は正しいですか。	電話回線種別を確認してください。	1-7 ページ
メモリ送信ができない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから送信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	3-14 ページ 5-22 ページ 5-70 ページ
暗号ボックスの登録時、入力したボックス番号がエラーとなり登録できない。	入力したボックス番号がFコード中継ボックス（またはFコード親展ボックス）のサブアドレスと同じ番号になっていませんか。	暗号ボックスのボックス番号はFコード中継ボックスとFコード親展ボックスのサブアドレスと別のものを使用してください。	5-65 ページ
暗号ボックスから出力できない。	暗号ボックスのボックス番号、ボックスID番号は正しいですか。	暗号ボックスのボックス番号、ボックスID番号の登録内容を確認してください。	5-72 ページ
暗号通信ができない。	送信側が暗号通信に使用する短縮またはワンタッチダイヤルは、受信側との取り決めどおり正しく登録されていますか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	2-22 ページ 2-28 ページ
	受信側が使用する暗号ボックスは、送信側との取り決めどおり正しく登録されていますか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	5-65 ページ
	使用する暗号鍵は正しいですか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	5-62 ページ
リモート切替機能が使用できない。	ダイヤル（パルス）回線を使用していませんか。	電話機によっては ボタン等でトーン信号を送出できる場合があります。電話機の使用説明書を参照してください。	—
	リモート切替番号は正しいですか。	登録内容を確認してください。	5-8 ページ (初期設定：55)
受信したが、印字出力されず、メモリにもない。	メモリ転送を設定していませんか。	メモリ転送を設定しているときは、転送先を確認してください。	5-38 ページ

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
受信できない。	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードを正しく接続してください。	1-1 ページ
	「通信エラーです」が表示されていますか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度相手先から送信してもらってください。	10-14 ページ
	パスワードチェック受信を設定していませんか。	パスワードチェック受信設定を解除してください。	5-59 ページ
代行受信できない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから受信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	3-14 ページ 5-22 ページ 5-70 ページ
ポーリング受信ができない。	相手側機でポーリング送信操作が正しくおこなわれていますか。	相手側機を確認してください。	5-10 ページ
F コード中継同報指示送信ができない。	相手側中継機は同様の F コード中継機能を有していますか。	相手側中継機が同様の F コード中継機能を有していない場合、F コード中継同報指示送信は行えません。相手側機を確認してください。	5-27 ページ
	相手側中継機で原稿受渡しボックス (F コード中継ボックス) が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	5-27 ページ
	入力したサブアドレスや F コード通信パスワードは中継機で登録されている F コード中継ボックスのサブアドレスやパスワードと一致していますか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	5-31 ページ
	相手側中継機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手側機を確認してください。	—
F コード親展ボックス (または F コード中継ボックス) の登録時、入力したサブアドレスがエラーとなり、登録できない。	F コード中継ボックス (または F コード親展ボックス) の登録で、その入力したサブアドレスが同じ番号になっていませんか。または暗号ボックスの登録で同じ番号をボックス番号として使用していませんか。	F コード中継ボックスと F コード親展ボックスのサブアドレスそして暗号ボックスのボックス番号は別のものを使用してください。	5-27 ページ
F コード親展送信ができない。	相手側機は同様の F コード親展通信機能を有していますか。	相手側機が同様の F コード親展通信機能を有していない場合、F コード親展通信は行えません。相手側機を確認してください。	5-20 ページ
	相手側機で原稿受渡しボックス (F コード親展ボックス) が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	5-20 ページ
	入力したサブアドレスや F コード通信パスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
	相手側機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手側機を確認してください。	—
F コード親展ボックスから出力できない。	入力した F コード親展ボックスのサブアドレスや F コード通信パスワードは正しいですか。	F コード親展ボックスの登録内容を確認してください。	5-23 ページ

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
Fコード掲示板受信ができない。	相手側機は同様のFコード掲示板通信機能を有していますか。	相手側機が同様のFコード掲示板通信機能を有していない場合、Fコード掲示板受信は行えません。相手側機を確認してください。	5-26 ページ
	相手側機で原稿受渡しボックス(Fコードボックス)が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	5-26 ページ
	入力したサブアドレスやFコードパスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
Fコード親展ボックスへ入力できない。	入力したFコード親展ボックスのサブアドレスは正しいですか。	Fコード親展ボックスの登録内容を確認してください。	5-23 ページ

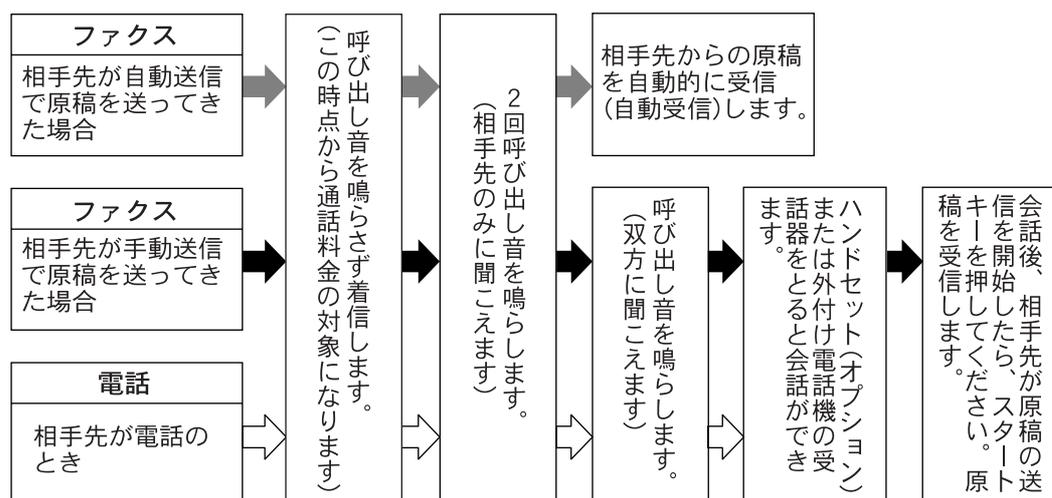
5 ファクスの操作方法（応用編）

ファクスと電話を自動で切り替える（FAX/TEL 自動切替受信）

1 回線で電話とファクスの両方を使用するとき便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信を行い、相手先が電話のときは本機で呼出音が鳴り、応答を促します。

- 参考
- FAX/TEL 自動切替受信を行うためには、本機にオプションのハンドセットもしくは併用電話機（市販品）を接続することが必要です。
 - 電話機で呼出音が設定回数分鳴った後は、受信側が応答しない場合でも発信側に電話料金がかかります。

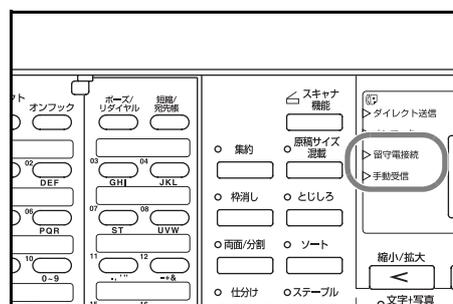
[受信フロー]



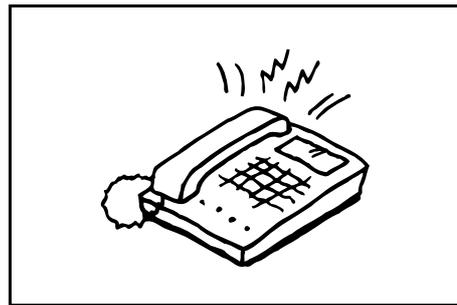
●準備事項

7-12 ページの受信方法を設定する（受信モード設定）を参照して、「FAX/TEL 自動切替」を選択してください。

手動受信表示と留守電接続受信表示の両方が消灯していることを確認してください。点灯しているときは、カバープレートを左にし、[留守電/手動受信] キーを押してください。



- 1 接続された電話機（またはオプションのハンドセット）で呼出音が鳴ります。ただし、出荷時の設定は鳴る回数が“0”に設定されているため呼出音は鳴りません。



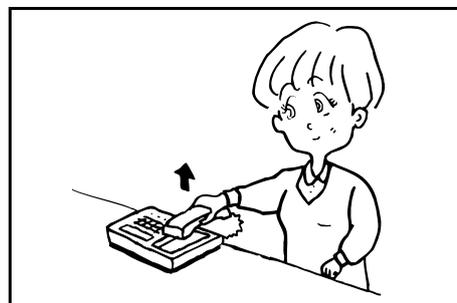
参考 呼出音が鳴る回数は変更することができます。（7-6 ページの呼び出しベルの回数を設定する（FAX/TEL 自動切替受信）参照）

- 2 本機で、相手先が電話かファクスかを判断します。

＞相手先が電話のとき

- (1) 電話機で呼出音が鳴り、応答を促します。
30 秒間以内に電話の受話器を上げてください。

30 秒間以内に受話器（またはオプションのハンドセット）を上げない場合、ファクスの受信に切り替わります。



- (2) 会話をしてください。

会話終了後に手動で受信することもできます。（3-23 ページの手動で受信する（手動受信）参照）

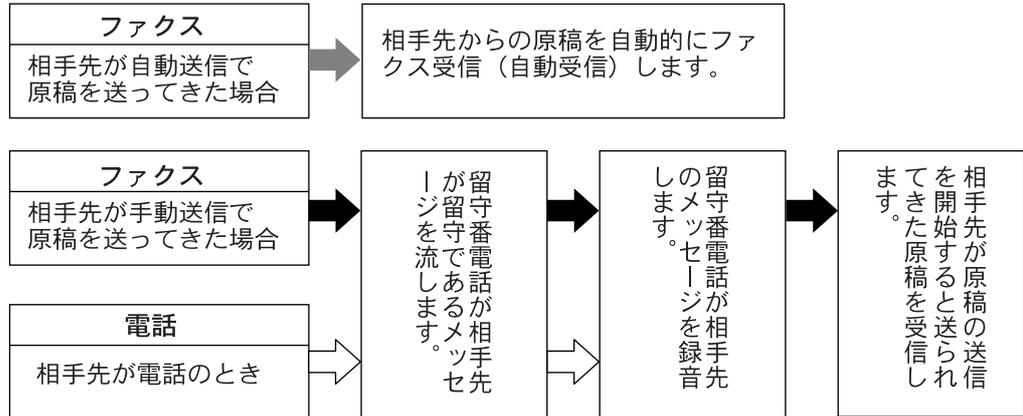
＞相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

ファクスと留守番電話を自動で切り替える（FAX/留守番電話自動切替受信）

留守番電話機とファクスを併用するときには便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信を行い、相手先が電話のときは接続された留守番電話機の機能にしたがうため、不在の場合には相手先からのメッセージを留守番電話に残すことができます。

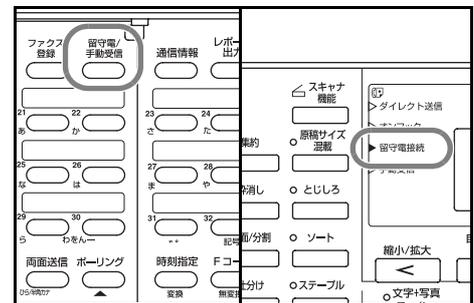
[受信フロー]



- 参考
- FAX/留守番電話自動切替受信を行うためには、本機に留守番機能付電話機（市販品）を接続することが必要です。
 - 応答メッセージ等は、各留守番電話機の使用説明書を参照してください。
 - 留守番電話機側で設定する呼出音の回数は、本機で設定する呼出音の回数より少なく設定してください。本機の呼出音が鳴る回数を変更することができます。（7-5ページの呼び出しベルの回数を設定する（FAX/留守番電話自動切替受信）参照）
 - FAX/留守番電話自動切替受信機能の使用時、相手先からの電話がつながってから、1分間経過するまでの間に9秒以上無音状態が続くと、本機の無音検出機能が働き、ファクス受信に切り替わってしまうことがありますのでご注意ください。

●準備事項

カバープレート左にし、[留守番電話/手動受信]キーを押して、留守電接続表示を点灯させてください。



- 1 接続された電話機で設定された回数の呼出音が鳴ります。



参考 電話機で呼出音が鳴っているときに受話器を上げた場合は、手動受信のときと同じ状態になります。（3-23 ページの手動で受信する（手動受信）参照）

- 2 留守番電話機が応答します。

＞相手先は電話だが不在のとき

留守番電話機から応答メッセージが流れ、用件録音を開始します。

録音中に無音状態が9秒間続くとファクスの受信に切り替わります。

＞相手先がファクスのとき

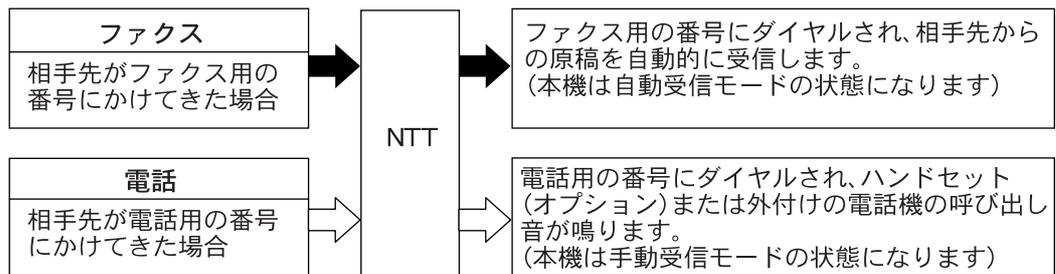
ファクスの受信を開始します。

ファクス番号と電話番号を使い分けする（ダイヤルイン）

NTT のダイヤルインサービスを利用することにより、1 回線で電話とファクスとの併用を可能にする機能です。ダイヤルインサービスでは、契約時に NTT から電話用とファクス用の 2 つの番号が与えられます。相手先に対して、電話用とファクス用にそれぞれ別の番号を伝えておけば、相手側では、電話をかけるときは電話用の番号を使い、ファクスを送るときはファクス用の番号を使います。本機側では、それらの番号を事前に電話用とファクス用に登録しておくため、電話かファクスかを区別して受信することができます。

- 参考
- ダイヤルインサービスのサービス内容や契約方法については、NTT の営業窓口にお問い合わせください。また、サービスをお受けになるときは、ダイヤルイン番号を 4 桁送付でお申し込みください。
 - FAX/TEL 自動切替受信や FAX/ 留守番電話自動切替受信との併用はできません。
 - 電話を受けるためには、オプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続する必要があります。
 - モデムダイヤルインには対応していません。

[受信フロー]

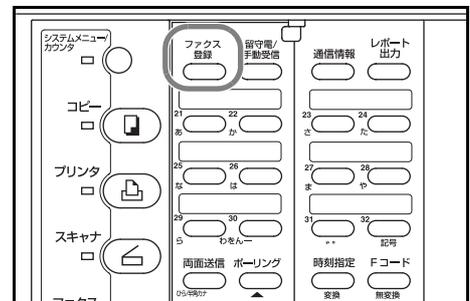


ダイヤルイン FAX 番号の登録のしかた

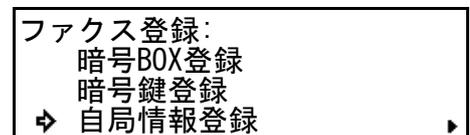
NTT からファクス用として与えられた番号（4 桁）をダイヤルイン FAX 番号として登録してください。

- 参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「自局情報登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤルインFAX」を選択してください。

自局情報登録	
自局名称	:
自局ID	:0000
⇒ ダイヤルインFAX	:0000

- 5 [OK] キーを押してください。
- 6 テンキーを使って、ダイヤルインFAX番号を4桁で入力してください。

このとき [ストップ/クリア] キーを押すと、表示されている番号はクリアされ、「0000」となります。

ダイヤルインFAX:0000
ダイヤルイン番号を入力して下さい

- 7 [OK] キーを押してください。ダイヤルインFAX番号の登録が終了します。
[リセット] キーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

ダイヤルインTEL番号の登録しかた

NTTから電話用として与えられた番号（4桁）をダイヤルインTEL番号として登録してください。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 5-5 ページのダイヤルインFAX番号の登録のしかたの手順1～3の操作を行ってください。
- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤルインTEL」を選択してください。

自局情報登録	
自局ID	:0000
ダイヤルインFAX	:0000
⇒ ダイヤルインTEL	:0000

- 3 [OK] キーを押してください。
- 4 テンキーを使って、ダイヤルインTEL番号を4桁で入力してください。

このとき [ストップ/クリア] キーを押すと、表示されている番号はクリアされ、「0000」となります。

ダイヤルインTEL:0000
ダイヤルイン番号を入力して下さい

- 5 [OK] キーを押してください。ダイヤルインTEL番号の登録が終了します。
[リセット] キーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

ダイヤルイン設定のしかた

NTT のダイヤルインサービスを利用するときは、この設定を行ってください。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 [システムメニュー] キーを押してください。

2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ファクス初期設定」を選択して、[OK] キーを押してください。

```

システムメニュー/カウンタ：
  マシン初期設定 ▶
  プリンタ初期設定 ▶
  ⇨ ファクス初期設定 ▶
  
```

3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤルイン」を選択してください。

```

ファクス初期設定：
  FAX給紙       :自動選択
  2in1受信      :OFF
  ⇨ ダイヤルイン :OFF
  
```

4 [OK] キーを押してください。

5 [▲] キーまたは [▼] キーを押してダイヤルイン機能を使用するかどうかを選択してください。メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

```

ダイヤルイン：
  ⇨ On
  *Off
  
```

ダイヤルイン機能を使用する場合は、「On」を選択してください。

6 [OK] キーを押してください。ダイヤルイン設定が終了します。

[リセット] キーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

接続した電話機から受信を開始させる（リモート切替機能）

接続された電話機からの操作で、ファクスの受信を開始させることができます。本機と電話機（市販品）を離れた場所に設置して併用するとき便利な機能です。

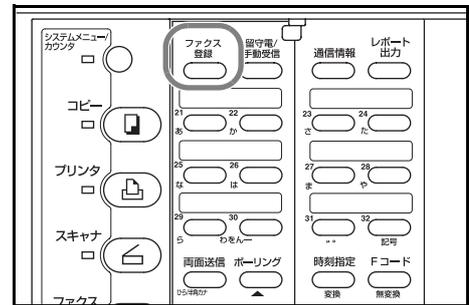
参考 リモート切替を行うためには、トーン信号を送出できる併用電話機（市販品）を本機に接続する必要があります。

リモート切替ダイヤルの登録のしかた

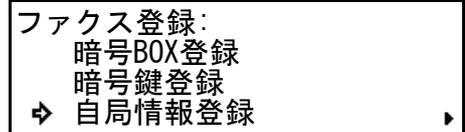
リモート切替番号は、工場出荷時設定で“55”に設定されていますが、変更することもできます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。

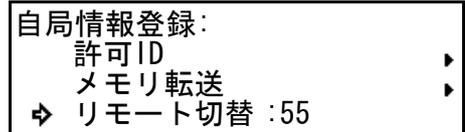


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「自局情報登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

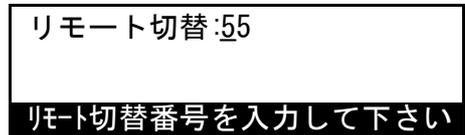
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「リモート切替」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 テンキーを使って、新たに登録したい番号を2桁で入力してください。

このとき [ストップ/クリア] キーを押すと、表示されている番号はクリアされ、「00」となります。



- 7 [OK] キーを押してください。リモート切替番号の登録が終了します。
[リセット] キーを押すと、機械は初期モードに戻ります。

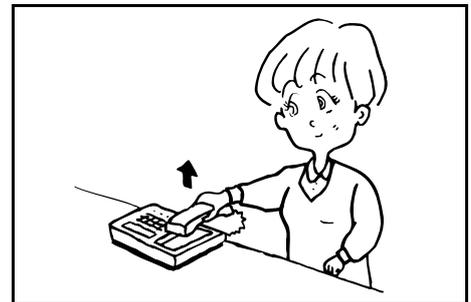
使いかた

接続された電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、下記の操作を行ってください。

- 1 接続された電話機で呼出音が鳴ります。



- 2 電話機を受話器を上げてください。



- 3 受話器からファクスの発信音が聞こえたら、2桁のリモート切替番号を電話機側のダイヤルボタンで入力してください。
工場出荷時設定では、リモート切替番号（2桁）は“55”に設定されています。
- 4 回線は機械本体側に切り替わり、受信が開始されます。

相手の操作で通信を開始する（ポーリング通信）

ポーリング通信とは、送信側の操作で機械に送信を開始させるのではなく、受信側からの操作で機械に送信を開始させる通信方法です。受信側は自分の都合に合わせて原稿を受け取ることができます。

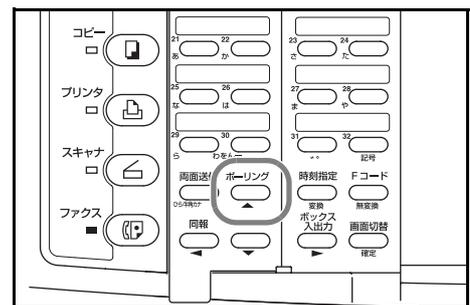
参考 この通信は、受信側から送信側にダイヤルし操作を行うため、電話料金は通常受信側の負担になります。

ポーリング送信のしかた

ポーリング送信用として原稿をメモリに読み込ませておき、相手先からのポーリング受信要求があると自動的に送信を行う機能です。

- 参考**
- ポーリング送信は、ダイレクト送信モードが設定されている場合であっても、全てメモリ送信で行われます。
 - ポーリング送信は、手動受信モードのときには行えません。手動受信モードになっているときは、それ以外の受信モードに切り替えてください。（3-23 ページの手動で受信する（手動受信）参照）
 - 相手先からポーリング送信要求があるまでは、送信したい原稿を後から追加することができます。
 - 掲示板機能と合わせて使用すると、不特定多数の相手先に同じ原稿を何度でもポーリング送信することができます。（7-3 ページの掲示板機能の設定をする（掲示板設定）参照）
 - ポーリング送信を取り消す場合は、3-21 ページの通信の削除のしかたを参照して操作を行ってください。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 原稿をセットしてください。
- 2 カバープレートをし、[ポーリング] キーを押してください。



- 3 「ポーリング送信」が選択されていることを確認し、[OK] キーを押してください。

ポーリング通信：
 ➡ ポーリング送信
 ポーリング受信

- >すでにメモリに記憶されたポーリング送信用原稿があるときは手順4へ進んでください。
- >初めて原稿を記憶させるときは、手順6へ進んでください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、原稿の追加方法を選択してください。

原稿を追加する：
 ⇨ 追加
 上書き
 中止

＞原稿を追加するときは、「追加」を選択してください。

＞メモリ内のポーリング送信用原稿を全て消去し、新しい原稿を記憶させるときは、「上書き」を選択してください。

＞原稿の追加を中止するときは、「中止」を選択してください。

- 5 [OK] キーを押してください。

＞手順4で「追加」を選択したときは、手順8へ進んでください。

＞手順4で「上書き」を選択したときは、次の手順6へ進んでください。

＞手順4で「中止」を選択したときは、機械は初期モードに戻ります。

- 6 相手先を限定する場合は、テンキーを使って4桁のポーリングID（相手機側の自局ID番号）を入力してください。

ポーリングID:0000

ポーリングIDを入力して下さい

相手先を限定しない場合は、入力は不要です。

「0000」以外のポーリングIDを指定する相手先の限定は、同機能を有する弊社ファクス間でのみ可能です。

- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 [スタート] キーを押してください。原稿はメモリに読み込まれ、送信待機状態になります。

ポーリング受信のしかた

受信側から相手先にダイヤルを行い、送信側にセットしてある原稿を自動的に送信させ、受信する機能です。複数の相手先を指定した場合には、順次ダイヤルと受信を繰り返します。受信側の都合に合わせて受信する時刻を指定することもできます。

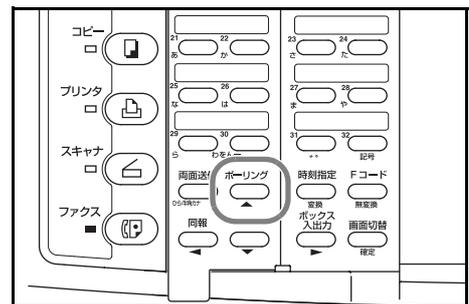
- 参考
- 複数の相手先番号のすべてを短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルのいずれかによって入力する場合は、1回の操作で最大 232 ケ所の相手先から原稿を受信することができます。ただし、暗号通信用として登録した短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルは使用できません。
 - ポーリング受信を行うためには、相手先があらかじめポーリング送信操作を行っている必要があります。（5-10 ページのポーリング送信のしかた参照）

●相手先と F コード通信（F コード掲示板受信）を行うときは…

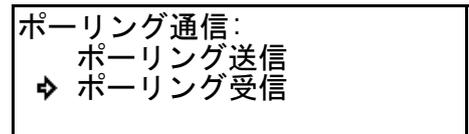
- 相手先と F コード通信を行う場合、相手先ファクス番号が同じであっても、指定した F コードボックスが違えば、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。
- すでに入力した同じ相手先（F コード通信は指定していない）があるときでも、F コード通信を指定した場合は異なる相手先とみなされ、その相手先番号の入力が可能となります。ただし、相手先番号の入力は両方ともテンキーで行う必要があります。
- すでにテンキーで入力した同じ相手先（F コード通信を指定した）があるときでも、その同じ相手先番号を登録した F コード通信用のワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを使う場合は異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。
- 同一のファクス番号が登録された短縮ダイヤルとワンタッチダイヤルを使ってそれぞれ入力を行うときは、異なる相手先とみなされ、入力が可能となります。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[ポーリング] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ポーリング受信」を選択してください。



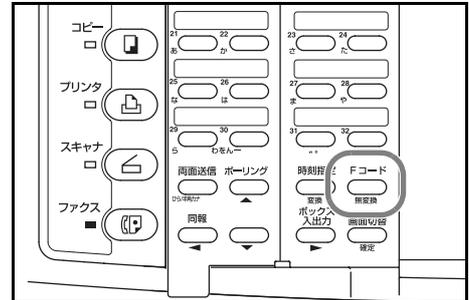
- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 相手先のファクス番号を入力してください。

相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。



- 5 Fコード通信（Fコード掲示板受信）を行うときは、[Fコード] キーを押してください。



> [Fコード] キーを押したときは、次の手順6へ進んでください。

> [Fコード] キーを押さないときは、手順9へ進んでください。

- 6 Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。

サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。



- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 必要であれば、Fコードパスワードを入力してください。

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順9へ進んでください。



- 9 [OK] キーを押してください。

入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻りません。

- 10 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

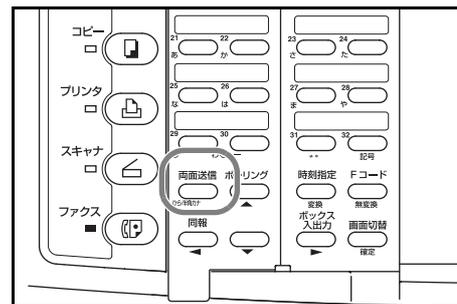
> まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順4に戻ってください。

> 相手先の入力が全て終わったときは、次の手順11へ進んでください。

- 11** 開始時刻を指定したい場合は、[時刻指定] キーを押してください。

通信予約限度（最大 50 件まで）に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。

開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。手順 14 へ進んでください。



- 12** [OK] キーを押してください。

- 13** テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。

通信時刻:02:43

通信時刻を入力して下さい

- 14** [OK] キーを押してください。機械は受信のための動作を開始します。

開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は受信を開始します。

Fコードを使って通信する（Fコード通信）

Fコード通信とは、他社機でも採用されているFコードと呼ばれる番号や文字列を付加してやりとりを行う通信をいいます。Fコードを使用することにより、本来弊社機間でしか行えなかった親展通信や中継同報送信が他社機との間でも可能になります。本機のFコード通信では、Fコードボックス（Fコード親展ボックス、Fコード中継ボックス）を使って、相手機と原稿の受け渡しを行います。その際、Fコードボックスやパスワードを指定するためにFコード（本機ではサブアドレスとパスワード）を使います。本機では、他社機との間で親展通信や中継同報送信を行う機能が用意されています。もちろん同様のFコード通信機能が備わった弊社機間でも可能です。

- 参考**
- Fコード通信を行うためには、相手機にも同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。
 - Fコードを使った通信は、各種機能通信とも併用することができます。また、サブアドレスやFコードパスワードをワンタッチダイヤルにあらかじめ登録しておくと、通信開始時にそれらの入力を省略することができます。詳しくは、各通信方法や登録方法の手順内の記述を参照してください。

Fコードについて

本機では、サブアドレスとFコードパスワードがFコードにあたります。

●サブアドレス

Fコード親展送信やFコード中継同報送信を行うときに送信側で、Fコード掲示板受信を行うときに受信側で入力します。サブアドレスは、相手機側に設定されたFコード親展ボックスまたはFコード中継ボックスを指定するために使われます。サブアドレスの有効桁数は相手機によって異なります。有効桁数内で番号が一致しないと、相手機とのFコード通信は成立しません。実際にFコード通信を行うときは、事前に相手側に確認してください。本機では、サブアドレスは0～9までの数字と“*”、“#”を使って20桁まで入力することができます。本機間でFコード親展通信やFコード中継同報送信を行うときは、入力したサブアドレスの下4桁と相手機側で設定された4桁のサブアドレスが一致する必要があります。

●Fコードパスワード

Fコード親展送信やFコード中継同報送信を行うときに送信側で入力します。Fコードパスワードは、相手機に設定されたFコード親展ボックスまたはFコード中継ボックスのパスワードを指定するために使われます。Fコードパスワードの有効桁数は相手機によって異なります。有効桁数内でFコードパスワードが一致しないと、相手機とのFコード通信は成立しません。実際にFコード通信を行うときは、事前に相手側に確認してください。本機では、Fコードパスワードは0～9までの数字と“*”、“#”の文字を使って20桁まで入力することができます。

- 参考**
- 本機にFコード親展ボックスが設定されていて受信側になるときは、送信側でFコードパスワードを入力しなくてもFコード通信は成立します。Fコード中継ボックスの場合、送信側でFコードパスワードの入力が必要になります。
 - Fコード親展ボックスから原稿を取り出す掲示板受信で、本機が送信側になるとき、Fコード親展ボックスのパスワードを「0000」で登録した場合は、受信側が入力するFコードパスワードを省略することができます。

Fコードボックスについて

Fコードを使った通信では、他社機間でも親展通信や中継同報送信のような通信を行うことができます。それを実現するために、事前にメモリ内に仮想のボックスを作っておき、そのボックスを使って相手先と原稿の受け渡しを行います。この原稿受け渡しのための仮想ボックスを本機のFコード親展通信ではFコード親展ボックス、Fコード中継同報送信ではFコード中継ボックスとよびます。これらのボックスは、サブアドレスとFコードパスワードを使って登録します。サブアドレスは、ボックス番号を指定するためのもので、本機では、“0000”～“9999”までの4桁の数字を使って登録します。Fコードパスワードは、ボックスから原稿を引き出す際に必要となります。本機では、0～9までの数字と“*”、“#”の文字を使って4桁で登録します。

- 参考
- Fコード親展ボックスは100個とFコード中継ボックスは15個まで登録できます。（5-17ページのFコード親展ボックスの登録のしかた、5-27ページのFコード中継ボックスの登録のしかた参照）
 - 登録したFコード親展ボックスとFコード中継ボックスのボックス番号やFコードボックスへの原稿の蓄積情報は、それぞれFコード親展ボックスリストとFコード中継ボックスリストを出力すれば確認することができます。（5-23ページのFコード親展ボックスリストの出力のしかた、5-34ページのFコード中継ボックスリストの出力のしかた参照）

親展で通信する（Fコード親展通信）

親展通信は機密文書など他人には見られたくない原稿を誰にも見られずに受信できる通信方法です。Fコード親展通信では、受信側のFコード親展ボックスを使って機密文書などの受け渡しを行います。

参考 Fコード親展送信を行うときは、送・受信側でFコード通信機能および親展通信機能を備えている必要があります。

Fコード親展ボックスの登録のしかた

新たにFコード親展ボックス登録を行うときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

参考 Fコード親展ボックスは最大100個まで登録できます。

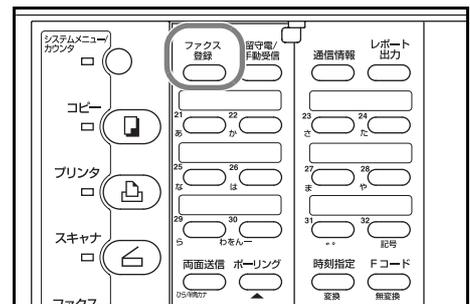
〈ご注意〉

Fコード親展ボックスを登録する際、すでに暗号ボックスのボックス番号やFコード中継ボックスのサブアドレスに使用されている番号をサブアドレスとしては登録できません。

Fコードパスワードがわからなくなると、Fコード親展ボックスに入っている原稿を出力したり、Fコード親展ボックス自体を削除することができなくなります。Fコードパスワードの取扱いには充分ご注意ください。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「FコードBOX登録」を選択して [OK] キーを押してください。

ファクス登録:
グループダイヤル登録
チェーンダイヤル登録
➡ FコードBOX登録

- 3 「Fコード親展BOX登録」が選択されているのを確認して、[OK] キーを押してください。

FコードBOX登録:
➡ Fコード親展BOX登録
Fコード中継BOX登録

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、未登録の登録エリアを選択してください。

Fコード親展BOX登録:
終了
➡ #001
#002

- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 Fコード親展ボックスのサブアドレスとして登録したい番号を入力してください。
サブアドレスは、“0000”～“9999”の4桁の数字で入力してください。

サブアドレス:0000

サブアドレスを入力して下さい

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。

- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 Fコードパスワードとして登録したい番号を入力してください。

パスワード:0000

パスワードを入力して下さい

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って4桁で入力してください。

Fコードパスワードを「0000」で登録したときは、Fコード親展ボックスからの出力時にFコードパスワードのチェックが行われません。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。

- 9 [OK] キーを押してください。Fコード親展ボックスの登録が終了します。

>引き続き別のFコード親展ボックスの登録を行うときは、手順4に戻ってください。
>これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

Fコード親展ボックスの登録内容の変更/削除のしかた

Fコード親展ボックスのサブアドレスを変更したり、Fコード親展ボックス自体を削除するときは以下の手順で行ってください。

- 参考
- Fコードパスワードを変更することはできません。Fコードパスワードを変更したいときは、Fコード親展ボックスを一度削除し、新しいFコードパスワードで登録しなおしてください。
 - 原稿が入っているFコード親展ボックスは削除できません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 5-17 ページのFコード親展ボックスの登録のしかたの手順1～3を行ってください。

- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して対象となるFコード親展ボックスを選択してください。

Fコード親展BOX登録:
終了
➡ #001 5655
#002

- 3 登録内容を変更するときは [OK] キーを、F コード親展ボックスを削除するときは [ストップ/クリア] キーを押してください。
- 4 登録済の F コードパスワード（4 桁）を入力してください。

パスワード：_

パスワードを入力して下さい

>手順3で [OK] キーを押したときは、F コードパスワードの入力後、次の手順5へ進んでください。

>手順3で [ストップ/クリア] キーを押したときは、F コードパスワードの入力後、手順6へ進んでください。

- 5 [OK] キーを押してください。F コード親展ボックスの登録内容が表示されます。(1) ~ (5) の操作を行ってください。

- (1) [▲] キーまたは [▼] キーを押して「サブアドレス」を選択してください。

ここで [ストップ/クリア] キーを押すと、F コード親展ボックスの削除操作を行うこともできます。

Fコード親展BOX:#
終了
➡ サブアドレス :5655
パスワード :1111

- (2) [OK] キーを押してください。

- (3) 変更したいサブアドレスを4桁で入力してください。(5-17ページのFコード親展ボックスの登録のしかた参照)

サブアドレス:5655

サブアドレスを入力して下さい

- (4) [OK] キーを押してください。

- (5) [▲] キーで「終了」を選択してください。

- 6 [OK] キーを押してください。登録内容の変更あるいはFコード親展ボックスの削除が終了します。

>引き続き別のFコード親展ボックスの登録内容変更あるいは削除を行うときは、手順2に戻ってください。

>これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

Fコード親展送信のしかた

相手に設定されたFコード親展ボックスに原稿を送信する場合、送信側では下記の手順にしたがって操作を行ってください。

参考 開始時刻を指定した場合、ダイレクト送信はできません。

<前提条件>

●送信側では…

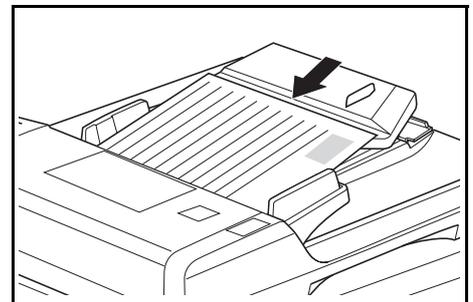
相手先で登録されている原稿受渡しボックス（本機ではFコード親展ボックスと呼ぶ）の番号（本機では4桁のサブアドレス）とFコードパスワードを入力する必要があるため、それらを事前に知っている必要があります。

●受信側では…

原稿受渡しボックス（本機ではFコード親展ボックスと呼ぶ）を登録し、その番号（本機では4桁のサブアドレス）を送信側に伝えておく必要があります。原稿受渡しボックスに受信した原稿はそのボックス番号とパスワードを入力して出力します。5-22ページのFコード親展ボックスからの出力のしかた参照

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 原稿をセットしてください。



- 2 開始時刻を指定するときは、カバープレートを左にし、[時刻指定] キーを押してください。メッセージ表示の1行目に「T」の文字が表示されます。

通信予約限度（最大50件まで）に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。

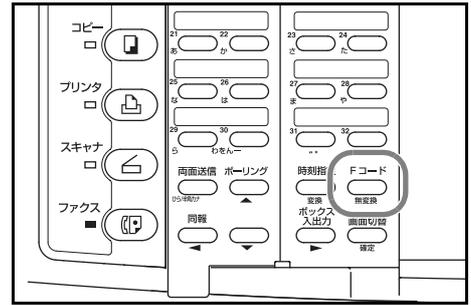
開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。次の手順3へ進んでください。

- 3 テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。

相手先番号の入力にはFコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使用することもできます。また、その場合には、手順4～7の操作を省略することができます。



- 4 カバープレートを左にし、[Fコード] キーを押してください。



- 5 テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。

サブアドレスはFコード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックスを指定するために必要です。0～9の数字を使って最大20桁までで入力してください。



- 6 [OK] キーを押してください。

- 7 Fコードパスワードは、Fコード通信を行う際に使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。



> Fコードパスワードを入力するときは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁までで入力してください。

> Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順8へ進んでください。

- 8 次のそれぞれの場合に合わせて操作を行ってください。

> 手順2で【時刻指定】キーを押したときは、次の手順9へ進んでください。

> 手順2で【時刻指定】キーを押していないときは、手順11へ進んでください。

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 テンキーを使って開始時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。

- 11 [OK] キーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。

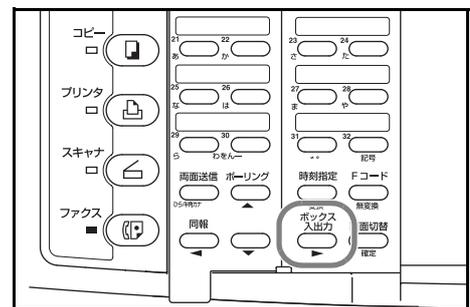
開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は送信を開始します。

Fコード親展ボックスからの出力のしかた

相手先から自機のFコード親展ボックスへ送られた原稿は、下記の出力操作を行って出力してください。出力が正常に行われると、Fコード親展ボックス内の原稿データは消去されます。また、Fコード掲示板通信で本機が送信側となる場合に、Fコード親展ボックスに入力した原稿を消去するときも、Fコード親展ボックスから原稿を出力すれば、Fコード親展ボックス内の原稿データは消去されます。

- 参考
- Fコード親展ボックスの登録時にFコードパスワードを「0000」で登録したときは、Fコード親展ボックスからの出力操作時にFコードパスワードの入力が不要です。入力したサブアドレスが正しければ、出力が行われます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[ボックス入出力]キーを押してください。



- 2 [▲]キーまたは[▼]キーを押して「Fコード親展BOX出力」を選択してください。

ボックス入力先:
 Fコード親展BOX入力
 ➡ Fコード親展BOX出力
 暗号BOX出力

- 3 [OK]キーを押してください。

- 4 テンキーを使って、原稿を出力したいFコードボックスのサブアドレス（4桁）を入力してください。

サブアドレス: 0000

サブアドレスを入力して下さい

- 5 [OK]キーを押してください。

Fコードボックスの登録時にFコードパスワードを「0000」で登録しているときは、この時点でFコードボックスからの出力が開始されます。次の手順6以降の操作を行う必要はありません。

Fコードボックスに原稿がないときは、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

入力したサブアドレスが登録されていないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はサブアドレスの入力画面に戻ります。

- 6 Fコードパスワード (4桁) を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。

パスワード : 0000

パスワードを入力して下さい

- 7 [OK] キーを押してください。Fコードボックスからの出力が開始されます。

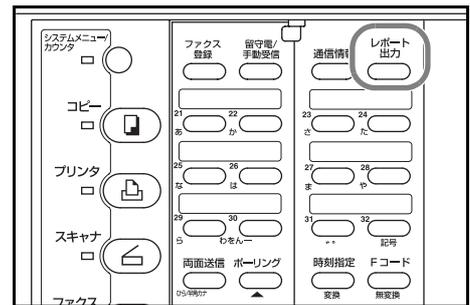
入力したFコードパスワードが正しくないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はFコードパスワードの入力画面に戻ります。正しい番号を入力しておしてください。

Fコード親展ボックスリストの出力のしかた

Fコード親展ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、Fコード親展ボックスリストを出力することによって確認できます。

- 参考
- Fコード親展ボックスが全く登録されていない場合、Fコード親展ボックスリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「FコードBOXリスト」を選択してください。

レポート出力:
 ユーザー設定リスト
 ⇨ FコードBOXリスト
 暗号BOXリスト

- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「Fコード親展BOXリスト」を選択し、[OK] キーを押してください。Fコード親展ボックスリストの出力が開始されます。

FコードBOXリスト:
 ⇨ Fコード親展BOXリスト
 Fコード中継BOXリスト

メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

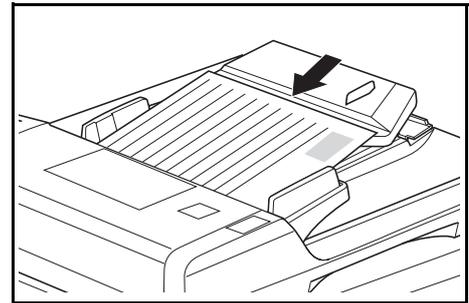
Fコード親展ボックスが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

Fコード親展ボックスへの原稿の入力のしかた

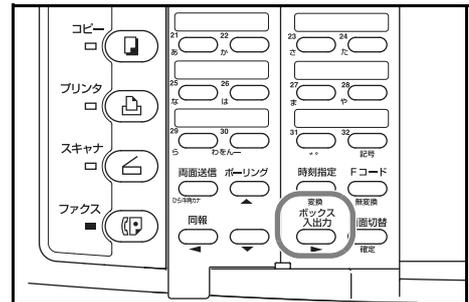
Fコード掲示板通信のためにFコード親展ボックス（原稿受渡しボックス）へ原稿を入力するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。Fコード親展ボックスへは、すでに原稿がある場合でも後から原稿を追加あるいは上書き入力することもできます。

- 参考
- Fコード親展ボックスへ入力した原稿データを消去するときは、その原稿をFコード親展ボックスから出力させてください。（5-22 ページのFコード親展ボックスからの出力のしかた参照）
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

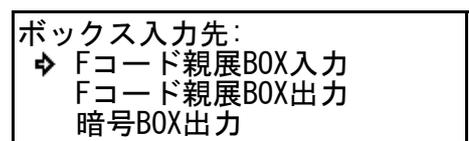
1 原稿をセットしてください。



2 カバープレートをし、[ボックス入出力] キーを押してください。



3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「Fコード親展BOX入力」を選択してください。



4 [OK] キーを押してください。

5 テンキーを使って、原稿を入力したいFコード親展ボックスのサブアドレス（4桁）を入力してください。



[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。

6 Fコード親展ボックスに初めて原稿を記憶させるときは手順9へ、すでにFコード親展ボックスに記憶された原稿があるときは次の手順7へ進んでください。

7 [OK] キーを押してください。

- 8 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、原稿の追加方法を選択してください。

原稿を追加する： ➡ 追加 上書き 中止

＞原稿を追加するときは、「追加」を選択してください。

＞Fコード親展ボックス内の原稿を全て消去し、新しい原稿を記憶させるときは、「上書き」を選択してください。「上書き」を選択すると、Fコード親展受信した原稿も消去されますので注意してください。

＞原稿の追加を中止するときは、「中止」を選択してください。

- 9 [OK] キーを押してください。機械は原稿の読み込みを開始します。

「中止」を選択したときは、機械は初期モードに戻ります。

全ての原稿の読み込みを終了すると、機械は初期モードに戻ります。

入力したFコード親展ボックスのサブアドレスが登録されていないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はサブアドレスの入力画面に戻ります。

Fコード掲示板受信のしかた

Fコード掲示板通信は送信側のFコード親展ボックスを掲示板のごとく使うことにより、不特定多数の相手先との原稿の受け渡しを可能にする通信方法です。送信側では、事前に機械のメモリ内にFコードボックスを登録し、そのFコードボックスに原稿を入力しておきます。Fコードボックス内の原稿は消去するまでFコードボックス内に保持されるため、サブアドレスとFコードパスワードが合致すれば、何度でもFコードボックス内の原稿を送信することができます。

受信側は、ポーリング受信操作を行って送信側のFコードボックスから原稿を受信しますが、このときサブアドレスとFコードパスワードを使って送信側のFコードボックスを指定します。他社機でも採用されているFコード（本機ではサブアドレスとFコードパスワード）を使用するため、相手機が他社機であっても、同様のFコード掲示板通信機能を備えていれば通信を行うことができます。

制限事項：Fコード通信機能を伴った同様の掲示板通信機能を相手機が備えていることが必要です。機械によっては、原稿受渡しボックスへ原稿を入力できなかつたり、ポーリング受信が行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。（例えば、本機が送信側で原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）に原稿を入力しても、受信側の機械にポーリング受信機能が備わっていない場合は掲示板通信は成立しません。）

<前提条件>

●送信側では…

事前に原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）を登録し、そのボックスに送信する原稿を入力しておく必要があります。

そして、そのボックス番号（本機では4桁のサブアドレス）とパスワード（本機ではFコードパスワード）を受信側に伝えておく必要があります。（5-24 ページのFコード親展ボックスへの原稿の入力のしかた参照）

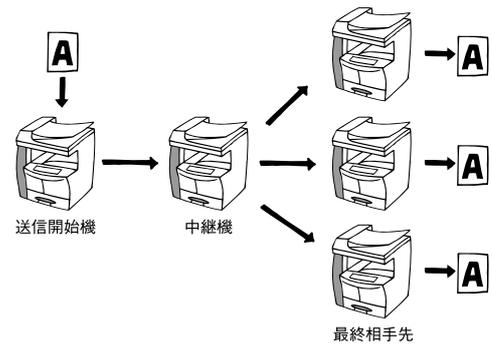
●受信側では…

ポーリング受信操作時に相手先で登録されている原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）のボックス番号（本機では4桁のサブアドレス）とパスワード（本機では4桁のFコードパスワード）を入力する必要があります。したがって、それらの番号は事前に知っている必要があります。

参考 操作のしかたは、5-12 ページのポーリング受信のしかたを参照してください。

中継機で原稿を転送する（Fコード中継同報指示送信）

中継同報指示送信とは、多数の遠方の相手先へ原稿を送る場合に、途中で一度別のファクスに中継させて送信する方法です。例えば、送信開始機から中継機が市外通話で中継機から複数の最終相手先が市内通話になると、電話料金を節約することができます。



- 参考
- ・ 中継機ではFコード中継ボックスを登録してください。（「Fコード中継ボックスの登録のしかた」参照）登録内容はFコード中継ボックスリストで確認してください。（5-34 ページのFコード中継ボックスリストの出力のしかた参照）
 - ・ 送信開始機から中継指示送信を行うときは、5-31 ページのFコード中継同報指示送信のしかたを参照してください。

Fコード中継ボックスの登録のしかた

新たにFコード中継ボックスの登録を行うときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

- 参考 Fコード中継ボックスは最大15個まで登録することができます。

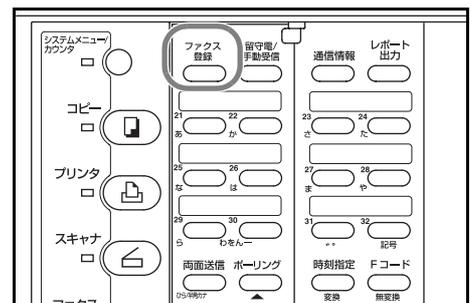
〈ご注意〉

Fコード中継ボックスを登録する際、すでに暗号ボックスのボックス番号やFコード親展ボックスのサブアドレスに使用されている番号をサブアドレスとしては登録できません。

ここで登録したFコードパスワードがわからなくなると、Fコード中継ボックスの内容変更および削除ができなくなります。Fコードパスワードの取扱いには充分ご注意ください。

- 参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「FコードBOX登録」を選択して、[OK] キーを押してください。

ファクス登録:
グループダイヤル登録
チェーンダイヤル登録
⇒ FコードBOX登録 ▶

- 3 [▼] キーを押して「Fコード中継BOX登録」を選択して、[OK] キーを押してください。

FコードBOX登録:
Fコード親展BOX登録
⇒ Fコード中継BOX登録

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、未登録の登録エリアを選択してください。

Fコード中継BOX登録:
終了
⇒ #01
#02

- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 Fコード中継ボックスのサブアドレスとして登録する番号を入力してください。

サブアドレスは、“0000”～“9999”の4桁の数字で入力してください。

サブアドレス:0000
サブアドレスを入力して下さい

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。

- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 Fコードパスワードとして登録したい番号を入力してください。

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って4桁で入力してください。

パスワード:0000
パスワードを入力して下さい

Fコードパスワードを「0000」で登録したときは、Fコード中継ボックスへの受信時にFコードパスワードのチェックが行われません。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 以下の手順 (1)、(2) を繰り返して最終送信先のファクス番号を入力してください。
(最大 232 局)

- (1) 相手先のファクス番号を入力してください。

相手先の入力には、テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルおよびチェーンダイヤルが使用できます。

☎:
送信局を入力して下さい

- (2) [OK] キーを押してください。

- 11 [OK] キーを押してください。

- 12 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、中継局で送信原稿を出力するかどうか選択してください。
「On」を選択すると、中継局で送信原稿を出力します。

自局出力：
➡ On
Off

- 13 [OK] キーを押してください。

- 14 中継同報の送信結果レポートを送る場合は、送信先のファクス番号を入力してください。

送らない場合は手順 15 に進んでください。

相手先の入力には、テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、およびチェーンダイヤルが使用できます。

: _
レポート送信先を入力して下さい

- 15 [OK] キーを押してください。Fコード中継ボックスの登録が終了します。

>引き続き別の F コード中継ボックスの登録を行うときは、手順 4 に戻ってください。
>これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

Fコード中継ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた

最終相手先の追加や削除の他、登録されている内容を変更するときや、Fコード中継ボックスを削除するときは以下の手順で行ってください。

- 参考
- Fコードパスワードを変更することはできません。Fコードパスワードを変更したいときは、Fコード中継ボックスを一度削除し、新しいFコードパスワードで登録しなおしてください。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 5-27 ページの Fコード中継ボックスの登録のしかたの手順 1～3 を行ってください。

2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して対象となる Fコード中継ボックスを選択してください。



3 「Fコード中継ボックスの内容を変更するとき」か「Fコード中継ボックスを削除するとき」のどちらかに進んでください。

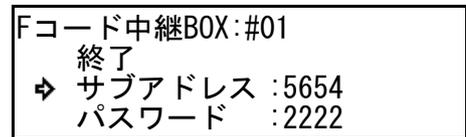
＞Fコード中継ボックスの内容を変更するとき

- (1) [OK] キーを押してください。
- (2) 登録済の Fコードパスワード（4桁）を入力してください。



- (3) [OK] キーを押してください。
- (4) [▲] キーまたは [▼] キーを押して修正する項目を選択して、[OK] キーを押してください。

修正の方法は 5-27 ページの Fコード中継ボックスの登録のしかたを参照してください。



- (5) 各項目の修正が終了し、手順 (4) に戻れば [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択してください。

＞Fコード中継ボックスを削除するとき

- (1) [ストップ/クリア] キーを押してください。



- (2) 登録済の Fコードパスワード（4桁）を入力してください。



- 4 [OK] キーを押してください。登録内容の変更あるいはFコードボックスの削除が終了します。
- >引き続き別のFコード中継ボックスの登録内容変更あるいは削除を行うときは、手順2に戻ってください。
- >これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

Fコード中継同報指示送信のしかた

ここでは本機が送信開始機になり相手先の中継機のFコード中継ボックスに原稿を送り、中継機から最終相手先へ原稿を送る手順を示します。

<制限事項>

- Fコード通信機能を伴った同様の中継同報指示通信機能を相手機が備えていることが必要です。機械によっては、送信のみ、受信のみしか行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。
- 本機が送信側になる場合、サブアドレスは20桁まで入力できますが、この有効桁数は相手機によって異なります。事前に相手側に確認し、受信側機の有効桁数内でサブアドレスを入力する必要があります。

<前提条件>

●送信側では…

受信側で登録されている原稿受渡しボックス（本機ではFコード中継ボックス）の番号（本機では4桁のサブアドレス）とFコードパスワードを入力する必要があるため、それらを事前に知っている必要があります。

本機が送信側の場合、相手先ファクス番号の入力には、Fコード用に登録されたワンタッチダイヤルを使用するかテンキーから入力しFコード用のサブアドレスを入力する必要があります。

最終相手先は中継機のFコード中継ボックスの登録内容にしたがいます。

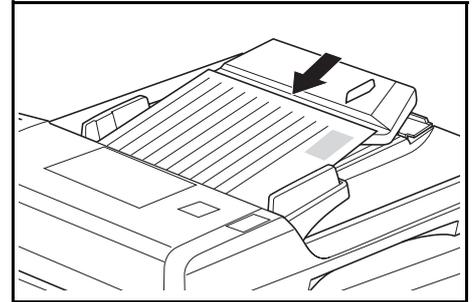
●受信側では…

原稿受渡しボックス（本機ではFコード中継ボックス）を登録し、その番号（本機では4桁のサブアドレス）を送信側に伝えておく必要があります。（5-27ページのFコード中継ボックスの登録のしかた参照）

本機が受信側（中継機）となる場合は、Fコード中継ボックスの登録の際、最終相手先のファクス番号入力の全てを、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで行うことによって最終相手先に最大232カ所に一度の操作で送信することができます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 原稿をセットしてください。



- 2 開始時刻を指定するときは、[時刻指定] キーを押してください。メッセージ表示の1行目に「T」の文字が表示されます。

通信予約限度（最大 50 件まで）に達した場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと操作は中止され、初期モードに戻ります。

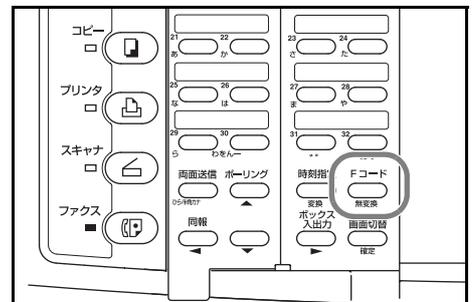
開始時刻を指定しないときは、この操作は必要ありません。次の手順 3 へ進んでください。

- 3 テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。

相手先番号の入力には F コード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使用することもできます。また、その場合には、手順 4～7 の操作を省略することができます。



- 4 カバープレートを開き、[F コード] キーを押してください。



- 5 テンキーを使って、サブアドレスを入力してください。

相手側中継機の中継ボックスのサブアドレスを確認して、0～9の数字を使って最大 20 桁まで入力してください。



- 6 [OK] キーを押してください。

- 7 Fコードパスワードは、Fコード通信を行う際に使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

パスワード：_

-

(20桁)

パスワードを入力して下さい

＞Fコードパスワードを入力するときは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁までで入力してください。

＞Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順8へ進んでください。

- 8 次のそれぞれの場合に合わせて操作を行ってください。

＞手順2で【時刻指定】キーを押したときは、次の手順9へ進んでください。

＞手順2で【時刻指定】キーを押していないときは、手順11へ進んでください。

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 テンキーを使って開始時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。

- 11 [OK] キーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。

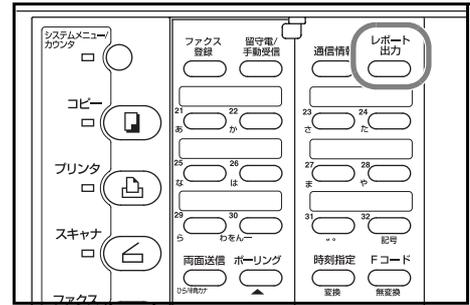
開始時刻を指定したときは、指定時刻になると機械は送信を開始します。

Fコード中継ボックスリストの出力のしかた

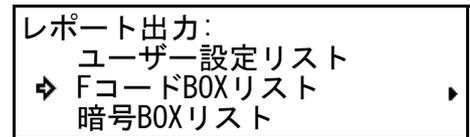
Fコード中継ボックスに登録されている内容は、Fコード中継ボックスリストを出力することによって確認できます。

- 参考
- Fコード中継ボックスが全く登録されていない場合、Fコード中継ボックスリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[レポート出力] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「FコードBOXリスト」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「Fコード中継BOXリスト」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。Fコード中継ボックスリストの出力が開始されます。メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

Fコード中継ボックスが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

受信した原稿を他のファクスに転送する（メモリ転送）

事前に登録した開始時刻から終了時刻までの間に受信した原稿をいったんメモリに記憶し、登録した相手先に転送する機能です。転送先へはFコード通信を行うこともできます。

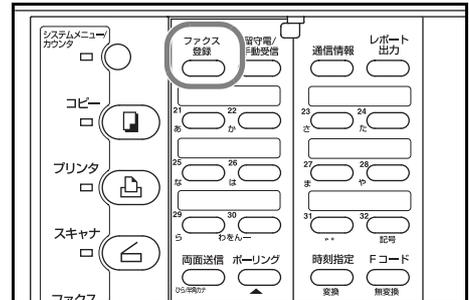
- 参考
- 正常に転送できなかった場合は、本機で出力後、受信原稿はメモリから消去されません。
 - 暗号通信など、通信の種類によってはメモリ転送機能が働かないことがあります。
 - メモリ転送を行うときは、事前に設定を行う必要があります。（5-38 ページのメモリ転送設定のしかた参照）

登録のしかた

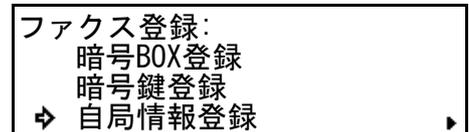
初めて登録を行うときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

- 参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。

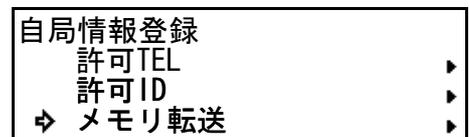


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「自局情報登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「メモリ転送」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 テンキーを使って転送先のファクス番号を入力してください。



転送先の入力には、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤルを使用することもできます。また、Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順7～10の操作を省略することができます。

- 7 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押してください。
 > [Fコード] キーを押したときは、次の手順8へ進んでください。
 > [Fコード] キーを押さないときは、手順11へ進んでください。

- 8 テンキーを使ってFコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。
 サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

サブアドレス: _ (20桁) サブアドレスを入力して下さい

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 必要であれば、Fコードパスワードをテンキーを使って入力してください。

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。
 Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順11へ進んでください。

パスワード:_ _ (20桁) パスワードを入力して下さい

- 11 [OK] キーを押してください。

入力した内容が正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと、メッセージ表示は転送先の入力画面に戻ります。

- 12 [▲] キーまたは[▼] キーを押して、受信した原稿をこの機械でも出力するかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。ただし最初の設定の際には表示されません。
 出力する場合は、「On」を選択してください。

自局出力: ➡ On Off

- 13 [OK] キーを押してください。

- 14 [▲] キーまたは[▼] キーを押して、転送する時間を指定するかどうかを選択してください。

「時刻指定」を選択すると、転送開始時刻から終了時刻までの間に受信した原稿だけを転送先に送信します。「終日」を選択すると、時間に関係なく受信した原稿を全て転送先に送信します。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。ただし最初の設定の際には表示されません。

> 「時刻指定」を選択したときは、次の手順15へ進んでください。

> 「終日」を選択したときは、手順19へ進んでください。

転送時間: ➡ 時刻指定 終日

15 [OK] キーを押してください。

16 テンキーを使って転送開始時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力された時刻はクリアされ、「00:00」に戻ります。

メモリ転送開始時刻:00:00

転送開始時刻を入力して下さい

17 [OK] キーを押してください。

18 テンキーを使って転送終了時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力された時刻はクリアされ、「00:00」に戻ります。

メモリ転送終了時刻:00:00

転送終了時刻を入力して下さい

19 [OK] キーを押してください。メモリ転送登録が終了します。

20 [リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

登録内容の変更のしかた

一度登録したメモリ転送の内容を変更するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 5-35 ページの登録のしかたの手順1～4の操作を行ってください。

2 [OK] キーを押してください。

3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して変更したい項目を選択し、[OK] キーを押してください。

メモリ転送:

終了

➡ メモリ転送先 :5555555

Fコード通信 :0n

参考 個々の項目の変更手順については、5-35 ページの登録のしかたを参考にして操作を行ってください。

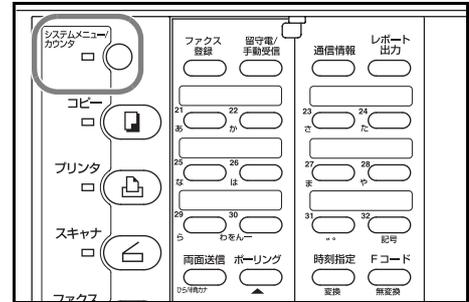
4 登録内容の変更が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

メモリ転送設定のしかた

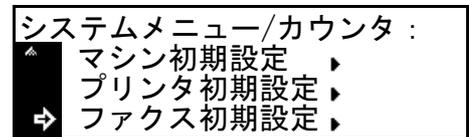
メモリ転送機能を使用するためには、あらかじめこの設定を行う必要があります。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

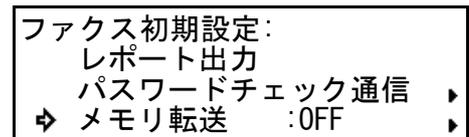
- 1 [システムメニュー] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ファクス初期設定」を選択して、[OK] キーを押してください。



- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「メモリ転送」を選択してください。



- 4 [OK] キーを押してください。

- 5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、受信した原稿を転送する、しないを選択してください。
メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



「On」を選択すると、受信原稿が転送されます。

- 6 [OK] キーを押してください。メモリ転送設定が終了します。

- 7 [リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

複数の相手先をグループで送信する（グループダイヤル）

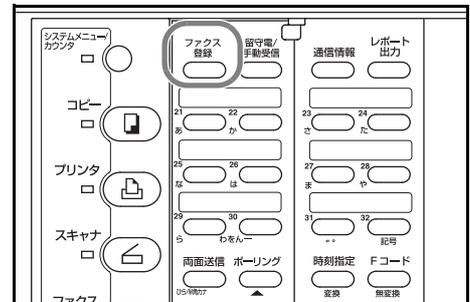
ワンタッチキーに複数の相手先を登録しておく、それらの相手先に順次ダイヤルを行う機能です。

- 参考
- グループダイヤルは順次同報送信などの各種機能通信の相手先番号入力にも使用できます。
 - グループダイヤルとチェーンダイヤルは併用できません。

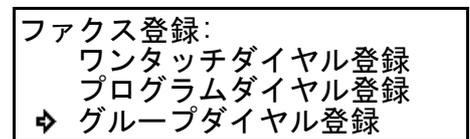
登録のしかた

- 参考
- 32個のワンタッチキーの全てにグループダイヤルを登録することができます。
 - 登録する相手先番号の全てを短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルのいずれかを使って入力する場合は、最大232宛先を登録することができます。
 - グループ名称を登録しておく、宛先帳機能を使って検索するときに役立ちます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[ファクス登録]キーを押してください。

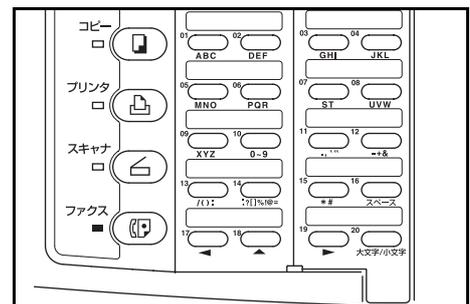


- 2 [▲]キーまたは[▼]キーを押して「グループダイヤル登録」を選択してください。



- 3 [OK]キーを押してください。

- 4 未登録のワンタッチキーを押してください。押したワンタッチキーのところにグループダイヤルが登録されます。

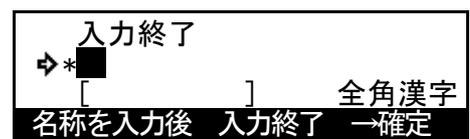


- 5 グループ名称を入力してください。

全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(2-15ページの文字を入力する参照)

グループ名称を登録しない場合は、次の手順6へ進んでください。

- 6 [確定]キーを押してください。



- 7 ▲キーまたは▼キーを押して画面をスクロールさせ、宛先帳タグを選択してください。

宛先帳タグ選択：
➡ あ
か
さ

- 8 [OK] キーを押してください。

- 9 相手先のファクス番号をテンキーを使って入力してください。

☎：_

ファクス番号を入力して下さい

相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順10～13の操作を省略することができます。

- 10 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押してください。

> [Fコード] キーを押したときは、次の手順11へ進んでください。

> [Fコード] キーを押さないときは、手順14へ進んでください。

- 11 Fコード通信で使用するサブアドレスをテンキーを使って入力してください。

サブアドレス：
_ (20桁)

サブアドレスを入力して下さい

サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

- 12 [OK] キーを押してください。

- 13 必要であれば、Fコードパスワードをテンキーを使って入力してください。

パスワード：_

_ (20桁)

パスワードを入力して下さい

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順14へ進んでください。

- 14 [OK] キーを押してください。

入力した相手先がすでに登録されている場合は、エラーメッセージが表示されます。

[OK] キーを押して、手順15へ進んでください。

相手先の数が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押して、手順16へ進んでください。

- 15 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

> まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順7に戻ってください。

> 相手先の入力が全て終わったときは、次の手順16へ進んでください。

- 16 [OK] キーを押してください。グループダイヤルの登録が終了します。

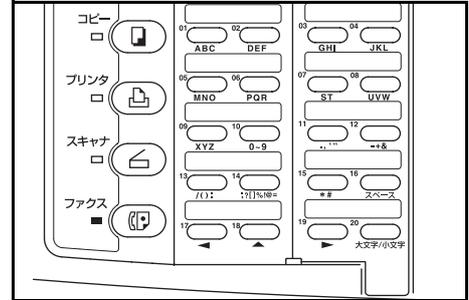
> 引き続き別のグループダイヤルの登録を行うときは、手順4～16を繰り返してください。

> これで登録を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

登録内容の変更と削除のしかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 5-39 ページの登録のしかたの手順 1～3 の操作を行ってください。
- 対象となるグループダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

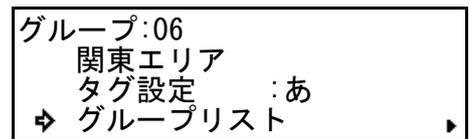


- それぞれの手順にしたがって操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

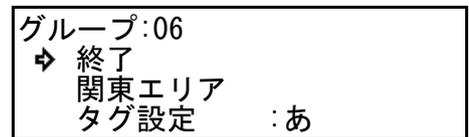
- [▲] キーまたは [▼] キーを押して表示されている登録項目を選択してください。

グループにした相手先の追加、変更、削除を行うときは、「グループリスト」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。
- 5-39 ページの登録のしかたを参照して各内容を変更してください。

- 変更が終了すれば [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択して、[OK] キーを押してください。



>グループダイヤルを削除するとき

- [ストップ/クリア] キーを押してください。



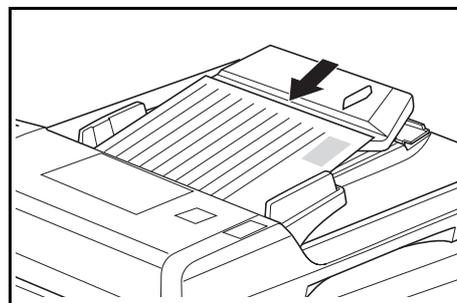
- [OK] キーを押してください。グループダイヤルが削除されます。

- 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

使いかた

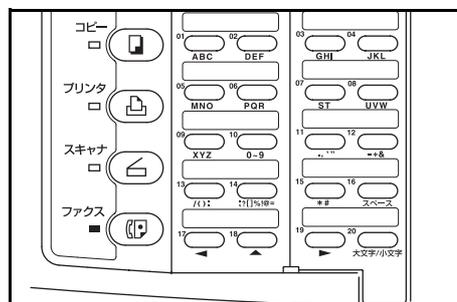
- 参考
- グループダイヤルは、チェーンダイヤルと併用することはできません。
 - グループダイヤルは通常送信だけでなく、順次同報送信やポーリング受信などの相手先の入力時にも使用することができます。

1 原稿をセットしてください。



2 使いたいグループダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

機械はグループダイヤルに登録されている相手先全てに送信を行います。



参考 ワンタッチキーを押したときに以下のようなメッセージが表示されるときは、7-7 ページの相手先の名称を確認してダイヤルする（ダイヤル確認設定）が「ON」になっています。

相手先名称など登録内容を確認して、メッセージ表示のしたに表示される数字をテンキーで入力してください。ダイヤルを開始します。

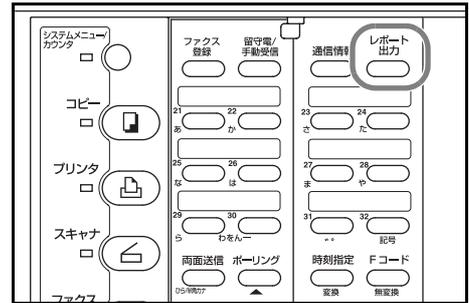


グループダイヤルリストの出力のしかた

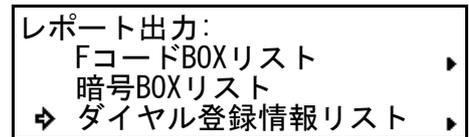
グループダイヤルに登録されている相手先の番号やグループ名は、グループダイヤルリストを出力することによって確認できます。

- 参考
- グループダイヤルが全く登録されていない場合、グループダイヤルリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。

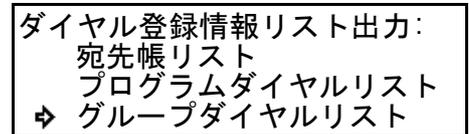


- [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。

- [▲] キーまたは [▼] キーを押して「グループダイヤルリスト」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。グループダイヤルリストの出力が開始されます。

メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

グループダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

送信内容をプログラムにする（プログラムダイヤル）

同報送信やポーリング受信などのいろいろな通信形態の操作手順をワンタッチキーに登録しておく、プログラムとして使うことができます。相手先や通信時刻などいつも固定の通信をよく行う場合には、操作を簡略できるので非常に便利です。3つの通信形態の操作手順をプログラムとして登録することができます。

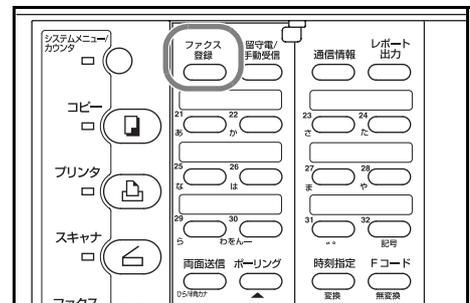
- A. 通常送信
- B. 順次同報送信
- C. ポーリング受信

- ご注意
- 相手先番号入力時にグループダイヤルはパターン A を使用できません。
 - 相手先番号入力時にチェーンダイヤルとグループダイヤルを併用して使用することはできません。
 - 各通信パターンごとの詳細な注意事項などは、それぞれの機能通信の説明ページを参照してください。

登録のしかた

- 参考
- 32個のワンタッチキー全てにプログラムダイヤルを登録することができます。
 - プログラム名称は、省略することもできますが、登録しておく宛先帳機能を使って検索するときに役立ちます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[ファクス登録] キーを押してください。

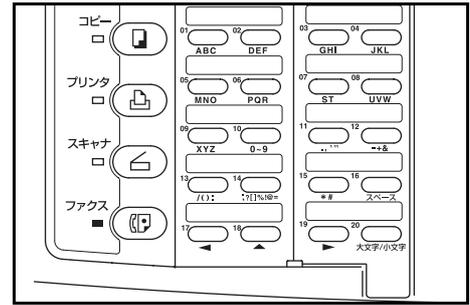


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「プログラムダイヤル登録」を選択してください。

ファクス登録:
 ワンタッチダイヤル登録
 ⇨ プログラムダイヤル登録
 グループダイヤル登録

- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 未登録のワンタッチキーを押してください。



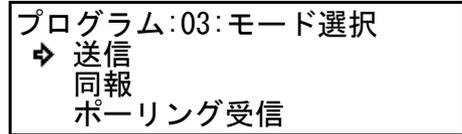
- 5 希望の通信パターンの操作手順へ進んでください。

- A. 通常送信 このページ
- B. 順次同報送信 5-47 ページ
- C. ボーリング受信 5-49 ページ

A. 通常送信（手順 5 から続く）

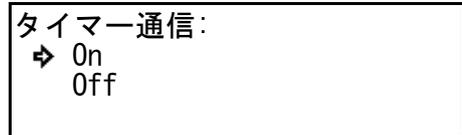
- 6 メッセージ表示で「送信」が選択されていることを確認してください。

選択されていないときは、[▲] キーまたは [▼] キーで選択してください。



- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 開始時刻を指定するかどうかを [▲] キーまたは [▼] キーで選択してください。



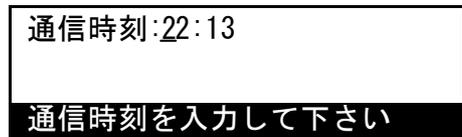
>開始時刻を指定する場合は「On」を選択し、次の手順 9 へ進んでください。

>開始時刻を指定しない場合は「Off」を選択し、手順 11 へ進んでください。

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。



- 11 [OK] キーを押してください。

- 12 相手先のファクス番号をテンキーを使って入力してください。

相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順 13～16 の操作を省略することができます。



- 13 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押してください。
 > [Fコード] キーを押したときは、次の手順 14 へ進んでください。
 > [Fコード] キーを押さないときは、手順 17 へ進んでください。

- 14 Fコード通信で使用するサブアドレスを入力してください。
 サブアドレスは、0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。



- 15 [OK] キーを押してください。

- 16 必要であれば、Fコードパスワードをテンキーを使って入力してください。

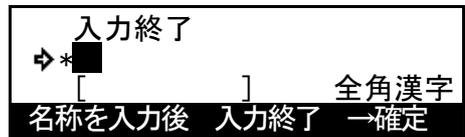


Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。
 Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順 17 へ進んでください。

- 17 [OK] キーを押してください。

入力した内容が正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

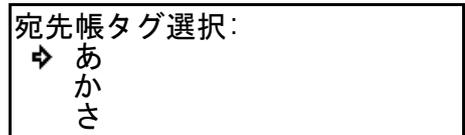
- 18 プログラム名称を入力してください。



参考 全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(2-15ページの文字を入力する参照)

- 19 [確定] キーを押してください。

- 20 [▲] キーまたは [▼] キーを押して画面をスクロールさせ、宛先帳タグを選択してください。



- 21 [OK] キーを押してください。入力した内容がプログラムダイヤルとして登録されます。
 >引き続き別のプログラムダイヤルの登録を行うときは、5-45 ページの手順 4 へ戻ってください。
 >これでプログラムダイヤルの登録を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

B. 順次同報送信 (5-45 ページ手順 5 から続く)

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「同報」を選択してください。

プログラム:04:モード選択
送信
⇒ 同報
ポーリング受信

- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 開始時刻を指定するかどうかを [▲] キーまたは [▼] キーで選択してください。

タイマー通信:
⇒ On
Off

> 開始時刻を指定する場合は「On」を選択し、次の手順 9 へ進んでください。

> 開始時刻を指定しない場合は「Off」を選択し、手順 11 へ進んでください。

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

通信時刻:00:10

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。

通信時刻を入力して下さい

- 11 [OK] キーを押してください。

- 12 テンキーを使って相手先のファクス番号を入力してください。

☎: _

相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順 13 ~ 16 の操作を省略することができます。

ファクス番号を入力して下さい

- 13 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押してください。

> [Fコード] キーを押したときは、手順 14 へ進んでください。

> [Fコード] キーを押さないときは、手順 17 へ進んでください。

- 14 Fコード通信で使用するサブアドレスをテンキーを使って入力してください。

サブアドレス:

-

(20桁)

サブアドレスは、0 ~ 9 の数字を使って最大 20 桁まで入力できます。

サブアドレスを入力して下さい

- 15 [OK] キーを押してください。

- 16 必要であれば、Fコードパスワードをテンキーを使って入力してください。

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順17へ進んでください。



- 17 [OK] キーを押してください。

入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

- 18 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

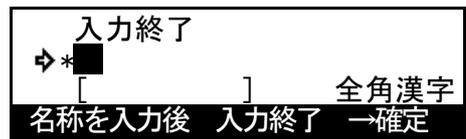
＞まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順12に戻ってください。

＞相手先の入力が全て終わったときは、次の手順19へ進んでください。

- 19 [OK] キーを押してください。

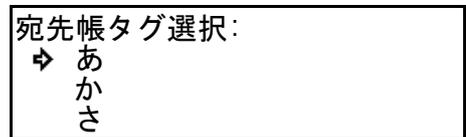
- 20 プログラム名称を入力してください。

全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(2-15ページの文字を入力する参照)



- 21 [確定] キーを押してください。

- 22 [▲] キーまたは [▼] キーを押して宛先帳タグを選択してください。



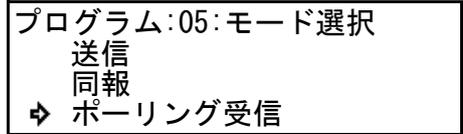
- 23 [OK] キーを押してください。入力した内容がプログラムダイヤルとして登録されます。

＞引き続き別のプログラムダイヤルの登録を行うときは、5-45ページの手順4に戻ってください。

＞これでプログラムダイヤルの登録を終了するときは [リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

C. ポーリング受信 (5-45 ページの手順 5 から続く)

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ポーリング受信」を選択してください。



- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 開始時刻を指定するかどうかを [▲] キーまたは [▼] キーを押して選択してください。



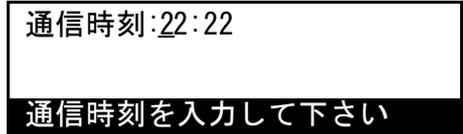
> 開始時刻を指定する場合は「On」を選択し、次の手順 9 へ進んでください。

> 開始時刻を指定しない場合は「Off」を選択し、手順 11 へ進んでください。

- 9 [OK] キーを押してください。

- 10 テンキーを使って開始したい時刻を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、時刻表示は「00:00」にクリアされます。



- 11 [OK] キーを押してください。

- 12 相手先のファクス番号をテンキーを使って入力してください。

相手先番号の入力には短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することもできます。Fコード通信用に登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを使って相手先を入力した場合は、手順 13 ~ 16 の操作を省略することができます。



- 13 Fコード通信を行うときは、[Fコード] キーを押してください。

> [Fコード] キーを押したときは、次の手順 14 へ進んでください。

> [Fコード] キーを押さないときは、手順 17 へ進んでください。

- 14 Fコード通信で使用するサブアドレスをテンキーを使って入力してください。

サブアドレスは、0 ~ 9 の数字を使って最大 20 桁まで入力できます。



- 15 [OK] キーを押してください。

- 16 必要であれば、Fコードパスワードをテンキーを使って入力してください。

Fコードパスワードは、0～9の数字と“*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

Fコードパスワードを入力しないときは、次の手順17へ進んでください。



- 17 [OK] キーを押してください。

入力した相手先がすでに登録されていたり、相手先の数が多すぎる場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押すと、メッセージ表示は宛先入力画面に戻ります。

- 18 引き続き相手先の入力を行うかどうかを選択してください。

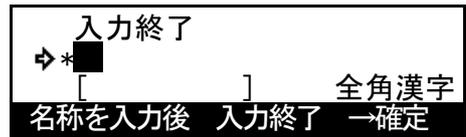
>まだ相手先ファクス番号の入力を続けるときは、手順12に戻ってください。

>相手先の入力が全て終わったときは、次の手順19へ進んでください。

- 19 [OK] キーを押してください。

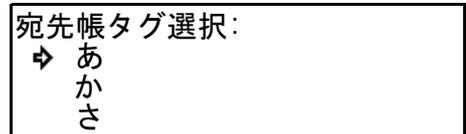
- 20 プログラム名称を入力してください。

全角文字なら最大10文字、半角文字なら最大20文字まで登録できます。(2-15ページの文字を入力する参照)



- 21 [確定] キーを押してください。

- 22 [▲] キーまたは [▼] キーを押して宛先帳タグを選択してください。



- 23 [OK] キーを押してください。入力した内容がプログラムダイヤルとして登録されます。

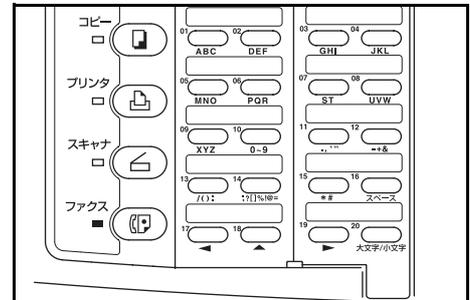
>引き続き別のプログラムダイヤルの登録を行うときは、5-45ページの手順4に戻ってください。

>これでプログラムダイヤルの登録を終了するときは [リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

登録内容の変更と削除のしかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

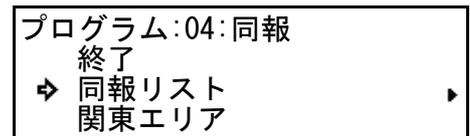
- 1 5-44 ページの登録のしかたの手順 1～3 の操作を行ってください。
- 2 対象となるプログラムダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



- 3 「>登録内容を変更するとき」、「>プログラムダイヤルを削除するとき」それぞれの手順にしたがって操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

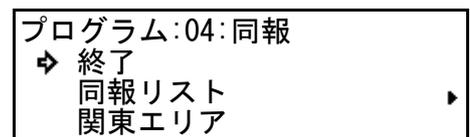
- (1) [▲] キーまたは [▼] キーを押して変更したい内容を選択してください。



- (2) [OK] キーを押してください。

参考 個々の内容の変更手順については、5-44 ページの登録のしかたを参考にして操作を行ってください。

- (3) 手順 (1) の画面に戻れば、[▲] キーを押して「終了」を選択して [OK] キーを押してください。



>プログラムダイヤルを削除するとき

- (1) [ストップ/クリア] キーを押してください。

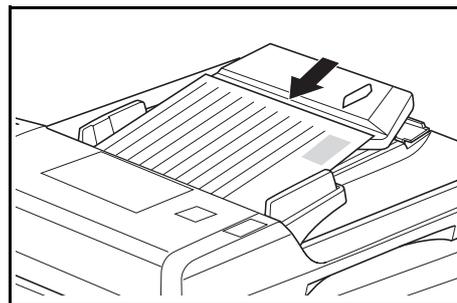


- (2) [OK] キーを押してください。

- 4 登録内容の変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

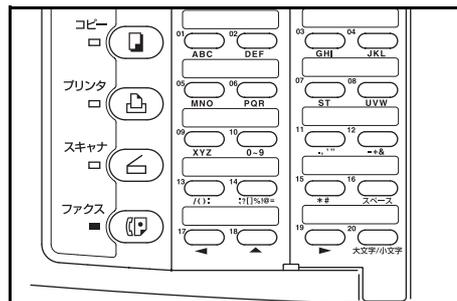
使いかた

- 1 原稿をセットしてください。



- 2 使いたいプログラムダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。

機械は登録されたプログラムダイヤルの内容にしたがって送信や受信を行います。



参考 ワンタッチキーを押したときに以下のようなメッセージが表示される場合は、7-7 ページの相手先の名称を確認してダイヤルする（ダイヤル確認設定）が「ON」になっています。

相手先名称など登録内容を確認して、メッセージ表示のしたに表示される数字をテンキーで入力してください。ダイヤルを開始します。

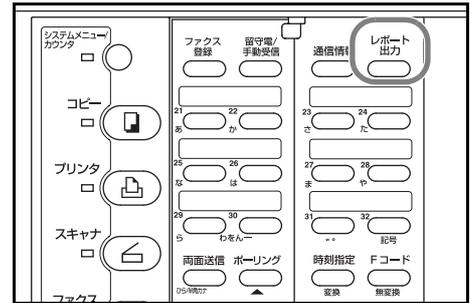


プログラムダイヤルリストの出力

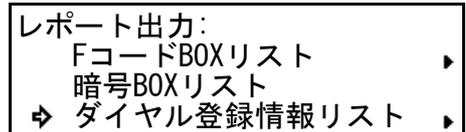
現在登録しているプログラムダイヤルの内容は、プログラムダイヤルリストを出力することによって確認できます。

- 参考
- プログラムダイヤルが全く登録されていない場合、プログラムダイヤルリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。

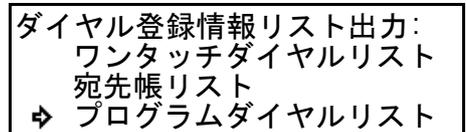


- [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。

- [▲] キーまたは [▼] キーを押して「プログラムダイヤルリスト」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。プログラムダイヤルリストの出力が開始されます。

メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

プログラムダイヤルが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

パスワードが一致したときだけ通信を行う（パスワードチェック通信）

パスワード条件を満足する送信や受信だけを行えるようにする機能です。この機能を使うと、送信または受信できる相手先を限定することができます。具体的には、事前にパスワード（許可 TEL 番号 / 許可 ID 番号）を登録し、パスワードチェック通信を行う旨の設定を行っておきます。送信操作時や受信時は、この機能についての特別な操作の必要はなく、通常通りの操作を行います。そして、実際に送信や受信が開始されたとき、パスワード条件を満足する送信や受信は正常に行われますが、条件を満足しない送信や受信はエラーとなります。

参考 パスワードチェック通信は、下記の＜前提条件＞や＜パスワード通信成立条件＞をよくお読みになり、送信や受信を可能にする相手先とも事前によく打ち合わせた上で行うようにしてください。

＜前提条件＞

自機にパスワード（許可 TEL 番号または許可 ID）を登録しておく必要があります。

相手側機に自局 TEL 番号または自局 ID が登録されている必要があります。

あらかじめパスワード通信設定を行う必要があります。（5-59 ページのパスワードチェック通信設定のしかた参照）

＜パスワード通信成立条件＞

自機に登録されている許可 TEL 番号と相手先の自局 TEL 番号とが一致するとき。

自機に登録されている許可 ID と相手先の自局 ID とが一致するとき。

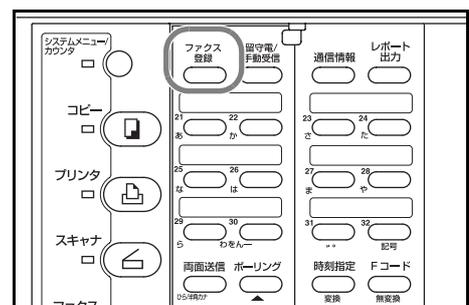
自機（送信側）に登録された短縮またはワンタッチダイヤルを使って相手先（受信側）に送信した場合に、その登録されている番号の下 4 桁と受信側のファクス番号の下 4 桁が一致するとき。（手動送信時を除く）

受信が行われる場合に、自機（受信側）の短縮またはワンタッチダイヤルに登録されている相手先番号の下 4 桁が、送信側のファクス番号の下 4 桁と一致するとき。

許可 TEL 番号の登録のしかた

- 参考**
- 最大 5 個の許可 TEL 番号を登録することができます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「自局情報登録」を選択してください。

ファクス登録：
暗号BOX登録
暗号鍵登録
⇒ 自局情報登録 ▶

- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「許可 TEL」を選択してください。

自局情報登録
ダイヤルIN FAX :0000
ダイヤルIN TEL :0000
⇒ 許可TEL ▶

- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、#1～#5の登録エリアの中から未登録のエリアを選択してください。

許可TEL：
終了
⇒ #1：
#2：

- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 許可 TEL 番号として登録したい番号をテンキーを使って入力してください。

許可 TEL 番号は0～9までの数字で、最大20桁まで入力できます。

#1: _
(20桁)
許可番号を入力して下さい

- 9 [OK] キーを押してください。入力した番号が許可 TEL 番号として登録されます。

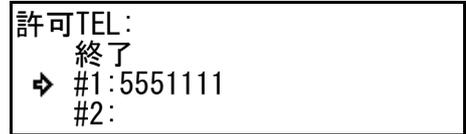
>引き続き別の許可 TEL 番号の登録を行うときは、手順6～9を繰り返してください。
>これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

許可 TEL 番号の変更 / 削除のしかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 5-54 ページの許可 TEL 番号の登録のしかたの手順 1～5 の操作を行ってください。

2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、変更あるいは削除したい許可 TEL 番号を選択してください。



3 変更あるいは削除の操作を行ってください。

＞登録内容を変更するとき

(1) [OK] キーを押してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、表示されていた番号はクリアされます。

(2) 許可 TEL 番号として新たに登録したい番号をテンキーを使って入力してください。

許可 TEL 番号は 0～9 までの数字で、最大 20 桁まで入力できます。



(3) [OK] キーを押してください。

＞許可 TEL 番号を削除するとき

[ストップ/クリア] キーを押してください。許可 TEL 番号が削除されます。



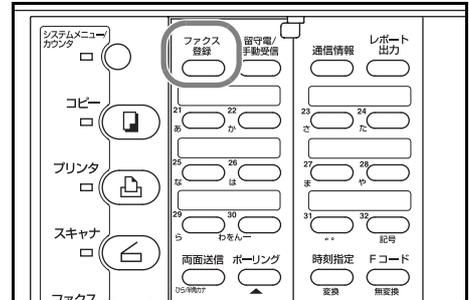
4 変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

引き続き別の許可 TEL 番号の変更や削除を行うときは、手順 2 に戻ってください。

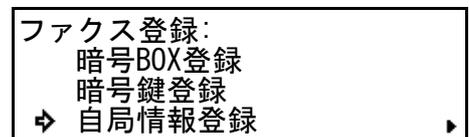
許可 ID の登録のしかた

- 参考
- 最大 5 個の許可 ID を登録することができます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「自局情報登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「許可 ID」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、#1 ~ #5 の登録エリアの中から未登録のエリアを選択してください。



- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 許可 ID として登録したい番号をテンキーを使って入力してください。

許可 ID は 0 ~ 9 までの数字を使って 4 桁で入力してください。



- 9 [OK] キーを押してください。入力した番号が許可 ID として登録されます。

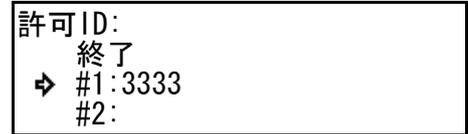
>引き続き別の許可 ID の登録を行うときは、手順 6 ~ 9 を繰り返してください。

>これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

許可 ID の変更 / 削除のしかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 5-57 ページの許可 ID の登録のしかたの手順 1～5 の操作を行ってください。
- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、変更あるいは削除したい許可 ID を選択してください。



- 3 変更あるいは削除の操作を行ってください。

>登録内容を変更するとき

- (1) [OK] キーを押してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、表示されていた番号はクリアされます。

- (2) 許可 ID として新たに登録したい番号をテンキーを使って入力してください。

許可 ID は 0～9 までの数字を使って 4 桁で入力してください。



- (3) [OK] キーを押してください。

>許可 ID を削除するとき

- (1) [ストップ/クリア] キーを押してください。許可 ID が削除されます。



- 4 変更や削除が全て終了すれば、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

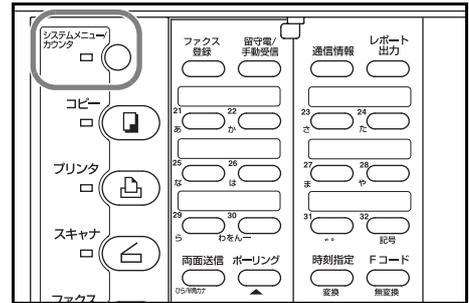
引き続き別の許可 ID の変更や削除を行うときは、手順 2 に戻ってください。

パスワードチェック通信設定のしかた

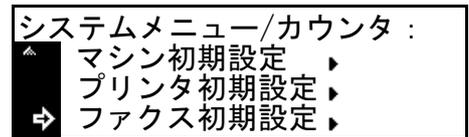
パスワードチェック通信設定をしておくこと、送信する相手先や受信できる相手先を限定することができます。これらは送信、受信別々に設定ができます。

- 参考
- 許可 TEL 番号と許可 ID 番号が全く登録されていない場合、この設定を行ってもパスワードチェック通信は行われません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 [システムメニュー] キーを押してください。

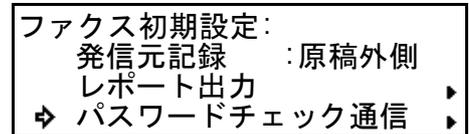


2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



3 [OK] キーを押してください。

4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「パスワードチェック通信」を選択してください。



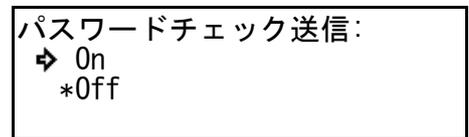
5 [OK] キーを押してください。

6 メッセージ表示に「送信」が選択されていることを確認し、[OK] キーを押してください。



7 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「On」または「Off」のどちらかを選択してください。

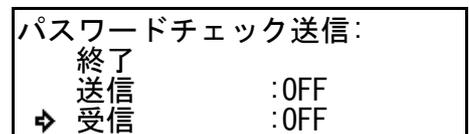
メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



パスワードチェック送信を行う場合は、「On」を選択してください。

8 [OK] キーを押してください。パスワードチェック送信設定が終了します。

9 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「受信」を選択してください。



10 [OK] キーを押してください。

11 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「On」または「Off」のどちらかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

パスワードチェック受信: ➡ On *0ff

パスワードチェック受信を行う場合は、「On」を選択してください。

12 [OK] キーを押してください。パスワードチェック受信設定が終了します。

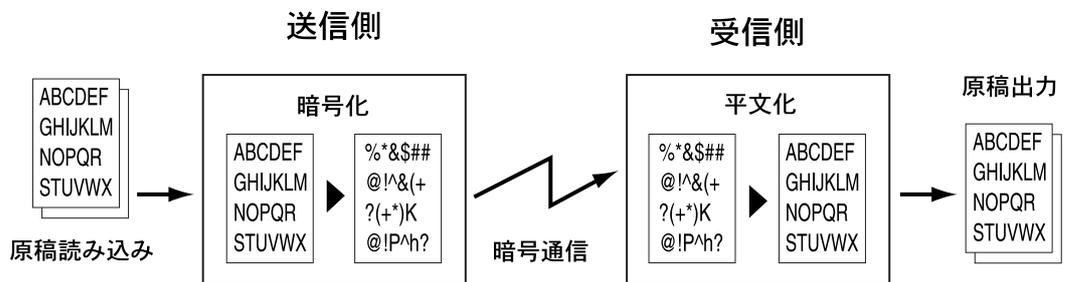
13 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択し、[OK] キーを押してください。FAX 設定のメニュー画面に戻ります。

14 設定を終了するときには、[リセット] キーを押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。

原稿を暗号化して通信する（暗号通信）

送信機側で原稿を暗号化して通信を行う方法です。通信途中が暗号化されるので、第三者が何らかの方法で送信原稿を盗み見ようとした場合でも、本当の原稿の内容を知ることにはできません。送られた原稿は、受信側で元の原稿に戻して（平文化されて）印字出力されます。第三者には絶対に知られたくないような極秘の機密文書などを送る際に非常に有効な通信方法です。

- 参考
- 暗号通信を行うためには、相手側ファクスも同方式の暗号通信機能をもった弊社機である必要があります。
 - 暗号通信では、原稿の暗号化と平文化を行うために、送信側と受信側で同じ 16 桁の暗号鍵を使用します。暗号鍵が送信側と受信側で合致しない場合、暗号通信は成立しません。暗号通信を行うときは、送信側と受信側で事前に取り決めを行い、両者で同じ暗号鍵を 2 桁の暗号鍵番号と一緒に登録しておく必要があります。



送信・受信側での設定内容

設定内容	送信側	受信側	設定の参照ページ
暗号鍵番号	(A) 2 桁	(B) 2 桁	5-62 ページ
暗号鍵	(C) 16 桁	(C) 16 桁	5-62 ページ
ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの暗号鍵番号	(A) 2 桁		2-22 ページ 2-28 ページ
送信先暗号ボックス	(D) 4 桁		2-22 ページ 2-28 ページ
暗号ボックス番号		(D) 4 桁	5-65 ページ
暗号ボックスでの暗号鍵番号		(B) 2 桁	5-65 ページ

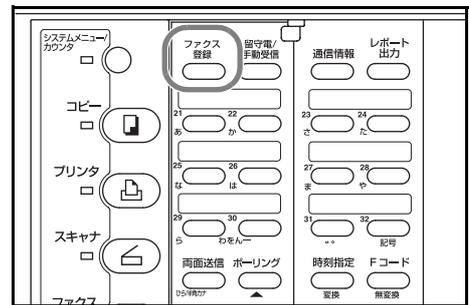
アルファベットが同じものは同じ数字を設定してください。例えば、暗号鍵は送信、受信側で同じ番号です。

暗号鍵の登録のしかた

暗号鍵は、送信側では暗号通信用として使用する短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルの登録時に、受信側では暗号通信用の暗号ボックスを登録する際に必要になります。暗号鍵は、0～9までの数字とアルファベットのA～Fの文字を任意に16個列べて作成します。作成した暗号鍵には、01～20の2桁の暗号鍵番号をつけて登録します。

- 参考
- 暗号鍵は最大20個まで登録することができます。
 - すでに登録されている暗号鍵の変更を行う場合も同様の操作を行ってください。
 - 暗証番号については、本体の応用編の使用説明書を参照してください。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。



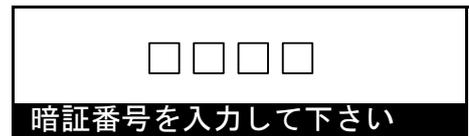
- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「暗号鍵登録」を選択してください。



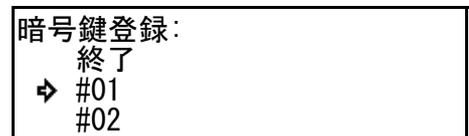
- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 テンキーを使って、暗証番号（4桁）を入力してください。

入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押した後、もう一度入力しなおしてください。



- 5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、#01～#20までの中で未登録の暗号鍵番号を選択してください。



- 6 [OK] キーを押してください。

- 7 ワンタッチキーを使って、登録したい暗号鍵を16桁で入力してください。



＜暗号鍵の作成＞

暗号鍵の作成には、0～9までの数字とアルファベットのA～Fの文字を使用し、それらを任意に16桁分入力したものが暗号鍵となります。入力にはワンタッチキーを使用します。ワンタッチキーへの文字の配置は下記のとおりです。

ワンタッチキー番号	文字
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	A
11	B
12	C
13	D
14	E
15	F
16	0

＜暗号鍵と暗号鍵番号について＞

作成した暗号鍵は、暗号鍵番号（01～20の2桁の数字）のもとに登録します。暗号通信時に使用する暗号鍵の指定は、この暗号鍵番号を使って行われます。

暗号通信により受信した原稿を出力するためには、送信側で指定した暗号鍵と受信側の暗号用親展ボックスに設定される暗号鍵が合致していなければなりません。暗号鍵番号は合致している必要はありません。例えば、送信側で“暗号鍵番号18”、“暗号鍵ABFE468C2569D341”が登録され、それが暗号通信において指定されている場合に、受信側が同じ内容の暗号鍵を“暗号鍵番号09”で登録している場合でも、暗号用親展ボックスに“暗号鍵番号09”を設定しておけば、暗号鍵自体は合致するため暗号通信が成立し、原稿を正しく出力することができます。

- 8 [OK] キーを押してください。入力した内容が暗号鍵として登録されます。
引き続き別の暗号鍵の登録を行うときは、手順5～8を繰り返してください。
- 9 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択してください。
- 10 [OK] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

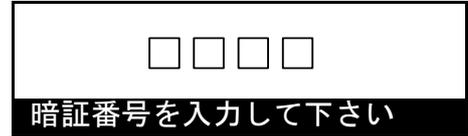
暗号鍵の登録内容の変更／削除のしかた

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

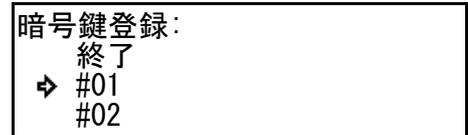
1 5-62 ページの暗号鍵の登録のしかたの手順 1～3 の操作を行ってください。

2 テンキーを使って、暗証番号（4桁）を入力してください。

入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押した後、もう一度入力しなおしてください。



3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、変更または削除したい暗号鍵を選択してください。



4 以下の手順で変更または削除を行ってください。

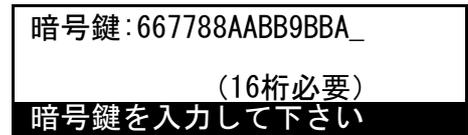
＞登録内容を変更するとき

(1) [OK] キーを押してください。

(2) ワンタッチキーを使って、登録したい暗号鍵を 16 桁で入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと入力を全て消すことができます。

(3) [OK] キーを押してください。



＞暗号鍵を削除するとき

(1) [ストップ/クリア] キーを押してください。

(2) [OK] キーを押してください。

5 他の暗号鍵の変更、削除を行うときは、手順 3、4 を繰り返してください。

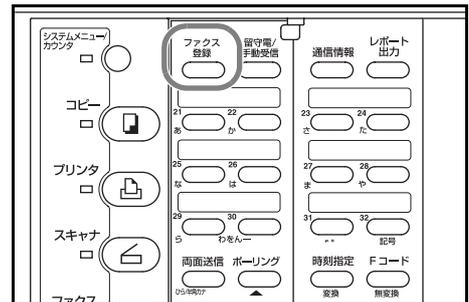
終了するときは [▲] キーまたは [▼] キーを押して「終了」を選択し、[OK] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

暗号ボックスの登録のしかた

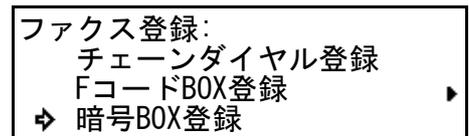
暗号通信の受信側では暗号ボックスの登録が必要です。また、受信した際にすぐに自動出力を行うか別操作で出力を行うかも選択してください。

- 参考
- 暗号ボックスは最大 15 個まで登録できます。
 - 登録する際に入力する暗号ボックス番号は F コード親展ボックスのサブアドレスや F コード中継ボックスのサブアドレスと同じ番号は使用できません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[ファクス登録] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「暗号 BOX 登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、未登録の登録エリアを選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 暗号ボックスのボックス番号として登録する番号を入力してください。

ボックス番号は、「0000」～「9999」の4桁の数字で入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。



- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 ボックス ID 番号として登録する番号を4桁で入力してください。

ボックス ID 番号を「0000」で登録したときは、その暗号ボックスに対するチェックが行われません。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。



9 [OK] キーを押してください。

10 暗号鍵番号として登録する番号を2桁で入力してください。

暗証鍵番号:00

暗号鍵の番号を入力して下さい

11 [OK] キーを押してください。

12 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、即時出力をするかどうか選択してください。

即時出力:
➡ ON
OFF

13 [OK] キーを押してください。

>引き続き別の暗号ボックスの登録内容変更あるいは削除を行うときは、手順4に戻ってください。

>これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

暗号ボックスの登録内容の変更／削除のしかた

- 参考
- ボックス ID 番号は変更できません。
 - 暗号ボックスにデータがある場合は暗号ボックスは削除できません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 5-65 ページの暗号ボックスの登録のしかたの手順1～3を行ってください。

2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、登録内容の変更または削除を行う暗号ボックスを選択してください。

暗号BOX登録:
終了
➡ #01 3333
#02

- 3 暗号ボックスの登録内容を変更する場合は「暗号ボックスの登録内容を変更するとき」、暗号ボックスの削除を行う場合は、「暗号ボックスを削除するとき」に進んでください。

＞暗号ボックスの登録内容を変更するとき

- (1) [OK] キーを押してください。
 (2) 登録されているボックス ID 番号 4 桁で入力してください。



- (3) [OK] キーを押してください。
 (4) [▲] キーまたは [▼] キーを押して、変更する項目を選択して、[OK] キーを押してください。



- (5) 5-65 ページの暗号ボックスの登録のしかたを参照して変更を行ってください。
 (6) [OK] キーを押してください。手順 (4) に戻ります。その他の設定を変更するときは手順 (4) ~ (6) を行ってください。
 (7) 変更が終了したら [▲] キーを押して「終了」を選択してください。

＞暗号ボックスを削除するとき

- (1) [ストップ/クリア] キーを押してください。



- (2) 登録されているボックス ID 番号 4 桁で入力してください。



- 4 [OK] キーを押してください。登録内容の変更あるいは暗号ボックスの削除が終了します。

- ＞引き続き別の暗号ボックスの登録内容変更あるいは削除を行うときは、手順 2 に戻ってください。
 ＞これで終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

送信側の操作のしかた

暗号送信を行う場合は、暗号通信用として登録した短縮ダイヤルまたはワンタッチダイヤルを使用して送信を行います。

- 参考
- 暗号送信は、単一宛先への送信のほか、順次同報送信、中継先から最終相手先への同報送信、中継先からの通信結果レポートの返送でも行うことができます。
 - 暗号通信時は、Fコード通信を行うことができません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

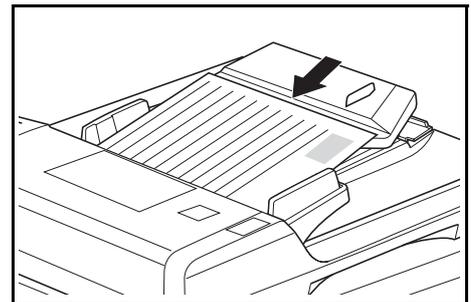
- 1 受信側と取り決めた暗号鍵の登録を行ってください。（5-62 ページの暗号鍵の登録のしかた参照）

すでに登録されている場合は、次の手順 2 に進んでください。

- 2 暗号通信用として使用するワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルの登録を行ってください。（2-22 ページのワンタッチキーで送信する（ワンタッチダイヤル）、2-28 ページの 3 桁の数字で相手先にダイヤルする（短縮ダイヤル）参照）

すでに登録されている場合は、次の手順 3 に進んでください。

- 3 原稿をセットしてください。



- 4 手順 2 で登録した短縮ダイヤルまたはワンタッチダイヤルを使って相手先のファクス番号を入力してください。
- 5 機械は送信のための動作を開始します。

短縮またはワンタッチダイヤルで指定されている暗号鍵が自機に登録されていない場合はエラーとなり、送信は行われません。

受信側の操作のしかた

暗号通信を行う場合、受信側では以下の手順にしたがって操作を行ってください。

- 参考**
- 暗号通信時は、Fコード通信を行うことができません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。
- 1 送信側と取り決めた暗号鍵の登録を行ってください。（5-62 ページの**暗号鍵の登録のしかた**参照）
すでに登録されている場合は、次の手順 2 に進んでください。
 - 2 暗号通信用として使用する暗号ボックスの登録を行ってください。（5-65 ページの**暗号ボックスの登録のしかた**参照）
すでに登録されている場合は、次の手順 3 に進んでください。
原稿の出力方法については、＜自動出力と手動出力＞を参照してください。
 - 3 相手機側から暗号送信が行われます。暗号通信が正常に行われた場合、暗号原稿は受信の際に暗号化される前の状態に戻され（平文化）、受信機側に設定された暗号ボックスに入ります。
暗号ボックス登録時に手動出力が選択されている場合は、次の手順 4 に進んでください。
暗号ボックス登録時に自動出力が選択されている場合には、受信後、自動的に原稿が出力されます。
 - 4 受信した原稿を暗号ボックスから出力してください。（5-70 ページの**暗号ボックスからの出力のしかた**参照）

＜自動出力と手動出力＞

受信側では、暗号ボックスの登録時、原稿の出力方法について次の 2 通りの選択ができます。（5-65 ページの**暗号ボックスの登録のしかた**参照）

●自動出力

受信後すぐに暗号ボックスから自動的に原稿を出力させる方法です。

●手動出力

受信後すぐには原稿を出力させず、いったん暗号ボックスに蓄積（記憶）させておき、出力したいときに、出力操作を行って原稿を出力する方法です。（5-70 ページの**暗号ボックスからの出力のしかた**参照）

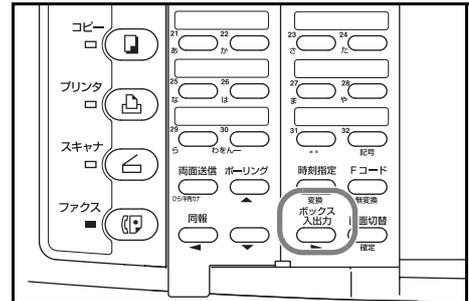
この方法は、暗号通信機能と親展機能とを組合わせた形態といえます。原稿を出力できるのは、暗号ボックスのボックス番号とボックス ID を知っている人に限られるため、通信途中だけでなく自機への受信後も高い機密性を保持することができます。

暗号ボックスからの出力のしかた

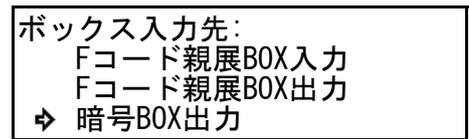
相手先から自機の暗号ボックスへ送られた原稿は、下記の出力操作を行って出力してください。出力が正常に行われると、暗号ボックス内の原稿データは消去されます。

- 参考
- 暗号ボックスの登録時にボックス ID 番号を「0000」で登録したときは、暗号ボックスからの出力操作時にボックス ID 番号の入力が不要です。入力したボックス番号が正しければ、出力が行われます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[ボックス入出力] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「暗号 BOX 出力」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 テンキーを使って、原稿を出力する暗号ボックスのボックス番号（4桁）を入力してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

暗号ボックスの登録時にボックス ID 番号を「0000」で登録しているときは、この時点で暗号ボックスからの出力が開始されます。次の手順 6 以降の操作を行う必要はありません。

暗号ボックスに原稿がないときは、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

入力したボックス番号が登録されていないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はボックス番号の入力画面に戻ります。

- 6 ボックス ID 番号（4桁）を入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと、入力した内容は「0000」にクリアされます。



- 7 [OK] キーを押してください。暗号ボックスからの出力が開始されます。

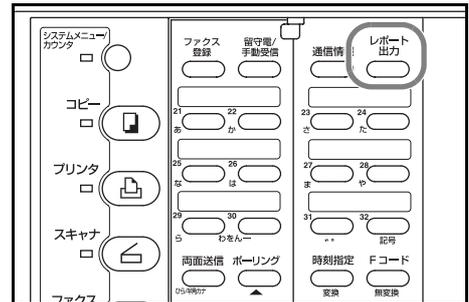
入力したボックス ID 番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示され、その後メッセージ表示はボックス ID 番号の入力画面に戻ります。正しい番号を入力しなさい。

暗号鍵リストの出力のしかた

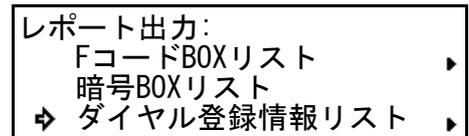
暗号通信時に使用される暗号鍵の登録内容は、暗号鍵リストを出力すれば確認できます。

- 参考
- このリストの出力には、暗証番号を入力する必要があります。入力されたパスワードがあらかじめ登録されているパスワードと一致しなければ、暗号鍵リストを出力することはできません。
 - 暗号鍵が何も登録されていない場合、暗号鍵リストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。

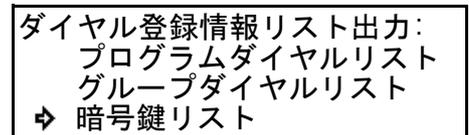


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤル登録情報リスト」を選択してください。



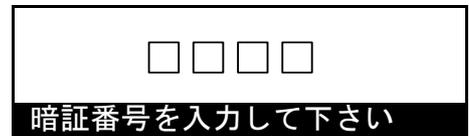
- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「暗号鍵リスト」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 テンキーを使って、暗証番号（4桁）を入力してください。



暗号鍵リストの出力が開始されます。

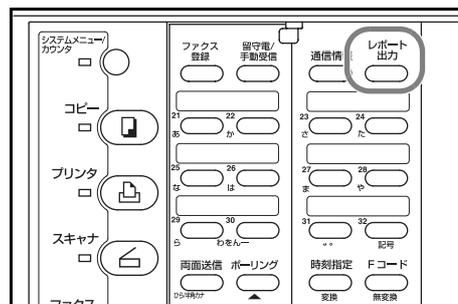
入力された番号が正しくないときは、エラーメッセージが表示されます。[OK] キーを押した後、もう一度入力しなおしてください。

暗号ボックスリストの出力のしかた

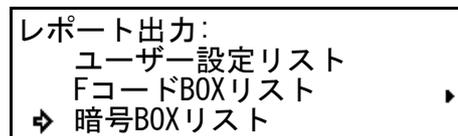
暗号ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、暗号ボックスリストを出力することによって確認できます。

- 参考
- 暗号ボックスが全く登録されていない場合、暗号ボックスリストは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[レポート出力] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「暗号 BOX リスト」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。暗号ボックスリストの出力が開始されます。メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

暗号ボックスが全く登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、機械は初期モードに戻ります。

部門ごとに使用を管理する（部門管理機能）

部門コードを入力してから送信や通信予約を行うことによって、最大 100 部門までのファクスの使用状況を各部門ごとに把握することができます。

部門管理の内容

項目	内容	参照
部門コードの登録	部門管理を行うときは部門コードを登録する必要があります。	応用編使用説明書
ファクス部門管理設定	部門管理を行うときは「設定する」に設定してください。	応用編使用説明書
ファクス送信制限	部門コードごとに送信できる原稿枚数を設定します。制限なしや使用不可に設定することもできます。	応用編使用説明書
送信カウンタの参照	部門別あるいは全部門の送信枚数の合計を表示し、参照できます。	応用編使用説明書
送信カウンタのクリア	送信原稿のカウンタをクリアできます。このときコピーの使用枚数もクリアされます。	応用編使用説明書
部門管理レポートの出力	部門管理の対象となる通信について、その送信の履歴を出力できます。	5-75 ページ

<部門管理の対象となる通信形態>

- 通常送信
- 時刻指定送信
- 順次同報送信
- Fコード中継同報指示送信
- ポーリング通信
- Fコード親展通信
- Fコード掲示板通信
- 暗号送信
- 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信 / 手動受信

<使用機能の制限>

部門管理機能では、一般の利用者が部門コードを、管理責任者が暗証番号を使用することによって、一般の利用者が使える機能に制限を与えることができます。

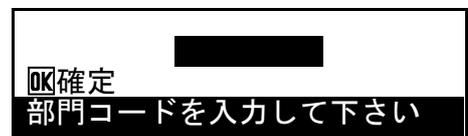
>部門コードを入力した場合に使用できる機能としては、次のものがあります。

- 通常送信
- 時刻指定通信
- 順次同報送信
- Fコード中継同報指示送信
- ポーリング通信
- Fコード親展送信
- Fコード掲示板受信
- Fコード親展ボックスへの入力
- Fコード親展ボックスからの出力
- 暗号送信
- 暗号ボックスからの出力
- メモリ編集機能
- 通信予約レポートの出力
- 部門管理レポートの出力
- 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信 / 手動受信

- ご注意
- ・ 「電話をかける」、「通信結果表示」、「通信管理レポート出力」は、部門コードや暗証番号の入力なしでも行うことができます。
 - ・ 部門管理モード設定時、一括送信機能は部門コードが同一のものについてのみ働きます。部門コードが異なる通信は一括送信されません。（1-20 ページの複数の原稿を一括で送信する（一括送信機能）参照）
 - ・ 部門管理レポートの出力設定が「ON」に設定されている場合、50 通信ごとに部門管理レポートが自動的に出力されます。（7-1 ページの各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）参照）
 - ・ 通常、発信元記録には自局名称が印字されますが、部門管理モード設定時に部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印字されます。ただし、暗証番号を入力して送信した場合は、自局名称が印字されます。

部門管理モードからファクスを使用するとき

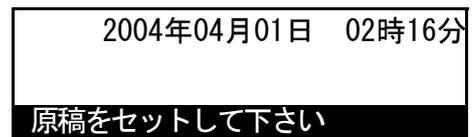
- 1 登録されている部門コードをテンキーで入力してください。



- 2 [OK] キーを押してください。

- 3 各操作を行ってください。

ファクス操作終了後、[部門管理] キーを押したり、オートクリア機能が働くと部門コードの入力画面に戻ります。



部門管理レポートの出力のしかた

部門コードを入力すると、入力された部門の通信についてレポートを出力することができます。また、暗証番号を入力すると全部門のレポートを出力したり、部門別のレポートを選択して出力することもできます。

- 参考
- 部門管理モード設定時以外は、このレポートは出力できません。
 - 部門管理の対象となる通信が全く行われていない場合、部門管理レポートは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

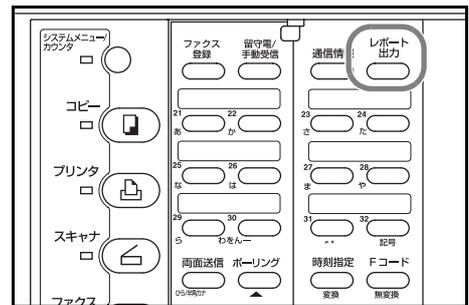
●部門コードを使用する場合

- 1 テンキーを使って部門コードを入力して、[OK] キーを押してください。

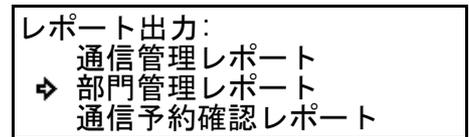
入力内容が正しければ、ファクスの初期メッセージが表示されます。



- 2 カバープレートをし、[レポート出力] キーを押してください。



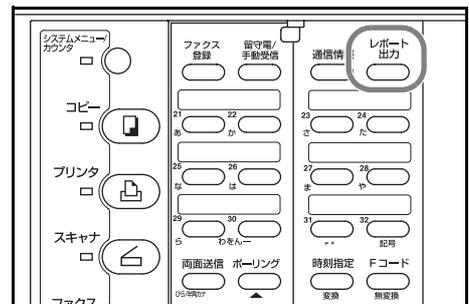
- 3 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「部門管理レポート」を選択してください。



- 4 [OK] キーを押してください。部門管理レポートが出力されます。出力が終わると部門コードの入力画面に戻ります。

●暗証番号を使用する場合

- 1 カバープレートをし、[レポート出力] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「部門管理レポート」を選択してください。

レポート出力：
通信管理レポート
➡ 部門管理レポート
通信予約確認レポート

- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 テンキーを使用して、暗証番号（4桁）を入力してください。

□ □ □ □

暗証番号を入力して下さい

- 5 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「全部門」を選択するか、各部門コード（部門名称）を選択してください。

部門管理レポート：
終了
➡ 全部門
12347643: 京都支店

- 6 [OK] キーを押してください。選択された「全部門」または各部門コード（部門名称）に*マークが付きます。複数の部門を選択する場合は手順5、6を繰り返してください。

- 7 [▲] キーを押して「終了」を選択し、[OK] キーを押してください。選択された部門管理レポートが出力されます。

部門管理レポート：
➡ 終了
全部門
*12347643: 京都支店

6 通信情報の管理

通信結果の内容を確認する（通信結果表示）

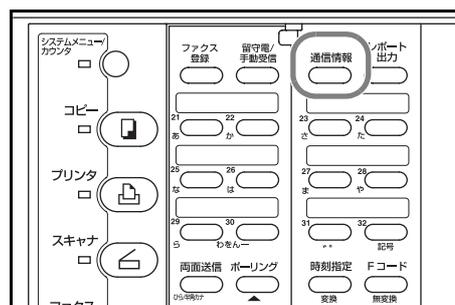
最近行われた通信の結果を知りたいとき、メッセージ表示で確認することができます。メッセージ表示には、送信／受信別にそれぞれ最大 50 件までの通信情報が表示されます。確認できる内容は、文書番号、通信日、通信時刻、通信先名、通信ページ数、通信種類、通信結果です。

送信結果表示のみかた

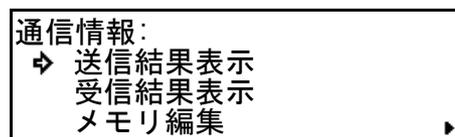
最近行われた送信の情報を最大 50 件までメッセージ表示で確認することができます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

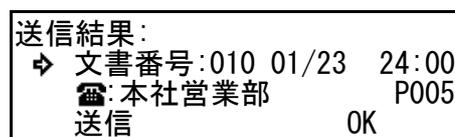
- 1 カバープレートを左にし、[通信情報] キーを押してください。



- 2 「送信結果表示」が選択されていることを確認し、[OK] キーを押してください。最新の送信文書の結果が表示されます。



- 3 [▼] キーを押すと、表示中のものより前に行われた送信の情報が、[▲] キーを押すと後に行われた送信情報が順次表示されます。



- 4 確認が終了したら、[OK] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

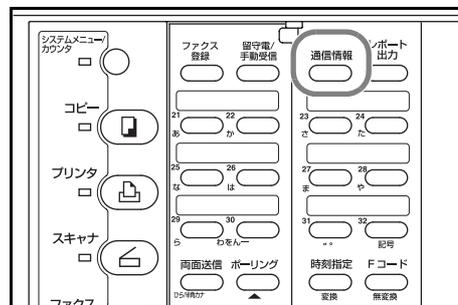
表示可能な一番古い送信の情報が表示されているときに [▼] キーを押すと、終了のメニューが表示されます。そのまま [OK] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

受信結果表示のみかた

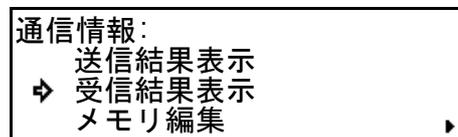
最近行われた受信の情報を最大 50 件までメッセージ表示で確認することができます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[通信情報] キーを押してください。

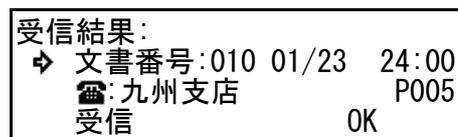


- 2 [▼] キーを押して「受信結果表示」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。最新の受信文書の結果が表示されます。

- 4 [▼] キーを押すと、表示中のものより前に行われた受信の情報が、[▲] キーを押すと後に行われた受信情報が順次表示されます。



- 5 確認が終了したら、[OK] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

表示可能な一番古い受信の情報が表示されているときに [▼] キーを押すと、終了のメニューが表示されます。そのまま [OK] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

通信管理レポートを出力する（管理レポートの出力）

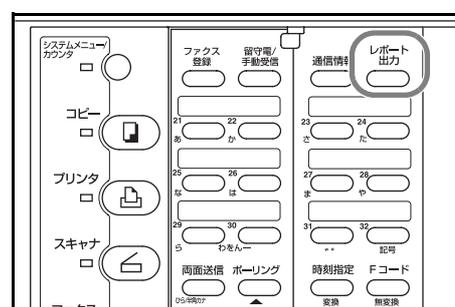
通信結果やファクス機能についての設定状況などがわかる管理レポート類（通信管理レポート、通信予約確認レポート、ユーザー設定リスト）の出力方法を説明しています。これらのレポートやリストは、いつでも出力させることができます。

通信管理レポートの出力のしかた

通信管理レポートを出力することにより、本機で行われた送信や受信の状況を確認することができます。送・受信を合わせて、最近通信が行われた 50 件までの情報が印字出力されます。

- 参考
- 通信が全く行われていない場合、通信管理レポートは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。



- 2 「通信管理レポート」が選択されていることを確認した後、[OK] キーを押してください。通信管理レポートの出力が開始されます。

メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

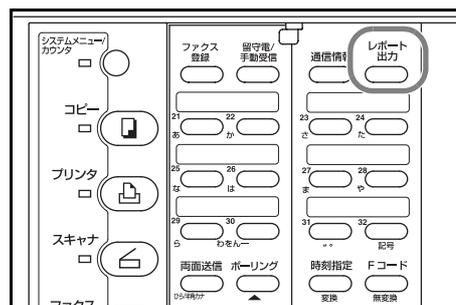
レポート出力:
 ➤ 通信管理レポート
 通信予約確認レポート
 ユーザー設定リスト

通信予約確認レポートの出力のしかた

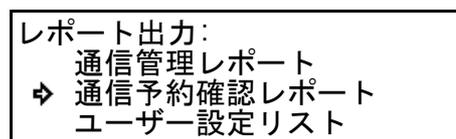
通信予約確認レポートを出力することにより、メモリー内で待機している送信や受信の状況を確認することができます。

- 参考
- 時刻指定した通信やポーリング送信待機原稿が全くない場合、通信予約確認レポートは出力されません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。



- [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「通信予約確認レポート」を選択してください。



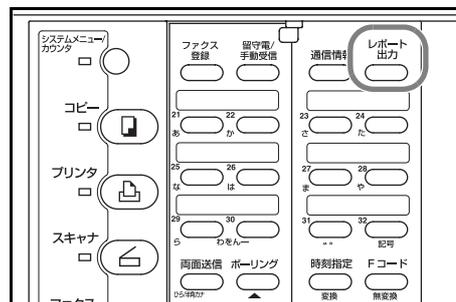
- [OK] キーを押してください。通信予約確認レポートの出力が開始されます。メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

ユーザー設定リストの出力のしかた

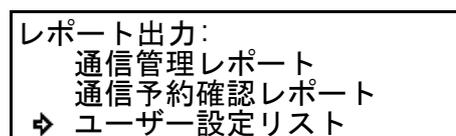
ユーザー設定リストを出力することにより、ユーザー自身が本機に設定した内容（電話回線種別等）や登録した内容（自局名称等）を確認することができます。

- 参考
- 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- カバープレートを左にし、[レポート出力] キーを押してください。



- [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「ユーザー設定リスト」を選択してください。



- [OK] キーを押してください。ユーザー設定リストの出力が開始されます。メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

7 各種設定と登録

各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）

送信や受信が正しく行われたかどうかや通信の予約内容を確認するために、6種類のレポートを出力できます。各レポートともそれぞれ自動出力させたり、自動出力を禁止したりすることができます。

<通信管理レポート>

一定回数の通信が行われた後にそれらの通信内容をレポートにして出力します。

<部門管理レポート>

部門管理の対象となる通信について、その通信状況を登録されている部門ごとにまとめてレポート出力します。

<送信結果レポート>

送信が行われた後、送信が正しく行われたかどうかをレポートにして出力します。

特定条件時（通信エラー、順次同報送信、時刻指定送信、暗号送信）のみ出力させることができます。

<受信結果レポート>

受信が行われた後、受信が正しく行われたかどうかをレポートにして出力します。

特定条件時（通信エラー、ポーリング受信、暗号受信、Fコード親展受信）のみ出力させることができます。

<タイマー予約レポート>

時刻指定をして通信予約を行った後にその予約内容をレポートにして出力します。

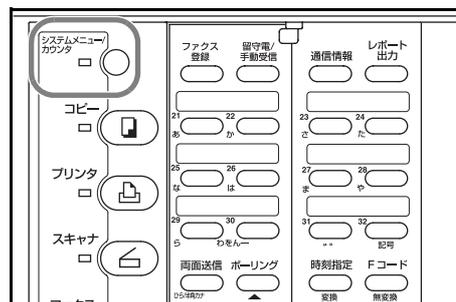
<NW-FAX送信レポート>

ネットワークスキャナ（オプション）を装着し、NW-FAX送信をした後、送信が正しく行われたかどうかをEメールに添付して送信します。

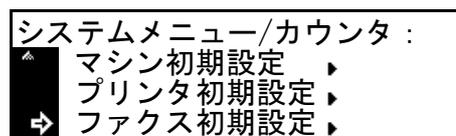
特定条件時（通信エラー、順次同報送信、時刻指定送信）のみ送信させることができます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

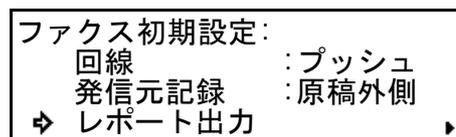


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

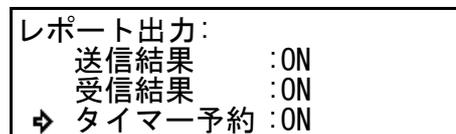
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、「レポート出力」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、設定を行うレポートを選択してください。

ここでは、例としてタイマー予約レポートを選択します。



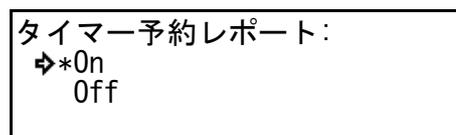
- 7 [OK] キーを押してください。

- 8 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、そのレポートを自動で出力するかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

自動出力するときは、「On」を選択してください。

手順6で「送信結果」、「受信結果」、「NW-FAX 送信結果」を選択したときは、「特定条件時のみ出力」が選択できます。左記の特定条件時のみ出力します。



- 9 [OK] キーを押してください。そのレポートの出力設定が終了します。

>引き続き他のレポートの出力設定を行うときは、手順6～9を繰り返してください。

>他項目の設定を行うときは、「終了」を選択した後、[OK] キーを押してください。

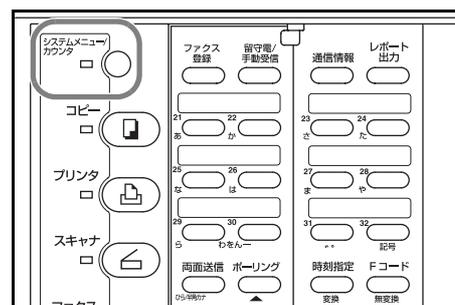
>設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

掲示板機能の設定をする（掲示板設定）

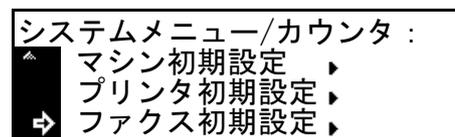
掲示板機能を使用すると、同じ原稿をポーリング受信したいとの要求が複数の相手先からあった場合でも、一度メモリからのポーリング送信の準備をするだけで、それらの相手先への送信が可能になります。掲示板機能を使用するためには、あらかじめ設定を行う必要があります。（5-10 ページの**ポーリング送信のしかた**参照）

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

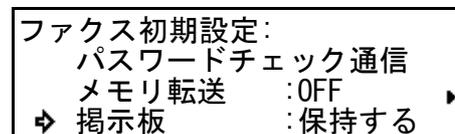


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

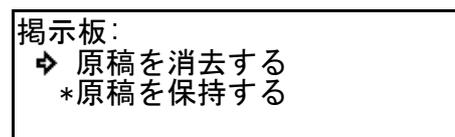
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「掲示板」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、掲示板機能を選択してください。メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

掲示板機能を使用するときは、「原稿を保持する」を選択してください。ポーリング送信後、原稿は消去されずに再び待機中の状態で保持されます。「原稿を消去する」を選択したときはメモリ内の原稿は消去されます。



- 7 [OK] キーを押してください。掲示板設定が終了します。

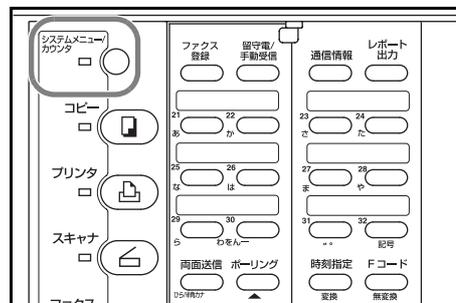
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

呼び出しベルの回数を設定する（ファクス専用自動受信）

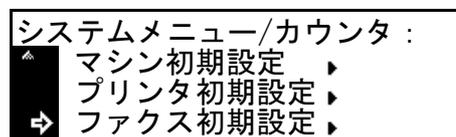
本機の受信モードがFAX専用自動受信に設定されているときに、相手先からの呼出しに対して応答するまでの呼出回数を1～15回の範囲内で設定することができます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー]キーを押してください。

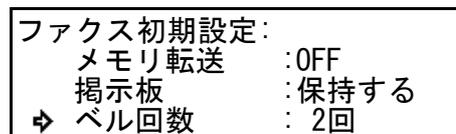


- 2 [▼]キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK]キーを押してください。

- 4 [▲]キーまたは[▼]キーを押して「ベル回数」を選択してください。



- 5 [OK]キーを押してください。

- 6 [▲]キーまたは[▼]キーを押して、呼出回数を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



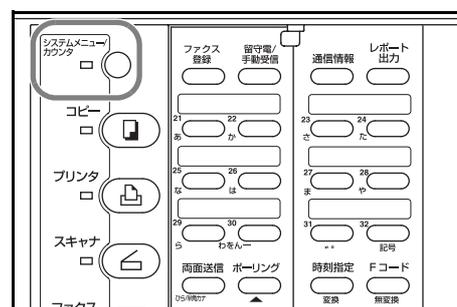
- 7 [OK]キーを押してください。FAX専用自動受信モードの呼出回数設定が終了します。設定を終了するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

呼び出しベルの回数を設定する（FAX/ 留守番電話自動切替受信）

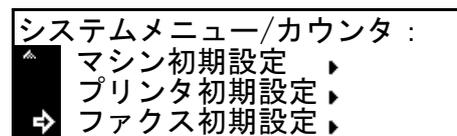
市販の留守番機能付電話機を併用する場合の FAX/ 留守番電話自動切替受信モードで、留守番機能が使われないときにファクスに着信するまでの呼出回数を 1～15 回の範囲内で設定することができます。相手先からファクス原稿が送られてくると、ここで設定した回数だけ呼出しが行われた後、ファクスの受信に切り替わります。（5-3 ページのファクスと留守番電話を自動で切り替える（FAX/ 留守番電話自動切替受信）参照）

- 参考
- 呼出回数は電話機側で設定された呼出回数より多く設定してください。ご使用になれる電話機が呼出回数を設定できない場合には、本機側の呼出回数を 15 回に設定してください。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

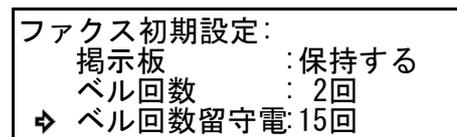


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

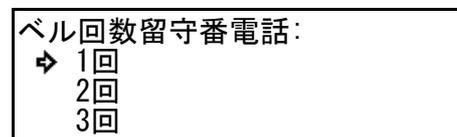
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ベル回数留守電」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、呼出回数を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。FAX/ 留守番電話自動切替受信モードの呼出回数設定が終了します。

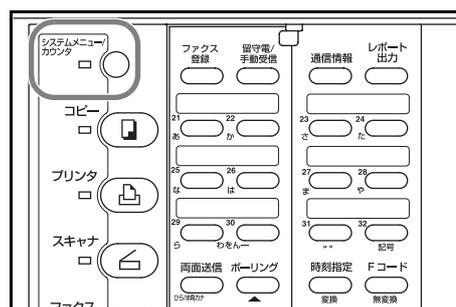
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

呼び出しベルの回数を設定する（FAX/TEL 自動切替受信）

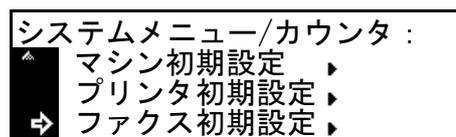
オプションのハンドセットや市販の電話機を接続して使用する場合の FAX/TEL 自動切替受信モードで、ファクスで着信するまでの呼出回数を 0 ～ 15 回の範囲内で設定することができます。相手先からファクス原稿が送られてくると、ここで設定した回数だけ呼出しが行われた後、ファクスの受信に切り替わります。相手先が電話であれば再度呼出音が鳴ります。（5-1 ページのファクスと電話を自動で切り替える（FAX/TEL 自動切替受信）参照）

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

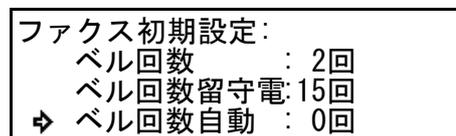


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

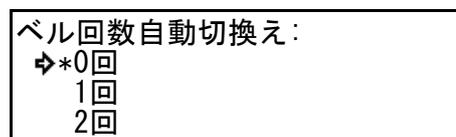
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ベル回数自動」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、呼出回数を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



「0回」を選択した場合、相手先からの呼出しに対してすぐに応答します。

- 7 [OK] キーを押してください。FAX/TEL 自動切替受信モードの呼出回数設定が終了します。

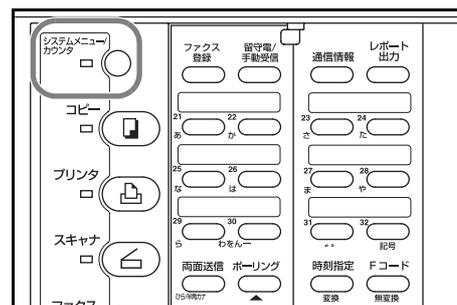
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

相手先の名称を確認してダイヤルする（ダイヤル確認設定）

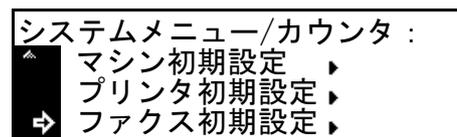
ダイヤル確認設定を「On」にすると、ワンタッチキーを使うダイヤル（ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル）使用時に相手先などの確認のメッセージが表示されます。相手先へのダイヤルが開始されるまでにメッセージ表示で一度確認することができるので、原稿を送ってはいけない相手先に誤って送信するのを未然に防ぐことができます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

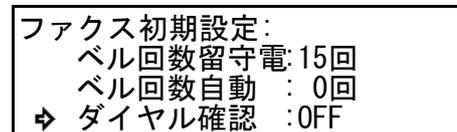


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

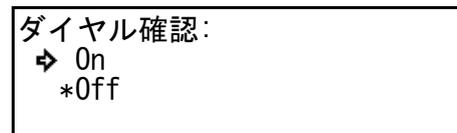
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ダイヤル確認」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、ダイヤル確認を行うかどうか選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。ダイヤル確認設定が終了します。

設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

スピーカの音量を調節する（音量調整）

本機から聞こえるブザー音、モニタ音、スピーカ音のボリュームは調整することができます。必要がなければ音を鳴らさなくすることもできます。

<ブザー音量調整>

通信エラー発生時になるエラー音、操作パネルのキーを押したときになるキー音の音量を調整します。

<モニタ音量調整>

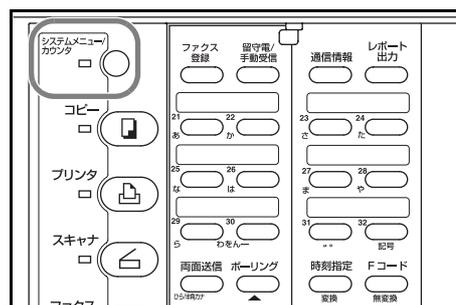
[オンフック] キーを使わずにオフフック状態になったときに、内蔵スピーカから聞こえる音量を調整します。

<スピーカ音量調整>

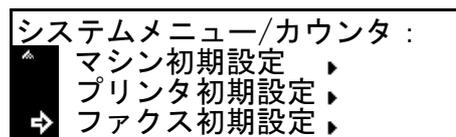
[オンフック] キーを押してオフフック状態になったときに、内蔵スピーカから聞こえる音量を調整します。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

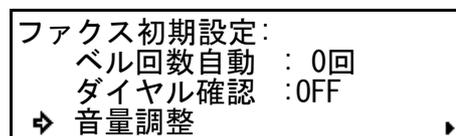


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「音量調整」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、音量を調整する項目を選択してください。

> 「ブザー音量」を選択したとき

- (1) [OK] キーを押してください。
- (2) [▲] キーまたは [▼] キーを押して、音量を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

ブザー音量:

⇒ OFF
*小
大

ブザー音量は「OFF」、「小」、「大」の中から選択できます。「OFF」を選択すると、音が聞こえなくなります。

> 「モニター音量」を選択したとき

- (1) [OK] キーを押してください。
- (2) [▲] キーまたは [▼] キーを押して、音量を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

モニター音量:

⇒ OFF
小
*中

モニター音量は「OFF」、「小」、「中」、「大」の中から選択できます。「OFF」を選択すると、音が聞こえなくなります。

> 「スピーカー音量」を選択したとき

- (1) [OK] キーを押してください。
- (2) [▲] キーまたは [▼] キーを押して、音量を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

スピーカー音量:

⇒ OFF
*小
中

ブザー音量は「OFF」、「小」、「中」、「大」の中から選択できます。「OFF」を選択すると、音が聞こえなくなります。

- 7 [OK] キーを押してください。メッセージ表示は音量調整メニューに戻ります。

> 他項目の設定を行うときは、「終了」を選択した後、[OK] キーを押してください。

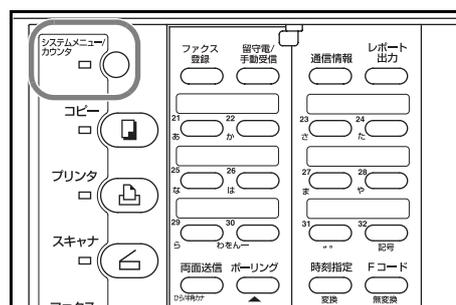
> 設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読込設定）

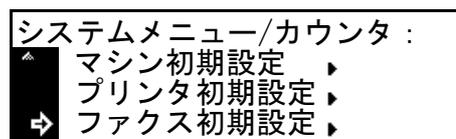
原稿を原稿送り装置から読み込むとき、A4サイズなどの定形サイズとして読み込むか、長尺原稿（給紙される方向に長い原稿）として読み込むかのどちらかを事前に設定しておくことができます。

- 参考
- 両面原稿を送信するためには、「定形原稿」を選択しておく必要があります。（3-1ページの両面原稿を送信する（両面送信）参照）
 - 「長尺原稿」を選択した場合、回転送信は行われません。（1-20ページの原稿を回転して送信する（回転送信機能）参照）
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

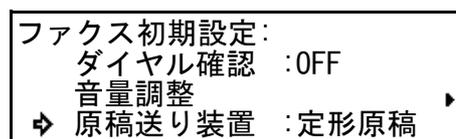


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

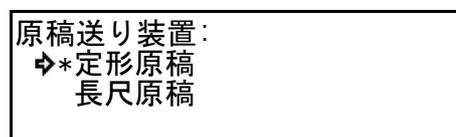
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「原稿送り装置」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、設定する原稿の形態を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。原稿送り装置読込設定が終了します。

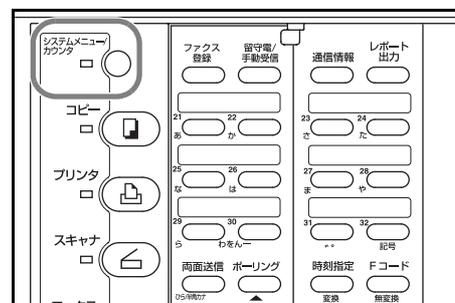
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

送信方法の初期値を設定する（送信モードの初期値設定）

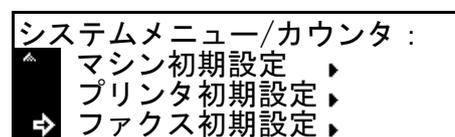
初期モードで選択される送信モードをメモリー送信、ダイレクト送信のうちから選択できます。ここでダイレクト送信を選択すると、ダイレクト送信表示が点灯します。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

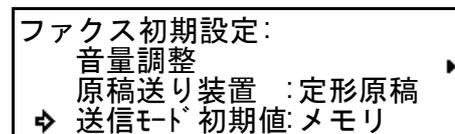


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

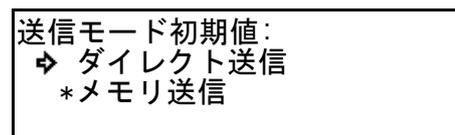
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「送信モード初期値」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、送信モードを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。送信モードの初期設定が終了します。

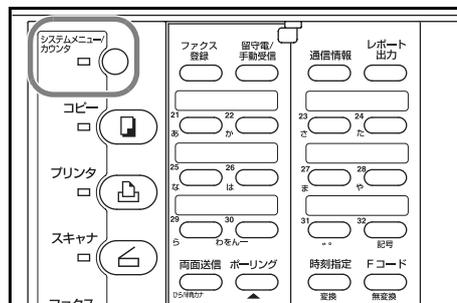
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

受信方法を設定する（受信モード設定）

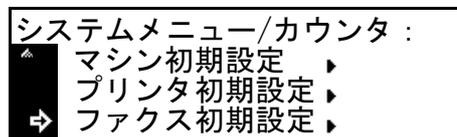
“自動受信”には2つの受信モードがあります。初期モードで選択される受信モードをFAX専用自動受信または、FAX/TEL自動切替受信のうちから選択してください。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー]キーを押してください。

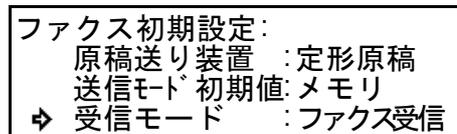


- 2 [▼]キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK]キーを押してください。

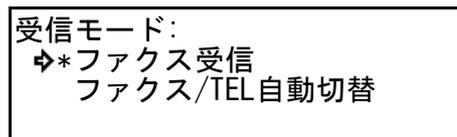
- 4 [▲]キーまたは[▼]キーを押して「受信モード」を選択してください。



- 5 [OK]キーを押してください。

- 6 [▲]キーまたは[▼]キーを押して、受信モードを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK]キーを押してください。受信モード設定が終了します。

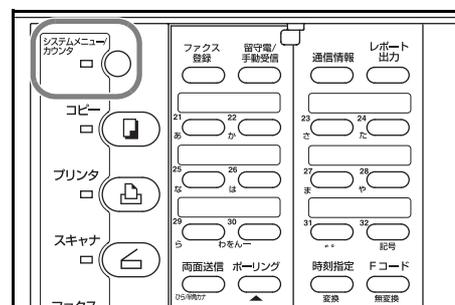
設定を終了するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

受信した日時の記録方法を設定する（受信日時記録設定）

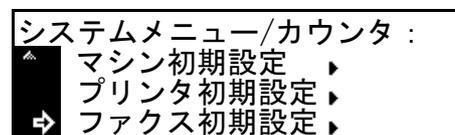
受信日時記録は、受信原稿が出力されるときに、各ページの先頭に受信した日時、相手先の情報、ページ数を本機側で付加し印字する機能です。この機能を使うと、時差がある地域から原稿を受信したときに、こちら側の時間で受信した日時を見ることができるので非常に便利です。受信日時記録を印字するためには、事前に設定しておく必要があります。

- 参考
- 受信原稿が複数ページに分割出力される場合は、最初の1ページのみに受信日時記録が印字され、2ページ目以降には印字されません。
 - メモリ転送設定時、転送先で出力される受信原稿には受信日時記録は印字されませんが、設定回数リダイヤルが行われたにもかかわらず、正常に転送されなかった場合、自機で出力される原稿には印字されます。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

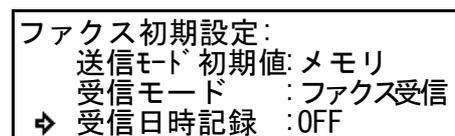


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

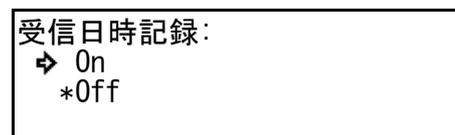
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「受信日時記録」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、受信日時記録を印字するかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



受信日時記録を印字するときは、「On」を選択してください。

- 7 [OK] キーを押してください。受信日時記録設定が終了します。

設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

使用する用紙を設定する（ファクス給紙設定）

ファクスモードでは、受信した原稿を印字出力するときや、レポート/リスト類を出力するときの用紙の給紙モードとして、自動給紙、サイズ固定、カセット段固定の3つのモードがあります。給紙モードは、これらの3つの中から選択することができます。

参考 メモリ内に原稿が蓄積（記憶）されている場合、ファクス給紙設定を変更することはできません。

< 自動給紙モード >

機械が自動で用紙を選択し給紙するモードです。

< サイズ固定モード >

受信サイズを指定し、その指定したサイズの用紙がセットされているカセットから出力するモードです。指定したサイズがセットされていない場合には代行受信が行われません。

複数の用紙サイズの設定はできません。

指定したサイズの用紙が2ヶ所以上にセットされている場合は、上段にあるカセットから優先して出力を行います。

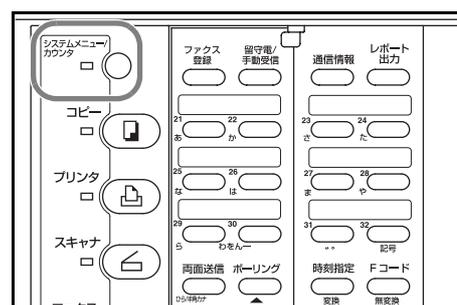
< カセット段固定モード >

受信サイズに関係なく指定されたカセットから出力するモードです。指定したカセットに用紙がセットされていないときは、代行受信が行われます。

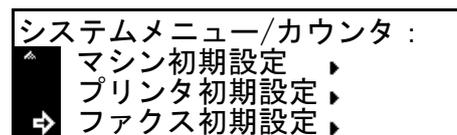
複数のカセット段の設定はできません。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。



- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ファクス給紙」を選択してください。

ファクス初期設定:
受信モード : ファクス受信
受信日時記録 : OFF
◆ ファクス給紙 : 自動選択

- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、給紙モードを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

ファクス給紙:
◆ *自動選択
サイズ固定 ▶
カセット段固定 ▶

> 「自動選択」を選択したとき

手順7へ進んでください。

> 「サイズ固定」を選択したとき

- (1) [OK] キーを押してください。
- (2) [▲] キーまたは [▼] キーを押して、指定する用紙のサイズを選択してください。

サイズ固定:
◆ A3 <input type="checkbox"/>
B4 <input type="checkbox"/>
A4 <input type="checkbox"/>

> 「カセット段固定」を選択したとき

- (1) [OK] キーを押してください。
- (2) [▲] キーまたは [▼] キーを押して、指定するカセット段を選択してください。

カセットが装着されていなければ、使用不可を知らせるメッセージが表示され、選択できません。

カセット段固定:
◆ 1段目
2段目
3段目

- 7 [OK] キーを押してください。ファクス給紙設定が終了します。

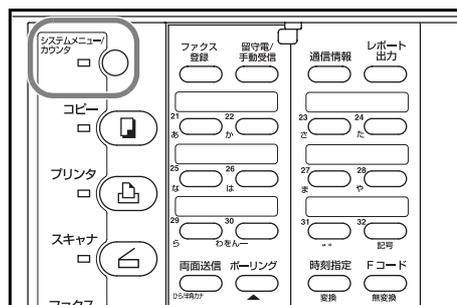
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

2枚の原稿を1枚にまとめて受信する（2 in 1 受信設定）

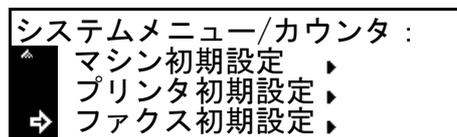
2 in 1 受信は、A5 サイズの連続した受信原稿 2 ページを A4 サイズの用紙 1 枚に印字出力させる機能です。2 in 1 受信を行うためには、事前に設定しておく必要があります。

- 参考
- 2 in 1 受信と両面受信を併用することはできません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

1 [システムメニュー] キーを押してください。

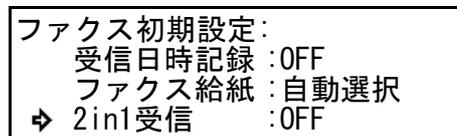


2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



3 [OK] キーを押してください。

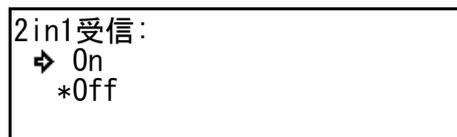
4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「2 in 1 受信」を選択してください。



5 [OK] キーを押してください。

6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、2 in 1 受信を行うかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



2 in 1 受信を行うときは、「On」を選択してください。

7 [OK] キーを押してください。2 in 1 受信設定が終了します。

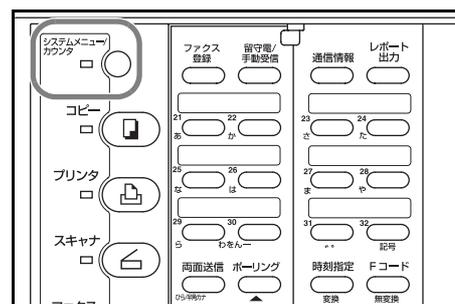
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

ファクス通信網を使用して受信する（F ネット無鳴動受信設定）

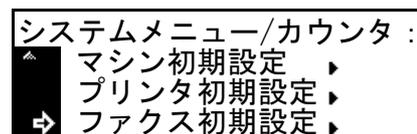
この設定は初期値が OFF になっていますので、F ネット無鳴動受信を行なう場合は設定を変更してください。

- 参考
- F ネット無鳴動受信に関しては、1-22 ページの NTT の F ネットを使用する（F ネット無鳴動受信機能）を参照してください。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

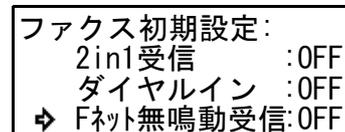


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「F ネット無鳴動受信」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、F ネット無鳴動受信を行うかどうか選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。F ネット無鳴動受信設定が終了します。

設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

宛先帳のタグを選択する（宛先帳タグ設定）

宛先帳（2-34 ページ参照）で使用する宛先帳タグは、「かな」と「数字」の2種類のうちのどちらかを選ぶことができます。

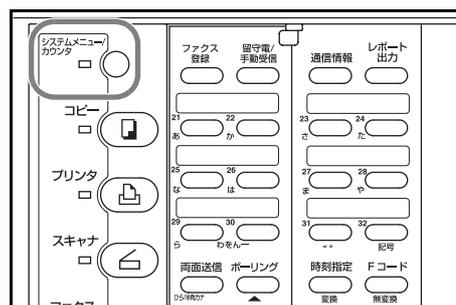
「かな」と「数字」それぞれの場合に使えるタグは次の通りです。

「かな」：あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わ、英数字

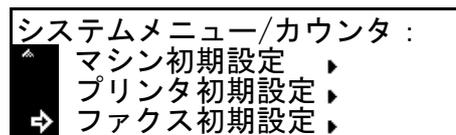
「数字」：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

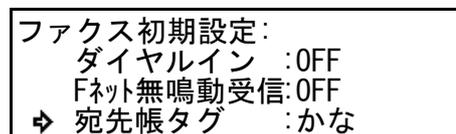


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

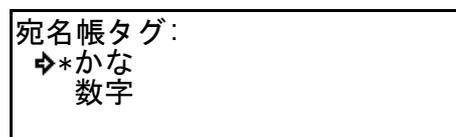
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「宛先帳タグ」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、宛先帳タグの種類を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。宛先帳タグ設定が終了します。

設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

年月日の表示のしかたを設定する（年月日表示設定）

メッセージ表示、各種レポートの先頭および発信元記録における年、月、日の表示あるいは記録方法を設定します。「漢字」、「アルファベット」、「数字」から選択することができます。

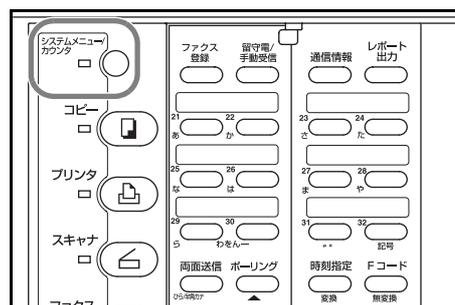
【例】「漢字」：2004年07月08日 12時00分

「アルファベット」：2004 - JUL - 08 12:00

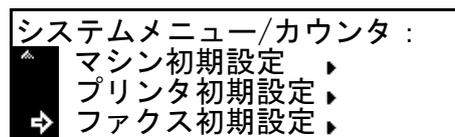
「数字」：2004 - 07 - 08 12:00

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

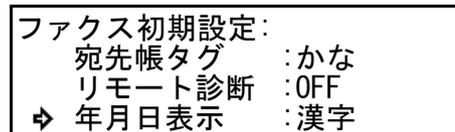


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

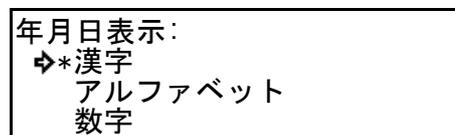
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「年月日表示」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、表示方法を選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。年月日表示設定が終了します。

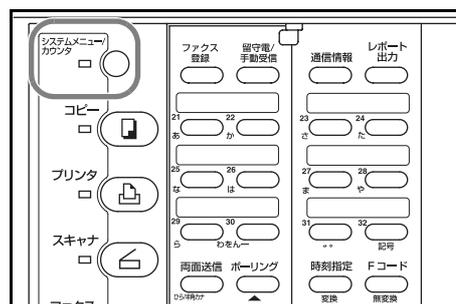
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

サービスセンターから通信で機械を診断する（リモート診断設定）

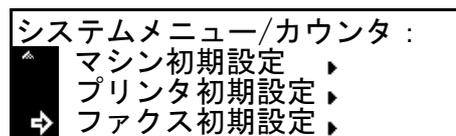
本機で問題が発生したときにサービス実施店等に連絡をいただくと、弊社サービスセンターのコンピュータから電話回線を介して機械にアクセスし、その状況や問題点などを確認することができます。

- 参考
- リモート診断機能を使用するときは、あらかじめサービス実施店と契約の上、決められた個別 ID を本機に登録する必要があります。詳しくは弊社サービス実施店またはお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。（7-21 ページのリモート診断のための ID を登録する（個別 ID 登録）参照）
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

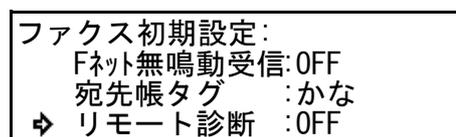


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



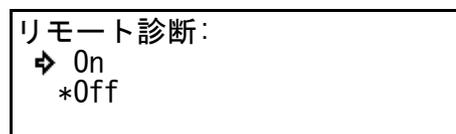
- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「リモート診断」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、リモート診断機能を使用するかどうかを選択してください。



メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

リモート診断機能を使うときは、「On」を選択してください。

- 7 [OK] キーを押してください。リモート診断設定が終了します。

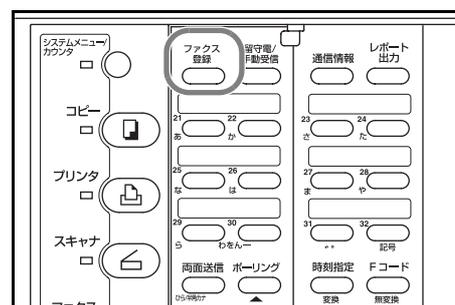
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

リモート診断のための ID を登録する（個別 ID 登録）

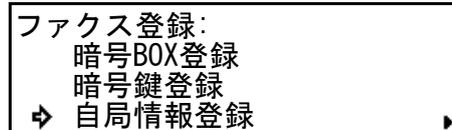
本機でリモート診断サービスを受けるときは、サービス実施店から指定された個別 ID を登録する必要があります。

- 参考
- 登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。
 - 特に登録をしなくても、初期値（0000）でリモート診断サービスを受けることができます。
 - リモート診断を行うためには、7-20 ページのサービスセンターから通信で機械を診断する（リモート診断設定）で「ON」を選択する必要があります。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートを左にして、[ファクス登録] キーを押してください。

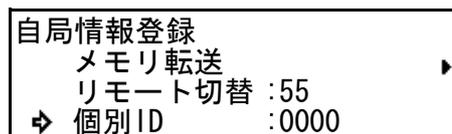


- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「自局情報登録」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「個別 ID」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 テンキーを使って、個別 ID として登録する番号を 4 桁の数字で入力してください。

[ストップ/クリア] キーを押すと入力した内容は「0000」にクリアされます。



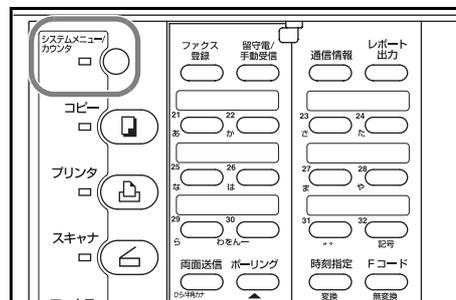
- 7 [OK] キーを押してください。個別 ID の登録が終了します。

登録を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

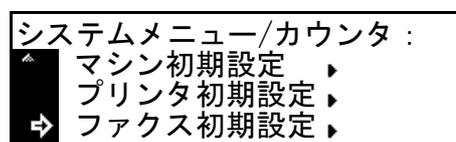
受信サイズを等倍、縮小から選択する（受信サイズ設定）

ファクス給紙設定で「自動選択」が選択されているとき、セットされている用紙サイズより受信原稿サイズの方が大きい場合、等倍を優先して複数の用紙で受信するか、縮小を優先してできるだけ1枚の用紙で受信するか選択できます。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

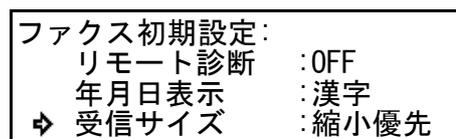


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

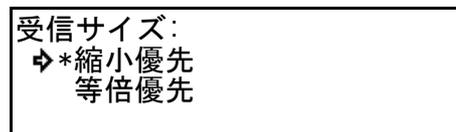
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「受信サイズ」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して等倍を優先するか、縮小を優先するか選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。受信サイズ設定が終了します。

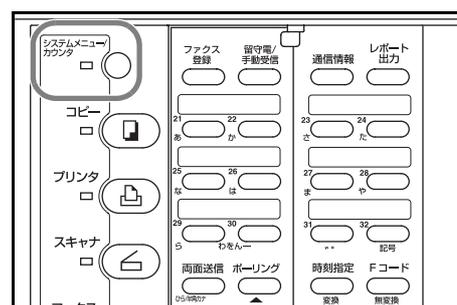
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

受信原稿を一括で出力する（ファクス受信一括出力設定）

この設定を「On」にすると、送信されてくる画像データを蓄積し一括して出力します。受信と出力を別々に一括して行うため、受信中にコピーなどをすることができます。

- 参考
- この設定を「On」に設定していても、画像データを蓄積するメモリが少ない場合は、自動的に一枚ずつの出力に変わります。
 - この設定を「On」に設定していても、両面受信、メモリ転送が「On」状態、または代行受信中であれば、そちらの機能を優先します。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。



- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。

システムメニュー/カウンタ：
 ▲ マシン初期設定 ▶
 ▼ プリンタ初期設定 ▶
 ⇨ ファクス初期設定 ▶

- 3 [OK] キーを押してください。

- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ファクス受信一括」を選択してください。

ファクス初期設定：
 ▲ 年月日表示 : 漢字
 ▼ 受信サイズ : 縮小優先
 ⇨ ▼ ファクス一括受信 : OFF

- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、ファクス受信一括出力を行うかどうか選択してください。
 メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。

ファクス一括受信：
 ⇨ *On
 Off

- 7 [OK] キーを押してください。ファクス受信一括出力が終了します。

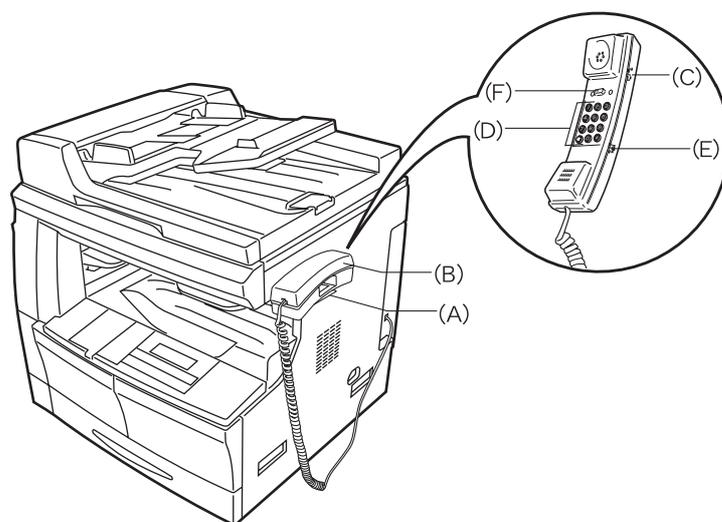
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

8 オプション

ハンドセット

オプションのハンドセットを取り付けると、電話で会話ができるようになります。また、手動での送信や受信も行えるようになります。

各部の名称とはたらき



- (A) ハンドセット台—ハンドセットをセットしておくための台です。
- (B) ハンドセット—電話をするときや手動送受信を行うときに使用します。
- (C) 回線種別切替スイッチ—電話回線はダイヤル方法の種別によりダイヤル（パルス）回線の 10PPS または 20PPS と、プッシュ（トーン）回線の 3 種類に分かれます。ご利用になられる電話回線の種別に合わせて選択してください。
もし回線種別を誤って選択すると、電話をかけた後原稿を送信したりすることができなくなりますので注意してください。
- (D) ダイヤルボタン—電話をかけるときに相手先の電話番号を入力するために使用します。
- (E) 呼出音量調節スイッチ—“H” 側にすると音量は大きくなり、“L” 側にすると音量は小さくなります。“OFF” 側にすると呼出音は鳴りません。
- (F) フックボタン—回線を切るときや、ダイヤルをもう一度やりなおすときに押してください。

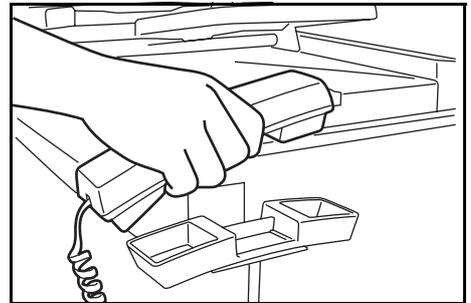
電話のかけかた

電話をかけるときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。電話の受けかたは、3-23 ページの手動で受信する（手動受信）を参照してください。

- 1 電話をかける前に、送信や受信が行われていないことを確認してください。
送・受信が行われていないときは、通信中表示が消灯しています。

- 2 ハンドセットを上げるか、【オンフック】キーを押して【オンフック】表示を点灯させてください。

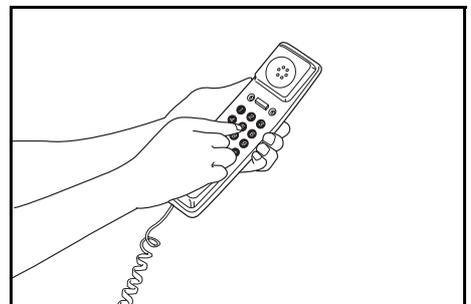
【オンフック】表示が点灯すると、音声は機械本体側のスピーカーから聞こえます。



- 3 ハンドセットのダイヤルボタンまたは本体操作パネルのテンキーを使って相手先の番号を入力してください。

本体の短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、宛先帳機能も使用できます。

チェーンダイヤルも併用できます。



- 4 相手先が応答したら会話をしてください。

手順2で【オンフック】キーを押しているときは、話し声が本体側のスピーカーから聞こえます。

ハンドセットを上げると【オンフック】表示が消灯し、相手と電話で話ができるようになります。



- 5 会話が終わったら、ハンドセットをハンドセット台に置いてください。

両面ユニット

オプションの両面ユニットを装着すると、機内で用紙を反転させ、用紙の表裏に印字する“両面受信”ができるようになります。受信した複数ページ原稿の幅が全て同じであるとき、原稿サイズと同幅の用紙に両面で印字出力を行います。

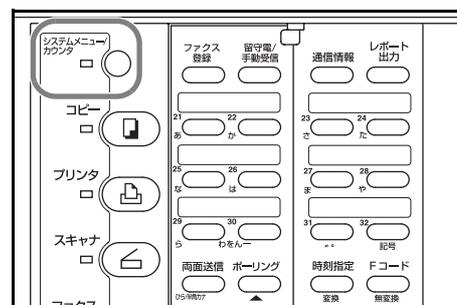
- 参考
- 両面受信するためには両面受信設定で「On」が設定されている必要があります。
 - 両面受信設定が「On」になっているときは、受信モードに関わらず、すべての原稿を一度メモリに蓄積（記憶）してから、一括して印字出力を行います。

2枚の受信原稿を両面に記録する（両面受信設定）

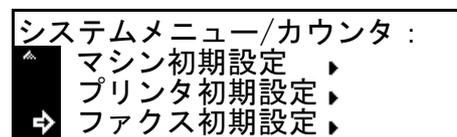
両面機を使用している場合、受信した原稿を用紙の表裏に印字することができます。両面受信する場合は事前に設定しておく必要があります。

- 参考
- 両面受信と2 in 1受信は併用することはできません。
 - 操作を途中で中止するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー]キーを押してください。

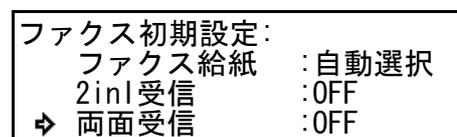


- 2 [▼]キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK]キーを押してください。

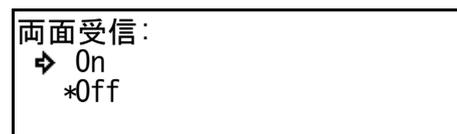
- 4 [▲]キーまたは[▼]キーを押して「両面受信」を選択してください。



- 5 [OK]キーを押してください。

- 6 [▲]キーまたは[▼]キーを押して、両面で受信するかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



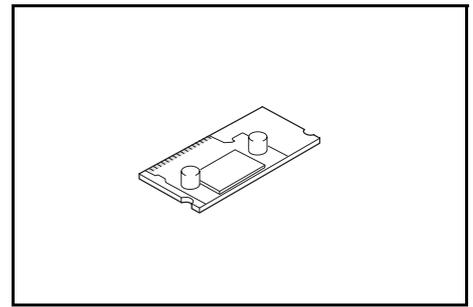
両面受信を行うときは「On」を選択してください。

- 7 [OK]キーを押してください。両面受信設定が終了します。

設定を終了するときは、[リセット]キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

オプションメモリ

オプションメモリは 32MB でビットマップ展開用メモリが増加し、ウルトラファインモードでの送信／受信が可能になります。また、メモリに蓄積できる受信／送信原稿のページ数を増やすことができます。



9 Network FAX 設定（オプション）

この章ではネットワークスキャナ（オプション）を使用して Network FAX 機能、とくにセットアップ方法および本体での各種設定方法について説明しています。設定を行う場合には、接続するコンピュータ（以下 PC と記述します）の環境によって、設定すべき内容に差異がありますので、必要な部分をお読みいただき、正しい設定を行ってください。付属の CD-ROM に納められている使用説明書 機能編（オンラインマニュアル）とあわせてお読みください。これには、Network FAX 機能を使用した送受信のしかたや各種設定方法など PC からの操作方法について説明しています。

使用説明書 機能編（オンラインマニュアル）について

使用説明書 機能編（オンラインマニュアル）は PDF（Portable Document Format）形式で付属の CD-ROM に収録されています。

使用説明書 機能編（オンラインマニュアル）には Network FAX 機能を使用するためのアプリケーションの使用方法が説明されています。主な内容は以下の通りです。

- 各種アプリケーションのインストールのしかた
- 各種設定のしかた
- Network FAX 送信のしかた
- Network FAX 受信のしかた
- アドレス帳の使用のしかた
- アドレス編集のしかた

オンラインマニュアルの開き方

オンラインマニュアルを参照するときは以下の手順で行ってください。

- 1 付属のネットワーク FAX ライブラリの CD-ROM を PC の CD-ROM ドライブに入れてください。自動でセットアップ用のメインメニュー画面が表示されます。
- 2 メインメニュー画面で【ドキュメント】をクリックしてオンラインマニュアルを開いてください。

オンラインマニュアルをご覧になるには Adobe Acrobat Reader 5.01 以上がインストールされている必要があります。システムにインストールされていないときは、付属の CD-ROM からインストールしてください。

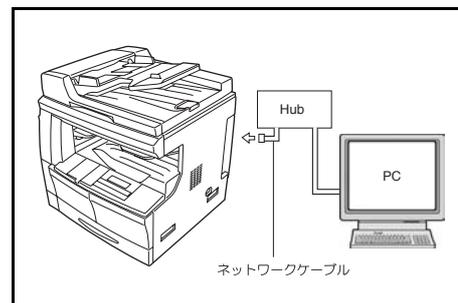
セットアップの方法

Network FAX 機能を使用するには以下のセットアップが必要です。

(1) 本体とコンピュータを接続する

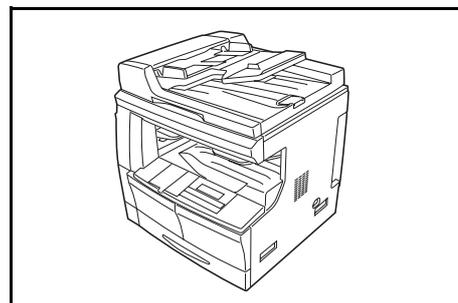
本体にネットワークケーブル
(100BASE-TX、10BASE-T) を接続します。

→ 9-3 ページ参照



(2) 機械本体の操作

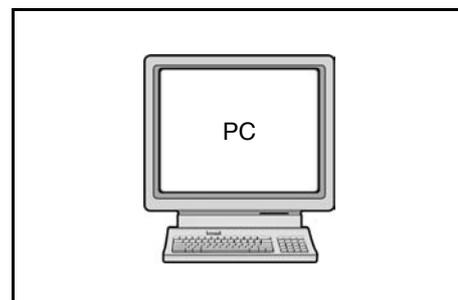
本体での基本設定 (Network FAX 受信設定、送信原稿保存設定、ファイル形式設定) を行ってください。 → 9-4 ~ 9-6 ページ



(3) コンピュータの操作

各種専用ソフトのインストール (同梱 CD-ROM に収録)、及び各種設定

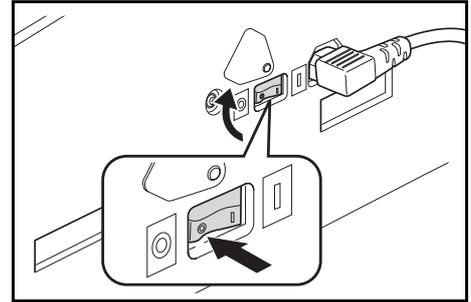
→ 使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル) 参照



セットアップ完了

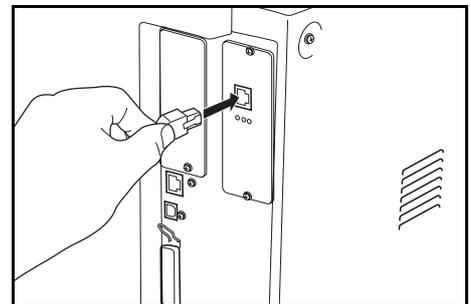
本体とコンピュータの接続

- 1 本体のメインスイッチを OFF (○) にしてください。

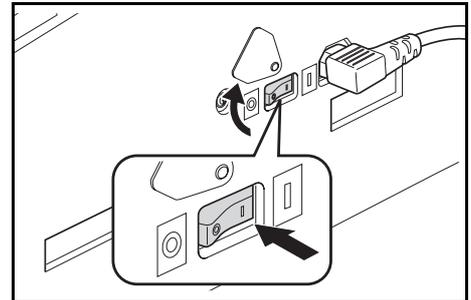


ご注意 ネットワークケーブルを接続する際は、必ず本機の電源を OFF にしてから接続してください。

- 2 本体のスキナインタフェースコネクタにイーサケーブル 10BASE-T または 100BASE-TX のコネクタを接続してください。



- 3 本機のメインスイッチを ON (|) にしてください。



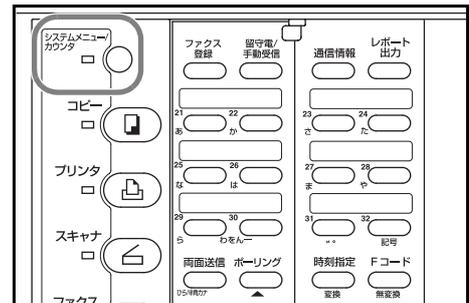
本体での初期設定

Network FAX 受信設定のしかた

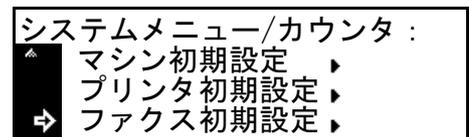
Network FAX 受信を行うときはこの設定を ON にしてください。また、受信した原稿を本体で出力させることもできます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

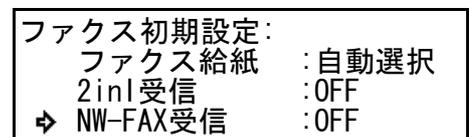


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

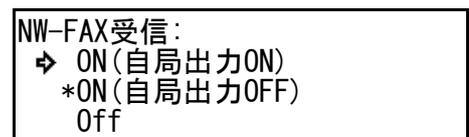
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「NW-FAX 受信」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、Network FAX 受信するかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



「ON (自局出力 ON)」は受信した原稿を本機で出力し、指定のフォルダにも保存されます。「ON (自局出力 OFF)」は受信した原稿を本機で出力せず、指定のフォルダに保存されます。

- 7 [OK] キーを押してください。Network FAX 受信設定が終了します。

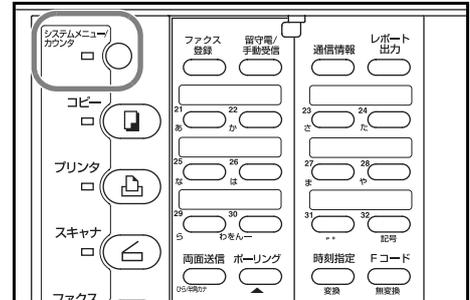
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

送信原稿保存設定のしかた

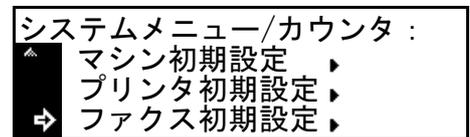
送信した原稿をサーバー PC (付属の Scanner File Utility がインストールされた PC) で保存するかどうか設定できます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

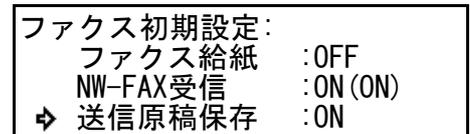


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

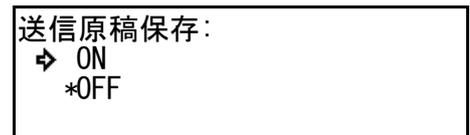
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「送信原稿保存」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、原稿を保存するかどうかを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。送信原稿保存設定が終了します。

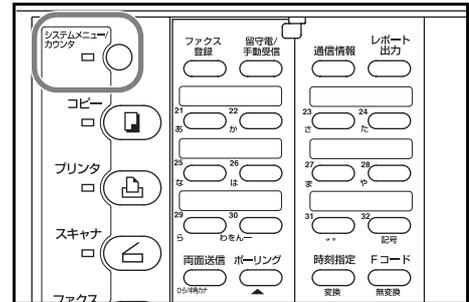
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

ファイル形式設定のしかた

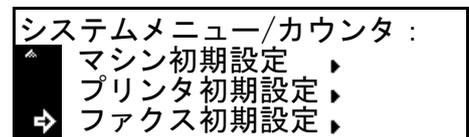
サーバー PC (付属の Scanner File Utility がインストールされている PC) で保存される送信した原稿、または受信された原稿のファイル形式を設定します。PDF ファイルまたは TIFF ファイルのどちらかを設定できます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 [システムメニュー] キーを押してください。

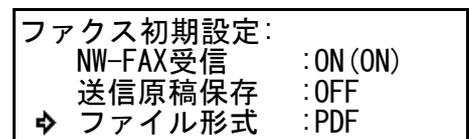


- 2 [▼] キーを押して、「ファクス初期設定」を選択してください。



- 3 [OK] キーを押してください。

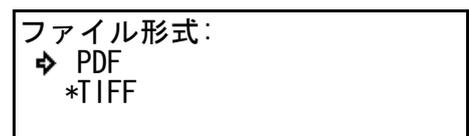
- 4 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「ファイル形式」を選択してください。



- 5 [OK] キーを押してください。

- 6 [▲] キーまたは [▼] キーを押して、PDF ファイルか TIF ファイルを選択してください。

メッセージ表示の「*」は、現在設定されていることを示しています。



- 7 [OK] キーを押してください。ファイル設定が終了します。

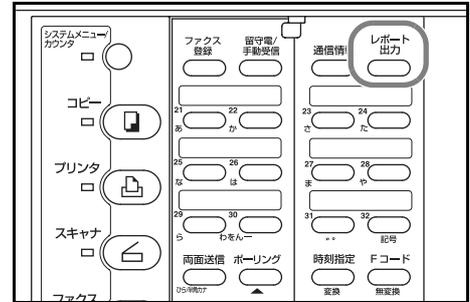
設定を終了するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

Network FAX 設定リストの出力のしかた

このリストには、Network FAX 受信の設定、自局出力の設定、保存フォルダ番号など Network FAX 機能に関する設定状態が記載されます。

参考 操作を途中で中止するときは、[リセット] キーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 カバープレートをし、[レポート出力] キーを押してください。



- 2 [▲] キーまたは [▼] キーを押して「NW-FAX 設定リスト」を選択してください。

レポート出力:
 通信予約確認レポート
 ユーザー設定リスト
 ➡ NW-FAX設定リスト

- 3 [OK] キーを押してください。NW-FAX 設定リストの出力が開始されます。
 メッセージ表示は初期モード画面に戻ります。

10 ご参考

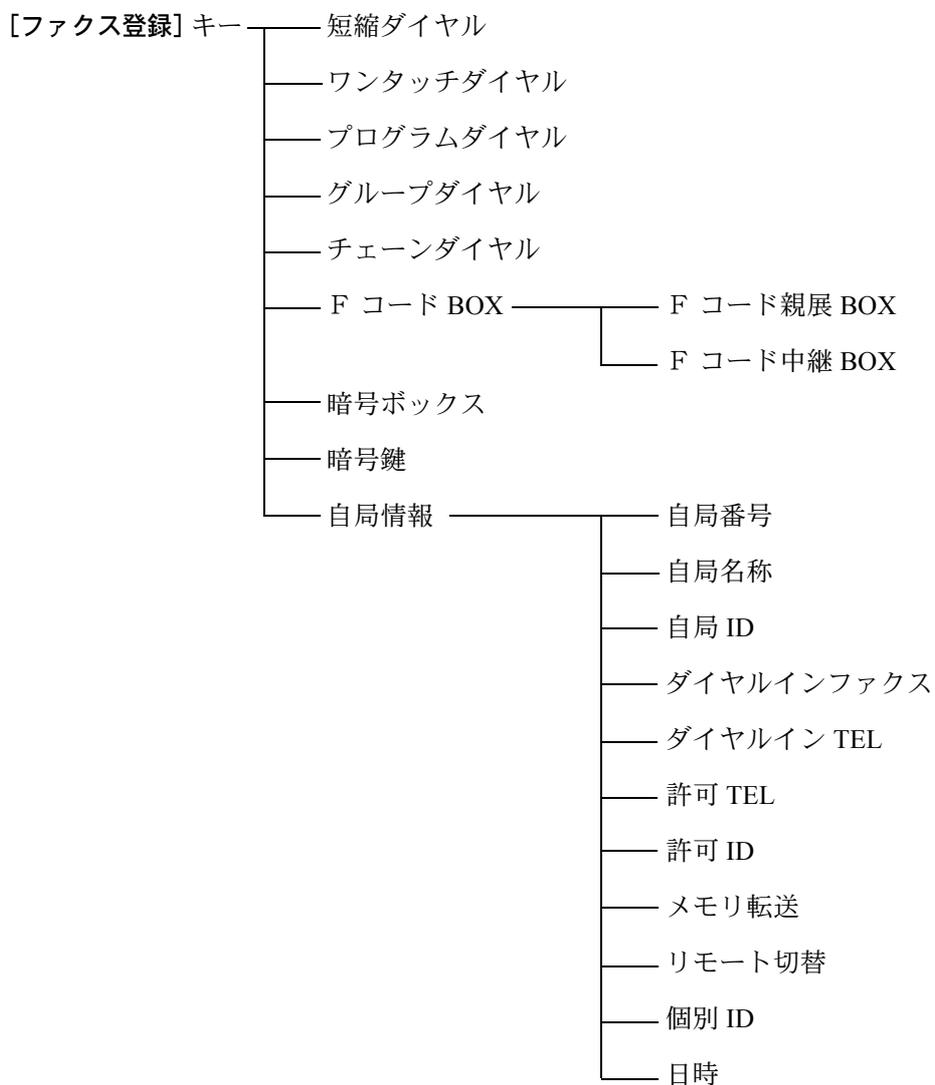
仕様

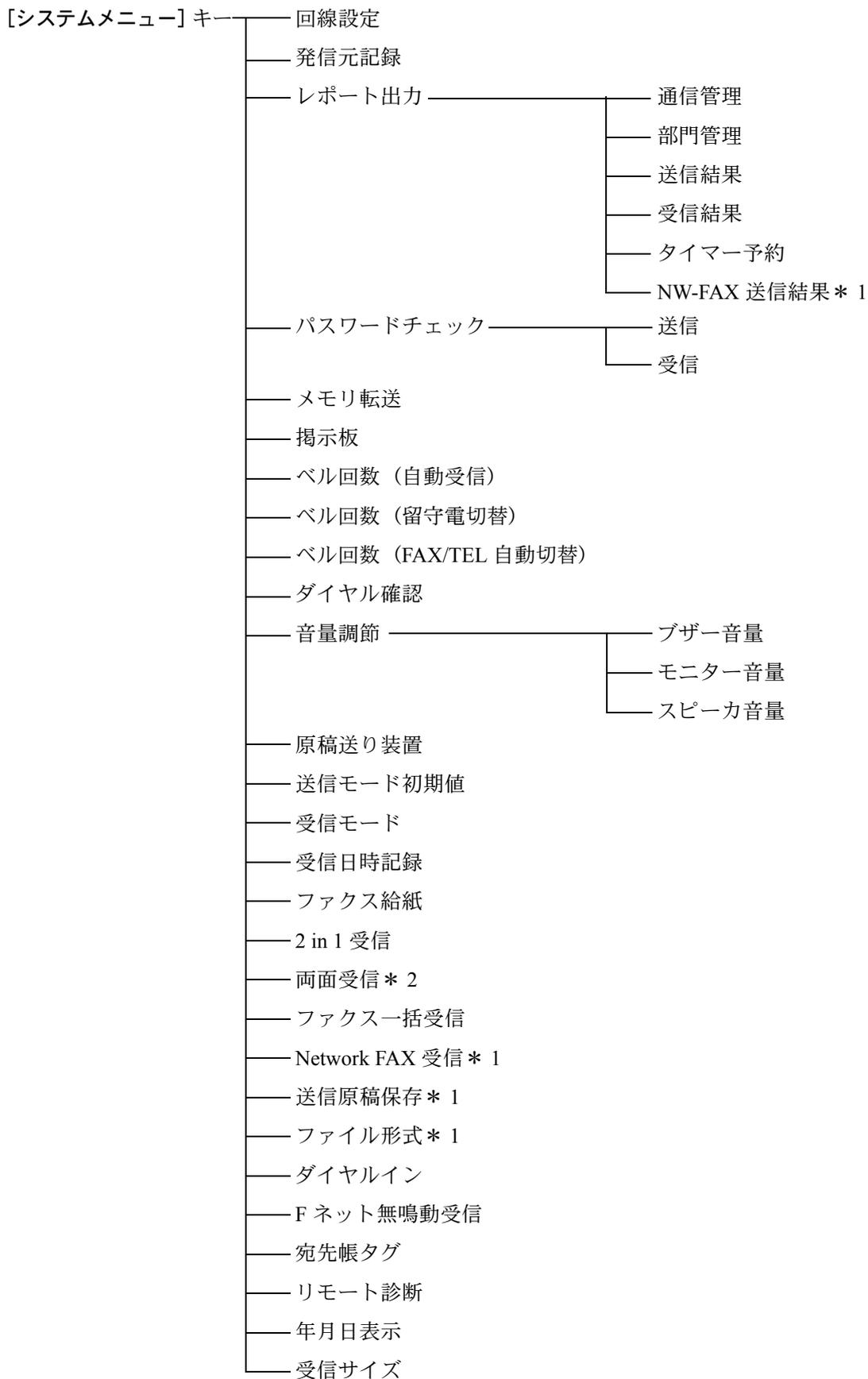
形式	オプション FAX キット
相互通信	G3
適用回線	加入電話回線、F ネット
伝送時間	3 秒未満 (33600bps, JBIG, ITU-T #1 chart)
伝送速度	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps
符号化方式	JBIG/MMR/MR/MH
誤り訂正	ECM
原稿サイズ	最大原稿幅：297mm、最大原稿長さ：1600mm
原稿自動給紙枚数	50 枚
走査線密度	主走査 × 副走査 ノーマル (8 dot/mm x 3.85 line/mm) ファイン (8 dot/mm x 7.7 line/mm) スーパーファイン (8 dot/mm x 15.4 line/mm) ウルトラファイン (16 dot/mm x 15.4 line/mm)
記録解像度	600 x 600 dpi
中間調	128 階調 (誤差拡散)
ワンタッチダイヤル	最大 32 宛先 (01 ~ 32)
短縮ダイヤル	最大 200 宛先 (000 ~ 199)
同報送信	最大 232 宛先
ポーリング受信	最大 232 宛先
ビットマップ展開用メモリ容量	4 MB
画像蓄積用メモリ容量	4 MB
直流抵抗値	370Ω (※本装置は、電話回線や地域などの条件によってはご使用になれない場合がございます。)
出力レポート類	通信管理レポート、通信予約確認レポート、ユーザー設定リスト、ワンタッチダイヤルリスト、短縮ダイヤルリスト、宛先帳リスト、プログラムダイヤルリスト、グループダイヤルリスト、暗号鍵リスト、部門管理レポート
オプション	ハンドセット、オプションメモリ (32MB)、ネットワークスキャナ

機械の仕様は予告なく変更されることがあります。

メニュー構成一覧

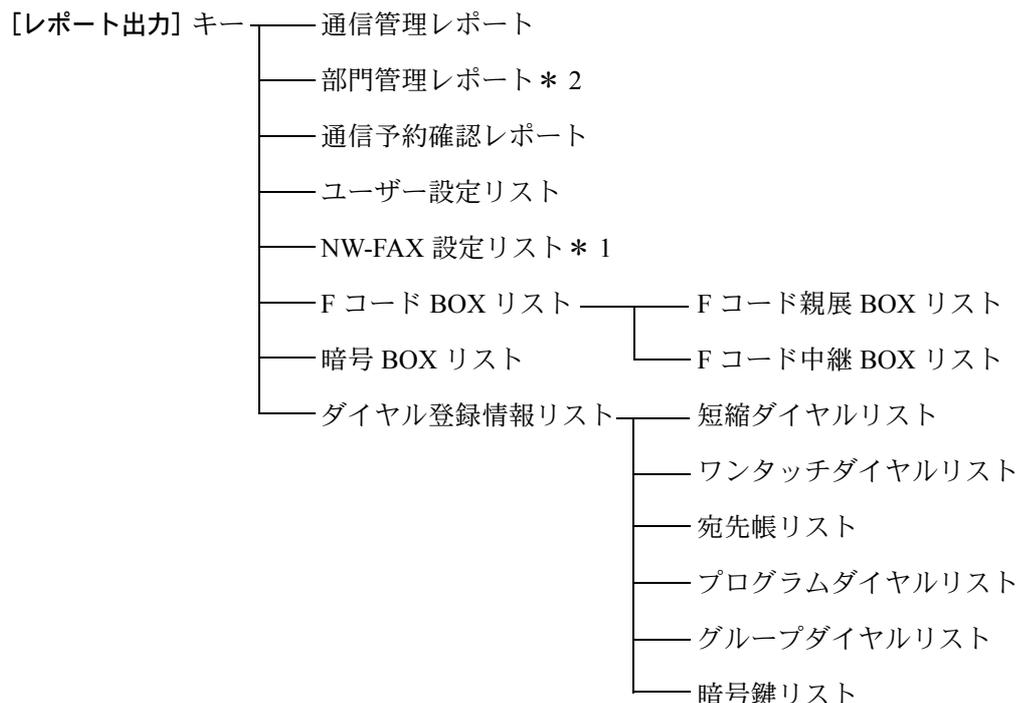
操作パネル上の各機能キーを押したときのメニュー構成は、以下の通りになっています。ファクスを使用する上での参考にしてください。





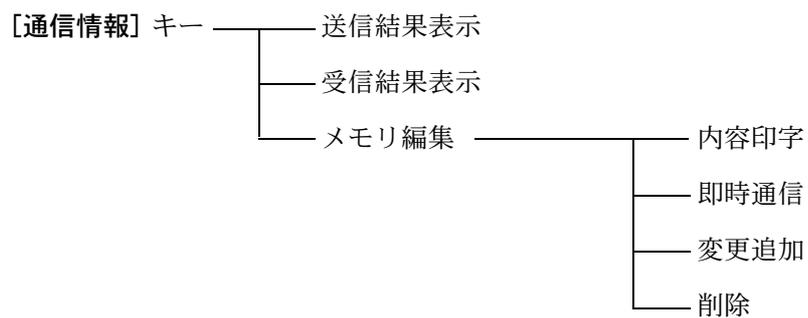
* 1: ネットワークスキャナ装着時

* 2: 自動両面ユニット装着時



* 1：ネットワークスキャナ装着時

* 2：部門管理が ON の時



出荷値設定一覧表

本機で設定可能な項目の工場出荷時の設定は下表の通りです。

項 目	設 定 範 囲	出荷時設定値
回線	プッシュ回線、ダイヤル回線 10PPS、 ダイヤル回線 20PPS	プッシュ回線
通信管理レポート出力	ON、OFF	ON
部門管理レポート出力	ON、OFF	ON
送信結果レポート出力	ON、OFF、特定条件時のみ出力	特定条件時のみ出力
受信結果レポート出力	ON、OFF、特定条件時のみ出力	OFF
タイマー予約レポート出力	ON、OFF	ON
NW-FAX 送信レポート※ ¹	ON、OFF、特定条件時のみ出力	特定条件時のみ出力
発信元記録	原稿外側、原稿内側、印字なし	原稿外側
パスワードチェック送信	ON、OFF	OFF
パスワードチェック受信	ON、OFF	OFF
メモリ転送	ON、OFF	OFF
掲示板	原稿保持、原稿消去	原稿保持
ベル回数 (ファクス受信用)	1 ~ 15 回	2 回
ベル回数 (留守番電話接続用)	1 ~ 15 回	15 回
ベル回数 (FAX/TEL 自動切替用)	0 ~ 15 回	0 回
ブザー音量	OFF、小、大	小
モニタ音量	OFF、小、中、大	中
スピーカ音量	OFF、小、中、大	小
原稿送り装置読み込み	定形原稿、長尺原稿	定形原稿
送信モード初期値	メモリー送信、ダイレクト送信	メモリー送信
受信モード	ファクス受信、FAX/TEL 自動切替	ファクス受信
受信日時記録	ON、OFF	OFF
ファクス給紙段	自動選択、サイズ固定、カセット段固定	自動選択
2 in 1 受信	ON、OFF	OFF
両面受信※ ²	ON、OFF	OFF
Network-FAX 受信※ ¹	OFF、ON(自局出力 ON)、ON(自局出力 OFF)	OFF
送信原稿保存※ ¹	ON、OFF	OFF
ファイル形式※ ¹	PDF、TIFF	PDF
ダイヤルイン	ON、OFF	OFF
リモート診断	ON、OFF	OFF
年月日表示	漢字、アルファベット、数字	漢字
F ネット無鳴動受信	ON、OFF	OFF
リモート切替ダイヤル	任意の 2 桁の数字 (00 ~ 99)	55
個別 ID	任意の 4 桁の数字 (0000 ~ 9999)	0000
受信サイズ	縮小優先、等倍優先	等倍優先
ファクス一括受信	ON、OFF	OFF

※¹: ネットワークスキャナ (オプション) 装着時のみ設定可

※²: 両面ユニット (オプション) 装着時のみ設定可

受信サイズと出力用紙優先順位表

受信した原稿のサイズと、同サイズ同方向の用紙がカセットにセットされていない場合、本機が印字出力の際に自動で選択する用紙の優先順位は以下の通りです

		受信サイズ					
		A5	B5	A4R	A4	B4	A3
記 録 紙	①	*1 A5R	B5	A4R	A4	B4	A3
	②	A4R	*1 B5R	*1 A4	*1 A4R	A3	A4
	③	*1 A4	B4	A3	A3	B5	*1 A4R
	④	B5	A4	B4	*1 B4	*1 B5R	*1 B4
	⑤	*1 B5R	*1 A4R	*1 A5R		A4	
	⑥	A3	A3	B5		*1 A4R	
	⑦	B4		*1 B5R			

<表のみかた>

*1：回転受信を示しています。

□ は2枚の用紙に分割して出力されることを示しています。

区点コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9						
0100											0350	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	0600	A	B	Г	Δ	E	Z	H	Θ	I								
0110	!	”	。	、	、	、	、	、	、	、	0360				a	b	c	d	e		0610	K	Λ	M	N	Ξ	O	Π	Ρ	Σ	T							
0120	ゞ	ゞ	ゞ	〃	全	々	メ	○	—	—	0370	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	0620	Υ	Φ	X	Ψ	Ω											
0130	-	/	\	~			…	…	”		0380	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	0630			α	β	γ	δ	ε	ζ	η							
0140	“	”	()	[]	{	}			0390	z									0640	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ							
0150	<	>	《	》	「	」	『	』	【	】	0400	あ	あ	い	い	う	う	え	え	お		0650	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω									
0160	+	-	±	×	÷	=	≠	<	>	≦	0410	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ	0660																
0170	≧	∞	∴	♂	♀	°	′	″	℃	¥	0420	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ	0670																
0180	\$	¢	£	%	#	&	*	@	§	☆	0430	ぞ	た	だ	ち	ぢ	っ	つ	づ	て	で	0680																
0190	★	○	●	◎	◇						0440	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ば	0690																
0200	◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒		0450	ひ	び	び	ふ	ぶ	ぶ	へ	べ	べ	ほ	0700	A	B	B	Г	Д	E	Ё	Ж	З							
0210	→	←	↑	↓	=						0460	ぼ	ぼ	ま	み	む	め	も	や	や	ゆ	0710	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С						
0220								ε	≡	≦	≧										0720	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы							
0230	∩	∪									0470	ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ	わ		0730	Ь	Э	Ю	Я												
0240	∧	∨	↗	⇒	⇔	∇	∃				0480	ぬ	糸	を	ん						0490																	
0250											0500	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ	エ	エ	オ	0740																	a
0260	∠	⊥	∩	∅	∇	≡	≠	≪	≫	√	0510	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ	0750	б	в	г	д	e	ё	ж	з	и	й						
0270	∞	∞	∴	∫	∫						0520	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ	0760	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у						
0280	Å	%	#	b	♪	†	‡	¶			0530	ゾ	タ	チ	チ	ツ	ツ	テ	デ		0540	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ							
0290											0540	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ	0550	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	ブ	ヘ	ベ	ペ	ホ						
0300											0550	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	ブ	ヘ	ベ	ペ	ホ	0560	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ							
0310									0	1	2	3									0570	ユ	ヨ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ウ	ワ							
0320	4	5	6	7	8	9					0580	キ	エ	ラン	ヴ	カ	ケ				0590																	
0330									A	B	C	D	E	F	G																							
0340	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q																												
0850											1100										1350																	
0860											1110											1360																
0870											1120											1370																
0880											1130											1380																
0890											1140											1390																
0900											1150											1400																
0910											1160											1410																
0920											1170											1420																
0930											1180											1430																
0940											1190											1440																
0950											1200											1450																
0960											1210											1460																
0970											1220											1470																
0980											1230											1480																
0990											1240											1490																
1000											1250											1500																
1010											1260											1510																
1020											1270											1520																
1030											1280											1530																
1040											1290											1540																
1050											1300	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	1550																	
1060											1310	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	1560																	
1070											1320	⑳	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	1570																
1080											1330	X									1580																	
1090											1340										1590																	

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
ア	1600	垂	唾	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢	カ	1850	禍	禾	稼	箇	花	苟	茄	荷	華	菓	キ	2100	機	婦	毅	氣	汽	畿	祈	季	稀		
	1610	葵	茜	穉	惡	握	渥	旭	葦	芦		鱗	1860	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄		峨	2110	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
	1620	梓	庄	幹	扱	宛	姐	虻	飴	絢		綾	1870	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓		駕	2120	鬼	龜	偽	儀	妓	宜	戲	技	擬	欺
	1630	鮎	或	栗	裕	安	庵	按	暗	案		闇	1880	介	会	解	回	塊	廻	廻	快	怪		悔	2130	犧	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	1640	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	困	夷		委	1890	恢	懷	戒	拐	改								2140	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍
イ	1650	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異	1900	魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥	ク	2150	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸		
	1660	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医	1910	蟹	開	階	貝	凱	効	外	咳	害		崖	2160	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球	
	1670	井	亥	域	育	郁	磯	一	壺	溢	逸	1920	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸		湮	2170	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居	
	1680	稻	茨	芋	鯛	允	印	咽	員	因	姻	1930	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	鈎	嚇	各		廓	2180	巨	拒	拋	拳	渠	虚	許	距	鋸	漁	
	1690	引	飲	淫	胤	蔭						1940	扞	攬	格	核	殼	獲	獲	穫	覺		角	2190	禦	魚	亨	亨	京						
1700	院	陰	隱	韻	吋	右	宇	烏	羽		1950	赫	較	郭	閣	隔	革	芋	岳	衆	額	2200	供	俠	僑	兇	競	共	凶	協	匡				
ウ	1710	迂	雨	卯	鶻	窺	丑	確	白	渦	嘘	1960	顎	掛	笠	檉	樞	楓	鯁	淵	割	喝	ケ	2210	卿	叫	喬	境	峽	強	疆	怯	恐	恭	
	1720	唄	鬱	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閨	噂	1970	恰	括	活	渴	滑	葛	轄	旦	鯉	2220		挾	教	橋	況	狂	狹	矯	胸	脅	興		
	1730	云	運	雲	荏	餌	叡	營	嬰	影	映	1980	叶	椳	樺	靴	株	兎	電	蒲	釜	鎌		2230	蕎	郷	鏡	響	響	驚	仰	凝	堯	曉	
エ	1740	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	穎	英	1990	啣	鴨	栢	茅	萱						2240	業	局	曲	極	玉	桐	秆	僅	勤	均		
	1750	衛	詠	銳	液	疫	益	駅	悦	謁	越	2000	粥	刈	苧	瓦	乾	冠	寒	刊		2250	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊			
	1760	闊	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨	2010	勘	勤	卷	喚	堪	完	官	寬	干	2260	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	九			
	1770	掩	援	沿	演	炎	焰	煙	燕	猿	緣	2020	幹	患	感	憤	憾	換	敗	柑	桓	棺	ク	2270	俱	句	区	狗	玖	矩	苦	軀	駟		
1780	艷	苑	菌	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥	2030	款	歛	汗	漢	潤	灌	環	甘	監	看	2280		駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅		
1790	凹	央	奧	往	応						2040	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	觀	2290		串	櫛	釧	屑	屈							
1800	押	旺	橫	欧	殴	王	翁	襖	鶯		2050	諫	賈	還	鑑	問	閑	閑	陷	韓	館	ケ		2300	掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	桑		
1810	鷗	黃	岡	冲	荻	億	屋	憶	臆	桶	2060	館	丸	含	岸	巖	玩	癌	眼	岩	斲		2310	栗	繰	桑	鋏	勲	君	薰	訓	群	軍		
1820	牡	乙	俺	卸	恩	温	穩	音	下	化	2070	匱	雁	頑	顔	願	企	伎	危	喜	器		2320	郡	卦	袈	袈	係	傾	刑	兄	啓	圭		
1830	仮	何	伽	伽	佳	加	可	嘉	夏	嫁	2080	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机		2330	珪	型	契	形	徑	患	慶	慧	憩	揭		
1840	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂	2090	旗	既	期	棋	棄							2340	携	敬	景	桂	溪	畦	稽	系	經	繼		

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
ケ	2350	繫	罽	荃	荊	蚩	計	詣	警	輕	頸	コ	2600	此	頃	今	困	坤	壘	婚	恨	懇	ク	2850	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺		
	2360	鷄	芸	迎	鯨	劇	戟	擊	激	隙	桁		2610	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	良	魂		些	2860	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱	
	2370	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件		2620	佐	又	峻	嗟	左	差	查	沙	磋		砂	2870	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種	
	2380	俟	倦	健	兼	券	劍	喧	圈	堅	嫌		2630	詐	鎖	娑	坐	座	挫	債	催	再		最	2880	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹	
	2390	建	憲	懸	拳	捲							2640	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	裁	歲		濟	2890	綬	需	囚	収	周						
	2400	檢	權	牽	犬	獻	研	硯	絹	梘			2650	災	采	犀	碎	砦	祭	齋	細	菜		裁	2900	宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋		
	2410	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	險	顛	驗		2660	載	際	劑	在	材	罪	財	牙	坂		阪	2910	終	繡	習	臭	舟	菟	衆	襲	讐	蹴	
	2420	齷	元	原	廠	幻	弦	減	源	玄	現		2670	堺	榭	肴	咲	崎	崎	崎	鷲	作		削	2920	輯	週	茜	酬	集	醜	什	住	充	十	
	2430	絃	絃	言	諺	限	乎	個	古	呼	固		2680	昨	搾	昨	柵	柵	窄	策	索	錯		桜	2930	從	戎	柔	汁	洩	獸	縱	重	銃	叔	
	2440	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐		2690	鮭	笹	匙	冊	刷							2940	夙	宿	淑	祝	縮	肅	塾	熟	出	術	
2450	糊	袴	股	胡	孤	虎	誇	跨	鈷	雇	2700	察	抄	撮	擦	札	殺	薩	雜	皐	2950	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循					
2460	顧	鼓	五	互	伍	午	吳	吾	娛	後	2710	鯖	捌	鑄	鮫	皿	晒	三	傘	參	山	2960	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵				
2470	御	悟	梧	檣	瑚	碁	語	誤	護	翻	2720	慘	撒	散	棧	燦	珊	産	算	纂	蚕	シ	2970	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒			
2480	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功	2730	讚	贊	酸	餐	斬	暫	殘	仕	仔	伺		2980	署	書	薯	諸	諸	助	叙	女	序	徐			
2490	効	勾	厚	口	向						2740	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿		2990	恕	鋤	除	傷	償								
2500	后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工		2750	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯		3000	勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	獎				
2510	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗	2760	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸		3010	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠			
2520	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構	2770	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌		3020	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶			
2530	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠	2780	諮	資	賜	雌	飼	齒	事	似	侍	兒		3030	松	梢	樟	樵	沼	消	涉	湘	燒	焦			
2540	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏	2790	字	寺	慈	持	時								3040	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧		
2550	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鈹	2800	次	滋	治	爾	壘	痔	磁	示	而			3050	紹	肖	萑	蔣	蕉	衝	裳	訟	証	詔			
2560	砧	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫	2810	耳	自	時	辞	汐	鹿	式	識	鳴	竺		3060	詳	象	賞	醬	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上			
2570	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	趨	克	刻	2820																									

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
シ	3100	拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食	ソ	3350	倉	喪	壯	奏	爽	宋	層	匠	惣	想	チ	3600	帖	帳	庁	弔	張	彫	徵	懲	挑		
	3110	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寢		審	3360	搜	掃	挿	搔	操	早	曹	巢	槍		槽	3610	暢	朝	潮	牒	町	眺	聽	脹	腸	蝶
	3120	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深		申	3370	漕	燥	争	瘦	相	窓	糟	総	綜		聡	3620	調	謀	超	跳	眺	長	頂	鳥	勅	抄
	3130	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親		診	3380	草	莊	葬	蒼	藻	装	走	送	遭		鎗	3630	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎
	3140	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵		壬	3390	霜	騷	像	增	憎								3640	槌	追	鎚	痛	通	塚	拇	搦	槻
3150	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	鞞	箭	諷	3400	臧	蔵	贈	造	促	側	則	即	息	ソ	3650	漬	柘	辻	薦	綴	鏑	椿	漬	坪	壺			
3160	須	酢	凶	厨	逗	吹	垂	帥	推	水	3410	捉	束	測	定	速	俗	属	賊	族		統	3660	孀	紬	爪	吊	釣	鶴	亭	低	停	偵		
3170	炊	睡	粹	翠	衰	遂	醉	錐	錘	随	3420	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村		遜	3670	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟		
3180	瑞	髓	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉	3430	他	多	太	汰	記	唾	墮	妥	惰		打	3680	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締		
3190	桴	管	頗	雀	裾						3440	柁	舵	橈	陀	駄	駢	体	堆	对		耐	3690	艇	訂	諦	蹄	通							
3200	澄	摺	寸	世	瀬	敵	是	凄	制		3450	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滯	胎	テ	3700	邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴			
3210	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲	3460	腿	苔	袋	貸	退	遠	隊	黛	鯛	代		3710	的	笛	適	籍	溺	哲	徹	徹	迭			
3220	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製	3470	台	大	第	醒	題	鷹	滝	瀧	卓	啄		3720	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼		
3230	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	齐	税	3480	宅	托	拓	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁		3730	軫	顛	点	伝	殿	澁	田	電	兎	吐		
3240	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積	3490	諾	苜	蛸	只								3740	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	菟			
3250	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙	3500	叩	但	達	辰	奪	脱	巽	豎	迥		3750	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴			
3260	接	損	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌	3510	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	单	嘆	坦	3760	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套			
3270	蝉	仙	先	千	占	宣	專	尖	川	戰	3520	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	筆	3770	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	栲	棟			
3280	扇	撰	栓	柁	泉	浅	洗	染	潜	煎	3530	綻	耽	胆	誕	鍛	団	壇	彈	断		3780	盜	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	禱	等			
3290	煽	旋	穿	箭	線						3540	暖	檀	段	男	談	値	知	地	弛	恥	ト	3790	答	筒	糖	統	到							
3300	織	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	踐		3550	智	池	痴	稚	置	致	蚰	遲	馳	築		3800	董	蕩	藤	討	騰	豆	踏	逃	透			
3310	選	遷	錢	銑	閃	鮮	前	善	漸	然	3560	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着		3810	鎧	陶	頭	騰	鬪	働	動	同	堂	導		
3320	全	禪	繕	膳	糰	嚼	塑	岨	措	會	3570	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷		3820	懂	撞	洞	瞳	童	桐	苟	道	銅	峠		
3330	曾	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素	3580	註	耐	鑄	駐	樽	瀕	猪	苧	苧	貯		3830	錫	匿	得	徳	洩	特	督	禿	篤	毒		
3340	組	蘇	訴	阻	遯	鼠	僧	創	双	叢	3590	丁	兆	凋	喋	寵						3840	独	誦	柝	椽	凸	突	椽	届	鳶	苫			

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
ト	3850	寅	酉	瀕	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁	ヒ	4100	鼻	稔	匹	疋	髭	彦	膝	菱	ホ	4350	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔		
	3860	頓	呑	曇	鈍	奈	那	内	乍	瓜	薙		4110	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫		媛	紐	4360	本	翻	凡	盆	摩	磨	魔	麻	埋	妹
ナ	3870	謎	灘	捺	鍋	槽	馴	縄	躑	南	楠	マ	4120	百	謬	彪	彪	標	氷	漂	瓢	票	表	マ	4370	昧	枚	每	哩	禩	幕	膜	枕	鮪	枉
	3880	軟	難	汝	二	尼	弑	迓	勾	脈	肉		4130	評	豹	廟	描	猫	秒	苗	錨	鋏	蒜		4380	鱒	榭	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	仄
ニ	3890	虹	廿	日	乳	入					4140	蛭	鱧	品	彬	斌	瀕	貧	實	頻		4390	繭	磨	万	慢	滿								
又	3900	如	尿	蕪	任	妊	忍	認	濡	襦	襦	4150	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	富	布	4400	漫	蔓	味	未	魅	巳	箕	岬	密			
ネ	3910	祢	寧	葱	猫	熱	年	捻	燃	燃	ミ	4160	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐	4410	蜜	湊	蓑	捻	脈	妙	耗	民	眠	務		
	3920	粘	乃	迺	之	埜	囊	惱	濃	納		能	4170	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫	4420	夢	無	牟	矛	霧	鷓	掠	婿	娘	冥	
ノ	3930	腦	膿	農	覗	蚤	巴	把	播	霸	杷	4180	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蔭	4430	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	牲	牝	滅		
ハ	3940	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	痲	フ	4190	伏	副	復	幅	服					4440	免	棉	綿	緬	面	麵	摸	模	茂	妄		
	3950	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配		4200	福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏	4450	孟	毛	猛	盲	綱	耗	蒙	儲	木	默		
	3960	倍	培	媒	梅	煤	煤	狼	買	売	賠		4210	物	鮒	分	吻	墳	憤	扮	焚	奮	モ	4460	目	李	勿	餅	尤	戾	糞	問	悶		
	3970	陪	這	蠅	秤	矧	菽	伯	剥	博	拍		4220	粉	糞	紛	雰	文	聞	丙	併	兵	塀	4470	紋	門	匆	也	冶	夜	爺	耶	野	弥	
	3980	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠		4230	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁	4480	矢	厄	役	約	藥	詛	躍	靖	柳	藪	
3990	爆	縛	莫	駁	麥						4240	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	篋	偏	變	ヤ	4490	鑊	愉	愈	油	癒							
4000	函	箱	裕	筍	肇	筍	櫛	幡	肌		4250	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	婉	弁	4500	論	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽				
4010	畑	畠	八	鉢	浼	兇	醜	髮	伐	罰	4260	鞭	保	舖	鋪	圃	捕	步	甫	補	輔	コ	4510	悠	憂	損	有	袖	湧	涌	猶	猷	由		
4020	拔	筏	閱	鳩	嘶	塙	蛤	隼	伴	判	4270	穗	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣	4520	祐	裕	誘	遊	邑	郵	融	夕	予				
4030	半	反	叛	帆	搬	斑	板	汜	汎	版	4280	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖	4530	余	与	譽	輿	預	備	幼	妨	容	庸			
4040	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	采	煩	4290	抱	捧	放	方	朋						4540	揚	搖	擁	曜	楊	樣	洋	溶	浴	用			
4050	煩	飯	挽	晚	番	盤	盤	蕃	壘	匪	4300	法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬		コ	4550	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	遙	陽			
ヒ	4060	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐	4310	蜂	褒	訪	豐	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏	4560	養	慾	抑	欲	沃	浴	翼	翌	淀	羅		
	4070	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥</																									

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
7050	耙	耜	耨	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聒	7300	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	7550	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨
7060	聚	聳	聳	聳	聳	聳	聳	聳	聳	聳	7310	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	7560	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨
7070	聿	聿	聿	聿	聿	聿	聿	聿	聿	聿	7320	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	7570	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨
7080	胛	胛	胛	胛	胛	胛	胛	胛	胛	胛	7330	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	蕁	7580	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨	誨
7090	脛	脛	脛	脛	脛	脛	脛	脛	脛	脛	7340	虬	虬	虬	虬	虬	虬	虬	虬	虬	虬	7590	證	證	證	證	證	證	證	證	證	證	證
7100	隋	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	7350	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	7600	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓
7110	腦	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	腴	7360	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	蚶	7610	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓	讓
7120	腔	腔	腔	腔	腔	腔	腔	腔	腔	腔	7370	蜀	蜀	蜀	蜀	蜀	蜀	蜀	蜀	蜀	蜀	7620	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐
7130	臂	膺	膺	膺	膺	膺	膺	膺	膺	膺	7380	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	7630	狸	狸	狸	狸	狸	狸	狸	狸	狸	狸	狸
7140	癢	臧	臧	臧	臧	臧	臧	臧	臧	臧	7390	蝴	蝴	蝴	蝴	蝴	蝴	蝴	蝴	蝴	蝴	7640	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳
7150	舍	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	7400	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	7650	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈
7160	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	舐	7410	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	7660	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈
7170	艷	艷	艷	艷	艷	艷	艷	艷	艷	艷	7420	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	7670	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈
7180	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	7430	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	蝮	7680	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈
7190	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	苞	7440	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	7690	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈	賈
7200	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	茵	7450	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	衮	7700	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇
7210	伏	芒	芒	芒	芒	芒	芒	芒	芒	芒	7460	袍	袍	袍	袍	袍	袍	袍	袍	袍	袍	7710	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇
7220	莫	莎	莎	莎	莎	莎	莎	莎	莎	莎	7470	裝	裝	裝	裝	裝	裝	裝	裝	裝	裝	7720	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇
7230	葭	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	7480	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	7730	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇	蹇
7240	葭	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	7490	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	裋	7740	軾	軾	軾	軾	軾	軾	軾	軾	軾	軾	軾
7250	葭	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	7500	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	襦	7750	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻
7260	葭	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	7510	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	7760	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻
7270	葭	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	7520	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	覈	7770	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻	輻
7280	葭	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	菴	7530	訃	訃	訃	訃	訃	訃	訃	訃	訃	訃	7780	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓
7290	蓼	蓼	蓼	蓼	蓼	蓼	蓼	蓼	蓼	蓼	7540	詒	詒	詒	詒	詒	詒	詒	詒	詒	詒	7790	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓	迓

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
7800	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	遏	8050	醜	醜	醜	醜	醜	醜	醜	醜	醜	醜	8300	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	
7810	遞	遞	遞	遞	遞	遞	遞	遞	遞	遞	8060	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	8310	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	
7820	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	8070	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	鞅	8320	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	
7830	鄂	鄂	鄂	鄂	鄂	鄂	鄂	鄂	鄂	鄂	8080	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	韶	8330	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	鵝	
7840	酥	酥	酥	酥	酥	酥	酥	酥	酥	酥	8090	顏	顏	顏	顏	顏	顏	顏	顏	顏	顏	8340	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	
7850	醞	醞	醞	醞	醞	醞	醞	醞	醞	醞	8100	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	顛	8350	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	麩	
7860	鈞	鈞	鈞	鈞	鈞	鈞	鈞	鈞	鈞	鈞	8110	飭	飭	飭	飭	飭	飭	飭	飭	飭	飭	8360	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	
7870	鈕	鈕	鈕	鈕	鈕	鈕	鈕	鈕	鈕	鈕	8120	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	8370	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	
7880	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	8130	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	饒	8380	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	
7890	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	鈹	8140	馮	馮	馮	馮	馮	馮	馮	馮	馮	馮	8390	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	黠	
7900	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	錙	8150	駟	駟	駟	駟	駟	駟	駟	駟	駟	駟	8400	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	
7910	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	8160	驅	驅	驅	驅	驅	驅	驅	驅	驅	驅													
7920	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	8170	驢	驢	驢	驢	驢	驢	驢	驢	驢	驢													
7930	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	鍤	8180	體	體	體	體	體	體	體	體	體	體													
7940	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	8190	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻													
7950	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	鑿	8200	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻	髻													
7960	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	8210	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱	閱													
7970	闈	闈	闈	闈	闈	闈	闈	闈	闈	闈	8220	魎	魎	魎	魎	魎	魎	魎	魎	魎	魎													
7980	關	關	關	關	關	關	關	關	關	關	8230	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													
7990	陌	陌	陌	陌	陌	陌	陌	陌	陌	陌	8240	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													
8000	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	陟	8250	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													
8010	險	險	險	險	險	險	險	險	險	險	8260	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													
8020	雉	雉	雉	雉	雉	雉	雉	雉	雉	雉	8270	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													
8030	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	8280	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													
8040	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	霽	8290	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓	鮓													

エラーコード一覧表

通信エラーが発生すると、送信／受信結果レポートや通信管理レポートには、以下のよう
なエラーコードが記録されます。以下の内容を確認してください。

参考 V34 で送った場合エラーコードの“U”は“E”になります。

エラーコード	原因及び処置方法
Busy	設定されている回数の自動リダイヤルが行われたにもかかわらず、相手先と回線がつながりません。もう一度送信または受信の操作をやりなおしてください。
Stop	送信中に [ストップ / クリア] キーが押されたため、送信が中断されました。 受信中に [ストップ / クリア] キーが押されたため、受信が中断されました。 マルチ通信中（ポーリング受信など）に中断操作を行ったため、それ以降の相手先へのダイヤルが行われませんでした。
U00300	送信中に相手機側（受信側）で記録紙切れが発生しました。相手先を確認してください。
U00420 - U00462	相手先からの受信の際に、回線はつながったが相手機側（送信側）と通信機能に不一致があったため、受信が中断されました。
U00600 - U00690	自機の不具合により、通信が中断されました。もう一度送信または受信しなおしてください。
U00700	相手機側の不具合により、通信が中断されました。相手先を確認してください。
U00800 U00810	正しく送信できなかったページがあります。もう一度送信しなおしてください。
U00900 U00910	正しく受信できなかったページがあります。もう一度受信しなおしてください。
U01000 - U01092	送信中に通信エラーが発生しました。もう一度送信しなおしてください。
U01100 - U01199	受信中に通信エラーが発生しました。もう一度受信しなおしてください。
U01400	時刻指定をして通信を予約した際に、相手先の番号を短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルなどの自機に登録されている番号を使って入力していたが、指定した時刻が来て、機械がダイヤルを開始した時点で、その番号が自機に登録されていないため、該当する相手先との通信ができませんでした。自機を確認してください。
U01500	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信を行ってみてください。
U01600	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げてもらってもう一度送信してもらってください。
U01700 U01720	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信を行ってみてください。

エラーコード	原因及び処置方法
U01721	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。相手先に使用した送信速度が無いかもしれません。短縮ダイヤルやワンタッチダイヤルで送信を行うときは送信開始速度を中速か低速に下げてもう一度送信してください。
U01800 - U01820	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げてもらってもう一度送信してもらってください。
U01821	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。本機に使用した送信速度が無いかもしれません。相手先の送信速度を下げてもらってもう一度送信してもらってください。
U02200	Fコード中継指示送信を中継機で受信したが最終相手先がFコード中継ボックスに指定されていないため送信できません。Fコード中継ボックスを確認し、もう一度送信開始機に送信を行ってもらってください。
U02400	Fコード中継指示送信を中継機で受信したが送信先で入力されたパスワードとFコード中継ボックスのFコードパスワードが一致しないため通信エラーになりました。Fコード中継ボックスを確認し、もう一度送信開始機に送信を行ってもらってください。
U03000	ポーリング受信機能を使って原稿を受信しようとしたが、相手先の機械に原稿がセットされていなかったため、受信できませんでした。相手先を確認してください。
U03200	相手機が弊社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコード親展ボックスには何も入ってなかった。相手先を確認してください。
U03300	次の(1)と(2)のどちらかが原因でエラーとなりました。相手先を確認してください。 (1) 相手機が弊社機である場合に、ポーリング受信機能を使って相手先から原稿を受信しようとしたが、相手機側でパスワード通信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、通信が中断された。 (2) 相手機が弊社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、相手機側でパスワード通信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、通信が中断された。
U03400	ポーリング受信で相手先から原稿を受信しようとしたが、相手先で入力されたパスワードと受信側の自局IDが一致しなかったため、受信が中断されました。相手側を確認してください。
U03500	相手機が弊社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコード親展ボックスが相手機に登録されていませんでした。相手先を確認してください。相手先を確認してください。
U03600	相手機が弊社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコードパスワードが一致しなかったため、受信が中断されました。相手先を確認してください。
U03700	Fコード掲示板受信機能を使って相手先から原稿を受信しようとしたが、相手機にFコード掲示板送信機能がないか、どの原稿受渡しボックス(Fコード親展ボックス)にも原稿が入ってなかった。

エラーコード	原因及び処置方法
U04000	相手機が弊社機である場合に、Fコード親展送信機能を使って相手先のFコード親展ボックスに原稿を送信しようとしたが、指定したFコード親展ボックスが相手機に登録されていなかった。
U04100	相手先の原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）に原稿を送信しようとしたが、相手機にはFコード親展受信機能がなかった。
U04200	暗号送信を行ったが、指定した相手先の親展ボックスが暗号通信用でないか、あるいは暗号ボックスに登録されていないため、送信が中断されました。
U04300	暗号送信を行ったが、相手先の機械には暗号通信機能がなかったため、送信が中断されました。
U04400	暗号送信を行ったが、暗号鍵が不一致であったため、送信が中断されました。
U04401	暗号送信を行ったが、暗号鍵が未登録であったため、相手先へのダイヤルが行われませんでした。
U04500	暗号受信を行ったが、暗号鍵が不一致であったため、受信が中断されました。
U05100	送信を行ったが、自機にパスワード送信の設定がされており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、送信が中断されました。相手先を確認してください。
U05200	相手先から原稿が送信されてきたが、自機にパスワード受信の設定がされており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、受信が中断されました。
U05300	送信を行ったが、相手先側でパスワード受信が設定されており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、相手先側から受信を拒否されました。相手先を確認してください。
U09000	相手側機と通信形態が異なる（相手側機はG2機）ため、通信できませんでした。
U12000	Fコード中継指示送信を中継機で受信したが、Fコード中継ボックスのメモリがいっぱいになりました。メモリに空きを確保してからもう一度送信開始機に送信を行ってもらってください。
U14000	Fコード親展ボックスへの受信が行われたが、自機のメモリオーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を出力しメモリをあけるか、Fコード親展受信をとり止めてください。
U14100	相手機が弊社機である場合に、相手先Fコードボックスへの送信を行ったが、相手機のメモリオーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。

エラーコード	原因及び処置方法
U19000	代行受信が行われたが、自機のメモリアーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を出力しメモリを空けてから、もう一度受信しなおしてください。
U19100	相手先への送信を行ったが、相手先の機械のメモリアーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19200	メモリ送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度この送信に関する操作をやりなおしてください。
U19300	送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度この送信に関する操作をやりなおしてください。
U19400	受信中にデータに異常が発生し、受信が中断されました。もう一度この受信に関する操作をやりなおしてください。

索引

あ	
宛先帳	2-34
宛先帳の使用	2-34
検索	2-34
宛先帳リスト	2-36
暗号鍵	5-61
暗号鍵の登録	5-62
暗号鍵の登録内容変更 / 削除	5-64
暗号鍵番号	5-61
暗号鍵リスト	5-71
暗号通信	5-61
暗号ボックスからの出力	5-70
暗号ボックスの登録	5-65
暗号ボックスの登録内容の変更 / 削除	5-66
暗号ボックスリスト	5-72
暗証番号	5-71
い	
一括送信機能	1-20
え	
エラーが発生したとき	4-1
エラーコード一覧表	10-14
エラーメッセージ	4-2
お	
オートクリア機能	1-14
オートスリープ機能	1-15
オプションメモリ	8-4
オンラインマニュアル	9-1
音量調整	7-8
か	
回転受信機能	1-22
回転送信機能	1-20
画像メモリバックアップ機能	1-21
管理レポート出力	6-3
き	
許可 ID 番号の登録	5-57
許可 ID 番号の変更 / 削除	5-58
許可 TEL 番号の登録	5-54
許可 TEL 番号の変更 / 削除	5-56

く	
区点コード表	10-8
区点入力	2-21
グループダイヤル	5-39
使いかた	5-42
登録	5-39
登録内容の変更と削除	5-41
グループダイヤルリスト	5-43
け	
掲示板設定	7-3
原稿送り装置	1-2、 2-3
原稿送り装置読込設定	7-10
原稿のセット	2-3
こ	
「故障かな？」と思ったら	4-4
コピー優先出力	2-14
個別 ID 登録	7-21
さ	
サブアドレス	5-15
し	
自局情報登録	1-9
時刻指定通信	3-8
自動送信	2-1
自動リダイヤル	2-37
受信結果の確認	6-2
受信サイズと出力用紙優先順位表	10-7
受信サイズ設定	7-22
受信日時記録設定	7-13
受信の中止	2-12
受信モード設定	7-12
出荷値設定一覧表	10-6
手動受信	3-23
手動送信	3-22
手動リダイヤル	2-37
順次同報送信	3-5
仕様	10-1
初期モード	1-13
せ	
全角英数大文字／小文字入力	2-19
全角漢字入力	2-17
そ	
操作パネル	1-3
送信カウンタの参照	5-73
送信結果の確認	6-1
送信原稿保存設定	9-5
送信モードの初期値設定	7-11
送信予約	3-3

た	
代行受信機能	1-21、 2-10
ダイヤルイン	5-5
ダイヤルイン FAX/TEL 番号の登録	5-5
ダイヤルイン設定	5-7
ダイヤル確認設定	7-7
ダイレクト送信の中止	2-12
短縮ダイヤル	2-28
使いかた	2-32
登録	2-28
登録内容の変更と削除	2-31
短縮ダイヤルリスト	2-33
ち	
チェーンダイヤル	3-10
使いかた	3-13
登録	3-10
登録内容の変更と削除	3-12
つ	
通信管理レポート	6-3
通信結果表示	6-1
通信原稿の印字	3-14
通信内容の変更	3-16
通信の削除	3-21
通信の即時実行	3-15
通信の中止方法	2-11
通信予約確認レポート	6-4
て	
デュアルアクセス機能	1-17
電源断レポート	4-1
電話回線種別の設定	1-7
に	
日時登録	1-11
ね	
年月日表示設定	7-19
は	
パスワードチェック通信	5-54
パスワードチェック通信設定	5-59
発信元記録設定	1-8
半角英数大文字／小文字入力	2-20
半角カタカナ入力	2-18
ハンドセット	8-1

ふ	
ファイル形式設定	9-6
ファクス給紙設定	7-14
ファクス受信一括出力設定	7-23
ファクス優先出力	2-14
部門管理機能	5-73
部門管理レポート	5-75
プログラムダイヤル	5-44
使いかた	5-52
登録	5-44
登録内容の変更と削除	5-51
プログラムダイヤルリスト	5-53
文書番号	1-14
へ	
ベル回数設定（ファクス専用自動受信）	7-4
ベル回数設定（FAX/留守番電話自動切替受信）	7-5
ベル回数設定（FAX/TEL自動切替受信）	7-6
ほ	
ポーリング受信	5-12
ポーリング送信	5-10
ポーリング通信	5-10
本体各部	1-1
め	
メニュー構成一覧	10-2
メモリ送信の中止	2-11
メモリ転送	5-35
転送先の登録	5-35
登録内容の変更	5-37
メモリ転送設定	5-38
メモリ編集	3-14
も	
文字の入力	2-15
ゆ	
ユーザー設定リスト	6-4
り	
リダイヤル	2-37
リモート切替機能	5-8
使いかた	5-9
リモート切替ダイヤルの登録	5-8
リモート診断設定	7-20
両面受信設定	8-3
両面送信	3-1
れ	
レポート出力設定	7-1

わ	
割込送信	3-7
ワンタッチダイヤル	2-22
使いかた	2-26
登録	2-22
登録内容の変更と削除	2-25
ワンタッチダイヤルリスト	2-27
数字	
2 in 1 受信設定	7-16
アルファベット	
F コード	5-15
F コード掲示板受信	5-26
F コード親展ボックスからの出力	5-22
F コード親展ボックスの登録	5-17
F コード親展ボックスの登録内容の変更 / 削除	5-18
F コード親展ボックスへの原稿の入力	5-24
F コード親展ボックスリスト	5-23
F コード親展送信	5-20
F コード親展通信	5-17
F コード中継同報指示送信	5-27
F コード中継ボックスの登録	5-27
F コード中継ボックスの登録内容の変更 / 削除	5-30
F コード中継ボックスリスト	5-34
F コード通信	1-21、5-15
F コードパスワード	5-15
F コードボックス	5-16
F ネット無鳴動受信機能	1-22
F ネット無鳴動受信設定	7-17
FAX 専用自動受信	2-9
FAX/留守番電話自動切替受信	5-3
FAX/TEL 自動切替受信	5-1
Network FAX 機能 (オプション)	1-16、9-1
Network FAX 受信設定	9-4
Network FAX 設定リスト	9-7

本機器は社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会が定めた複写機及び類似の機器の高調波対策ガイドライン（家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに準拠）に適合しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

**QUALITY
CERTIFICATE**

この製品はすべての品質管理および最終検査に合格しました。

